

ソーシャルアントレプレナーシップとビジネスモデル

更新日：2023/01/10 08:58:54

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0010A	科目コード	S0010
担当教員	渡邊 さやか						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

ソーシャル・アントレプレナーシップに関わる歴史と国内外の事例や支援・各支援機関や研究機関の取り組みなどについて幅広く学ぶことで、自分自身が事業を起こすにあたってのロールモデルを得たり、イノベーターたちからビジネスモデル構築について学ぶ。
また、日本とは異なる国や地域のソーシャル・イノベーションの状況やエコシステムについても知ることで、地域としての共通・差異について知り、エコシステム構築の際の参考となる知識を得る。

授業のねらい

先駆者たちから実際にイノベーションを起こすにあたっての体験を学び、その体験を理解することで、自分自身の実践に活かす狙いがある。
授業を通じて学生は、各地におけるソーシャル・イノベーションの事例だけでなく、どのように各地域において地域性をもった起業家支援エコシステムが構築されていったのかを理解し、自分自身が事業構築やプロジェクト組成をしていく際にも、エコシステムを意識して事業を構築し、協力者を得ていくことができるようになる。また、地域ごとに異なる点があっても、国を越えての類似や共通点からの学びを得て、日本に持ち込むことも可能となる。

到達目標

教授方法

国内外のソーシャル・アントレプレナーやそれを支援するアクターの事例からビジネスモデル構築について学ぶと共に、実践者たちがどのようにソーシャル・イノベーションを創出しているのかについて事例と議論を通じて理解を深め、自身の実践に活かせるようにする。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	ソーシャル・イノベーションに関する世界のエコシステムについて（歴史・プレイヤー・現状）
2	アジアのソーシャル・イノベーションの現場：タイの起業家支援を行う組織と社会起業家からの学び
3	アフリカのソーシャル・イノベーションの現場：ルワンダの起業家支援と社会起業家からの学び
4	アメリカのソーシャル・イノベーションの現場：アメリカのフィランソロピーの視点から
5	ヨーロッパのソーシャル・イノベーションの現場：イギリスのソーシャル・イノベーション研究所の視点から
6	オーストラリアのソーシャル・イノベーションの現場：デザインとソーシャル・イノベーションの事例
7	まとめ：ソーシャル・アントレプレナーシップとビジネスモデル

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
発表	30	事例を学んだ上で、自分ごとになってきているか
授業への取組	30	積極的に質問や発言をしているか
レポート	40	講義全体の理解の深さ
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事例について事前課題を読んだ上で、質問ができるようにしておくこと

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

講義まえに連絡する。

受講生に臨むこと
積極的な講義への参加
その他・特記事項
特になし。

経営組織論

更新日：2023/01/10 08:59:34

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0020A	科目コード	S0020
担当教員	東 俊之						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

経営組織とは、企業などの目的を達成のために複数の人々が分業し、協働するシステムのことである。こうした経営組織は、持続可能な社会を実現するうえで必須の存在である。

そこで本講義は、経営組織についての基礎的・応用的な知識を身につけることで実践的なマネジメント能力を向上させることを目的としている。

経営組織論の理論をすべて網羅することは難しいが、なるべく持続可能な社会を実現する上で不可欠な、

- ①環境（社会）と組織との相互作用、
- ②社会問題解決のための組織間関係構築、
- ③ソーシャル・イノベーションを実現する組織構造や組織文化などを、理論および事例を通じて理解していく。

また講義だけでなく、個人で実際の事例を分析し、それをもとにディスカッションする時間を設けることで、より実践的な能力を涵養する。

授業のねらい

本講義では、ソーシャル・イノベーターに必要な経営組織論の基礎的な知識を身につけ、持続可能な社会を実現するために不可欠なマネジメント実践能力を向上させることが主目的目標である。

到達目標

1	組織とは何かを理解し、持続可能な社会を実現するための組織マネジメント方法を説明できる
2	環境と組織の関係性を理解し、自らが社会を変革するビジョンを提示することができる
3	組織間関係を理解し、社会問題解決のために他組織と協働・共創するためのマネジメントを実践できる
4	組織を変革する方法を理解し、変革するために必要な能力を説明することができる
5	経営組織論の理論を十分に理解し、修了時のリサーチ・ペーパー作成に活用することができる

教授方法

双方向型オンラインによる講義が主であるが、各回とも学生間および学生と教員間でディスカッションを行う（オンライン会議用ツールを利用）。各回とも、講義60分、ディスカッション40分の割合で実施する。

履修条件

特に条件は求めないが、「組織」に興味があることが最低限必要である。

授業計画

1	【ガイダンス】 授業概要を説明し、特に組織理論を学ぶことの必要性を十分に理解する。また、経営学における経営組織論に位置づけを解説する。※教科書「第1章 なぜ組織理論を学ぶのか」を熟読の上、授業に臨むこと。
2	【組織の定義】 組織論の対象である「組織」とは何かについて、定義と概念を検討する。バーナード、サイモンらの諸概念から、組織の概要を把握する。※教科書「第2章 組織の定義」を熟読の上、授業に臨むこと。
3	【組織と環境】 環境とは何かを検討し、オープンシステムである組織を理解する。特に、環境の範囲と環境の分類の詳細を把握する。※教科書「第3章」および「第4章」を熟読の上、授業に臨むこと。
4	【環境への働きかけ】 外部環境によって組織の自由裁量が制限される可能性について考えるとともに、一方で環境変化への適合するための意思決定について検討する。※教科書「第5章」および「第6章」を熟読の上、授業に臨むこと。
5	【組織デザイン】 効果的に成果を上げるための組織構造を理解し、組織をデザインする方法を探る。さらには組織デザインに影響を及ぼす組織文化についても理解する。※教科書「第7章」および「第8章」を熟読の上、授業に臨むこと。
6	【組織成長と組織変革】 環境変化に適応して成長する組織のライフサイクルモデルを検討するとともに、急激な環境変化に対応するために組織変革方法を検討する。※教科書「第13章」「第14章」および「第15章」を熟読の上、授業に臨むこと。
7	【事例分析とまとめ】 自身が所属する（または関わりのある）組織と他組織を、経営組織論の理論を用いて比較検討し、個人またはグループで発表する。特に「持続可能な社会の実現」「社会問題解決」の視点を織り込むことを求める。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50	レポート課題（30点）と毎回の事前課題レポート（4点×5回＝20点）。なお、レポート課題は「組織活動を分析するレポート」、事前課題レポートは当日の授業内容の要約を作成する。
発表	30	授業の最終回に、個人またはグループで、これまで授業で取り上げた経営組織論の理論を用いて、組織体の経営活動の詳細を口頭で報告する。
授業への取組	20	授業への積極的な取り組みなどを総合的に評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習として、毎回テキストの次回授業内容に該当するページを要約することを求める。その他、テキスト以外の書籍を講読する必要もある。また組織論の視座を確立するための事例を用いるので、事例に関する情報収集も不可欠である。事後学習は、授業内容を振り返るとともに、該当する事例を自ら探し出し、分析することをお勧めする。

質問や相談への対応

メール（azuma.toshiyuki@u-nagano.ac.jp）に連絡すること。必要であれば、その後時間を設定し、オンラインまたは対面、あるいは電話等で質問に応じる。なお、オフィスアワーも設けているが、平日昼間であるため、社会人学生は利用できない可能性がある。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	桑田耕太郎・田尾雅夫著『組織論 補訂版』	有斐閣アルマ	2010	※なお授業ではすべての章を取り上げないが、授業で取り上げない部分も講読しておくことが望ましい。

参考書・参考資料等

経営組織論を深く学習していない受講者は、事前に次の書籍を講読することをお勧めする。

・安藤・稲水・西脇・山岡『経営組織【ベーシック+】』中央経済社, 2019. ※その他授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

学習した経営組織論の理論を用いて、自らの所属している組織と他の組織を比較検討することを求める。そのため、常に所属する組織を注意深く観察する意識を持つことが必要である。

その他・特記事項

授業時に使用する教材は、あらかじめ配付するようにしておく。毎回講義＋ディスカッションで授業を進めるので、積極的に発言できるように予習しておくことが不可欠である。

経営戦略論

更新日：2023/03/15 17:48:05

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0030A	科目コード	S0030
担当教員	首藤 聡一朗						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

経営戦略の理論について講義する。この授業の目的は、経営戦略に関わる諸理論の体系的な学びとそれらの諸理論を用いての現実を分析する力の養成にある。最初に経営戦略とは何かという点について議論し、経営戦略論における論点を整理する。その後、個別の経営戦略の理論について講義していく。そして、その理論をもとに受講生に現実を分析してもらう。受講生の分析に対してフィードバックを行い、理論に対する理解を深めてもらうと同時に理論を適用して現実を視る眼を養ってもらう。

取り上げる経営戦略論はクラシックなものである。計画としての戦略、創発的な戦略、ポーターのファイブ・フォース・モデル、リソース・ベースト・ビュー、ゲーム理論を取り入れた戦略論、多角化に関する戦略論、などである。そして、それらの理論と前提を同じくする他の経営戦略論も紹介していく。さらに、企業が持続可能な社会実現への寄与をどう捉え、それをどのように戦略の中に織り込んでいくのかという点にも触れる。

授業のねらい

- ・経営戦略論に関して、その全体像と各論の基礎的な内容を把握する。
- ・経営戦略の論理を使って、現実をクリアに理解できるようになる。
- ・経営戦略の論理を自らの思考プロセスに組み込めるようになる。

到達目標

教授方法

オンライン授業にて実施する。受講生に文書・動画等での予習および小レポートを課し、提出された課題をもとに講義を進めていく。

履修条件

なし

授業計画

1	経営戦略とは何か？
2	ファイブ・フォース・モデル
3	3Cとビジネスシステム
4	リソース・ベースト・ビュー
5	多角化
6	ゲーム理論を取り入れた戦略論
7	まとめ：経営戦略の意義

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小レポート	50	分析の深さ、オリジナリティ、論理性など
期末レポート	50	分析の深さ、オリジナリティ、論理性など
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

文章・動画等を通じて予習してもらう。その後、それぞれの回で取り上げる理論に関連した小レポートに取り組んでもらい、授業前に提出してもらう。

質問や相談への対応

メール等で随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			

参考書・参考資料等

入門書としては以下のものを薦める。

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社、2012年。

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣、2008年。
その他については適宜紹介する。

受講生に臨むこと

授業中のインタラクションが実りあるものになるようにしっかりと予習に取り組んでください。

その他・特記事項

特になし

マーケティング

更新日：2023/01/10 08:58:56

開講年度	2022	学期	1期	シバ`スコド`	S0040A	科目コード	S0040
担当教員	中村 陽人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

持続可能な社会の実現に向けた消費者意識の高まりは、サステナビリティに対する企業の意識変革や積極的な活動を後押しし、サステナビリティに配慮したブランド評価の向上や、そこから生み出された商品市場の拡大という形で国内市場にも大きな影響を及ぼし始めている。これからのマーケティング活動は今まで以上に社会的意識を高く持ち、消費者の理解を深め、消費者との関係性を構築・維持していくことが重要になるだろう。本講義では消費者視点に意識を置きながら、マーケティングの基本的なフレームワーク（環境分析、STP、マーケティング・ミックス、CRM）について理解を深める。

授業のねらい

- ・マーケティングに関わる基本的な知識（専門用語、トピック、現代の潮流など）を理解する。
- ・マーケティング戦略の基本的なフレームワークを理解し、さまざまなケース（特に身近なケース）に適用することができる。
- ・CRM（顧客関係管理）の重要性を理解し、その実現に向けた基本的な手法を実践できる。

到達目標

教授方法

基本的にはPowerPointを使った講義形式で授業を行うが、適宜ディスカッションを交え、知識の理解を深める。また、不定期に事前の資料読み込みや事後のレポート提出を求めることがある。オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	マーケティングの概要
2	環境分析
3	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）
4	マーケティング・ミックス（1）製品と価格
5	マーケティング・ミックス（2）流通チャンネルとコミュニケーション
6	CRM（1）顧客の理解
7	CRM（2）顧客データの収集と分析

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	25	授業に対する取り組み状況（発言の頻度とその内容、事前課題への取り組み、聴講態度など）を総合的に評価する。
レポート	75	授業内容の理解度（25点）、オリジナリティ（25点）、取り組み方（25点）
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前の資料読み込みや事後のレポート提出を求めることがある。

質問や相談への対応

授業中の質問はチャットで随時受け付けている（たいていの質問はその場ですぐに回答する）。また、メールでの質問も随時受け付けている。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書は使わず、毎回資料を配布する。			

参考書・参考資料等

適宜、授業の中で示す。

受講生に臨むこと

授業で扱われたトピックについて、日々の生活の中で実例を探すこと。

その他・特記事項

特になし

財務会計Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:58:56

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0050A	科目コード	S0050
担当教員	中村 文彦						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

現代の経済社会では、事業活動の多様化、グローバル化の進展、通信技術の発達等、様々な要因に基づき、企業は、ますます、広範で多様なステークホルダー（利害関係者）との間に利害関係を持つようになってきている。そのため企業には、これら広範なステークホルダーに対して、自らが行った経営に関わる活動だけでなく、その経営活動が、社会的に環境や制度等の持続可能性に対してどのように影響しているのか、といった情報も含む幅広い情報を、広く社会に開示することが求められている。

本講義では、そうしたニーズに応えるために企業が開示する、財務報告書、環境報告書、統合報告書等といった一連の持続可能性に関わる財務関連情報が、どのような思考と技法によって作成され、また、そこから、どのような内容が具体的に読み取れるのか、基本スキルを学びそれらを身につける。

授業のねらい

本講義では、企業の事業活動の顛末に関する報告の中心となる財務諸表の作成プロセスおよび利用に必要な基本的なスキルを取得することを目標として設定する。具体的には、現代経済において、財務情報開示の基本的な仕組みであるディスクロージャー・システムに着眼し、その技術的な基盤である複式簿記に焦点を当て、このメカニズムを学ぶことによって、企業の財務情報が企業内部に蓄積される基本的なプロセスを理解する。そのうえで、ディスクロージャー・システムの概要とその仕組みの基本を学ぶことを通じて、ビジネスに関わる情報が具体的に、企業内部・外部でどのように利用されるのかを理解する。

到達目標

教授方法

オンラインによる講義レクチャーおよび問題演習

履修条件

授業計画

1	ディスクロージャーシステムの役割
2	会計の5要素と2つの財務諸表
3	ビジネス情報の蓄積：仕訳と転記
4	経営成果のアウトプット：決算と利益の計算
5	財務諸表の作成の基礎
6	財務諸表の仕組み
7	財務諸表から持続可能性に関わる情報を読み取るスキル

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	30	講義内容の理解を確認するため、毎回20分程度の小テストを行う。
レポート	40	ビジネス環境の変化に関わるテーマをレポートとして課すことで、思考力の柔軟性等について評価する。
参加状況	30	毎回の講義時間内に設ける、小演習において、議論、意見等を効果的に発信しているか等を見る。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

任意の上場企業を選び、当該企業のWebページのIR情報にリストアップされているディスクロージャー関連の情報には、基本的にどのようなものがあるかを、できるだけ多く観察をして考えること。

質問や相談への対応

授業時間およびメールで対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	中村文彦『財務会計制度の論と理』	森山書店		

参考書・参考資料等

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。

受講生に臨むこと

会計はビジネス活動を描写するものである。したがって、ビジネス活動について普段より関心を持っていることが望ましい。

その他・特記事項

特になし

ソーシャル・イノベーション

更新日：2023/01/10 08:58:57

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0060A	科目コード	S0060
担当教員	大室 悦賀						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

近年、SDGsやSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)が台頭し、経済と社会の融合が求められている。

本講義では、その中心概念であるソーシャル・イノベーションについて学習する。その過程では、ソーシャル・イノベーションと密接に関わるイノベーション理論やアントレプレナーシップ論をオーバービューしていく。加えて、企業モデルも変容してきているので、随時企業モデルの変化について言及する。また、イノベーションのプロセスとして知識創造とビジネス化が重要になり、特に知識創造は認知バイアスや無意識の思考・行動が影響していることと、これらを外すことがイノベーションの第1歩であることを講義する。

授業のねらい

本講義は本研究科の基礎科目の1つとして開講し、研究科の全体像とその理解を促す科目で、ソーシャルイノベーションとそのベースとなるイノベーション論やアントレプレナーシップ論の基礎理論を知識として獲得してもらうこととイノベーションの創発プロセスを学ぶを狙いとする。なお、創発プロセスでは、マインドセットやアート思考、システム思考に簡単に触れながら、アイデアの創出とビジネス化という創発プロセスを擬似体験してもらう。

到達目標

1	イノベーションを創発する知識を理解すること
2	それを実践できるマインドセットを育むこと
3	そして本研究科の全体像を理解すること

教授方法

講義及びディスカッションで構成する。なおディスカッションは知識の獲得のみならず、ディスカッションによって無意識の意識化や新たな世界観の獲得に貢献することを体験する手法として活用する。

オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	ガイダンス（ねらいと到達目標）及びソーシャルイノベーションの台頭の背景
2	アントレプレナーシップ論1（アントレプレナーのコンピテンストとコンピテンシー）
3	アントレプレナーシップ論2（イントラプレナー・パブリックアントレプレナー、及びサステイナブルアントレプレナーシップ）
4	イノベーション論1（クローズドイノベーションとユーザーリードイノベーション）
5	イノベーション論2（オープンイノベーション2.0とソーシャルイノベーション）
6	知識創造論1（知識創造のプロセスと知識創造を阻害する要因）
7	知識創造論2（知識創造したアイデアのビジネス化）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加とディスカッションへの貢献により総合的に評価する。
レポート	50	レポートを課し、理解度により評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：事前に課題論文や映像資料を提示し、それを必ず理解しておくこと

事後学習：授業に得た知識等再度自分なりに整理し、自分のものとする

また知識創造のために必要となる認知バイアスや思考フレームを外すワークを宿題として課すので、必ず実施すること。

質問や相談への対応

質問や相談はメール・Zoom等を通じて随時可能。

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

なし			
----	--	--	--

参考書・参考資料等

授業内で指示する。

受講生に臨むこと

宿題と課すワークが本研究科での学びに大きく影響するので、ストイックに実施すること

その他・特記事項

特になし

公共経営

更新日：2023/01/10 08:58:58

開講年度	2022	学期	1期	シバースコード	S0070A	科目コード	S0070
担当教員	真野 毅						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

持続可能な社会の実現には、企業や行政、NPOなど所属セクターを問わず、社会のあらゆる場面で協働が求められる時代になってきた。公共の担い手としての政府・行政の改革の変遷（PA、NPM、NPG）を学び、企業・NPO・市民が公共の担い手として積極的に参加する公共領域のマネジメントのあり方を学ぶ。

授業のねらい

本講義は本研究科の基礎科目の1つとして開講し、本研究科が目指す公民連携の基礎となる地域のガバナンスの変化を学ぶことを狙いとしている。「ガバメントからガバナンスへ」という言葉で捉えられている、多様なアクターが地域経営に積極的に参画する地域を育成するには、その地域をリードする人材が、公共領域における行政の役割の変化と同時に、民間企業の役割の変化を踏まえて、協働を推進していくことが求められる。

到達目標

1	公共領域における多様なアクターの役割の変化を理解し、異なるアクターが共通のアジェンダに対して課題解決していくコレクティブインパクトへの理解を深めることである。
---	---

教授方法

講義で学んだ内容と質問をそれぞれ100字でまとめてもらい、次回の講義の最初に共有し、学生間で議論する。
 期末レポートは、受講生が関係する組織や事業に関連して、「協働」をテーマにレポートをまとめる。具体的には、協働の定義・意味、現状・問題点、ガバナンスの改善のための方策等を書く。
 オンラインと対面授業を併用して実施する予定である。

履修条件

なし

授業計画

1	公共のガバナンス、企業と行政と社会の関係
2	OPM（従来の行政管理）からNPM（新しい公共経営）への変化
3	NPM（新しい公共経営）からNPG（新しい公共ガバナンス）への変化
4	企業の経営スタイルの変化
5	企業戦略の変化 CSV（共通価値の創造）
6	社会的企業の台頭
7	コレクティブインパクト

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加と議論における貢献度合い
レポート	50	期末レポート
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：事前に提示した資料等を読んでおくこと。

事後学習：講義で学んだことを100字に整理してまとめ、質問があれば100字以内にまとめてレポートすること。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールまたは授業終了後、随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			

参考書・参考資料等

授業内で指示する

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な授業参加を望む。

その他・特記事項

特になし

情報基礎

更新日：2023/01/10 08:58:59

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0080A	科目コード	S0080
担当教員	萱津 理佳						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

身の回りに溢れる情報システム、そして子どもから高齢者まで利用するスマートフォンやパソコン、これらはその仕組みを理解していなくても気軽に利用できるブラックボックスである。

本講義では、コンピュータやネットワークをより効率よく、健全に使いこなすことができるように情報に関する基礎知識を学ぶ。

具体的には、①コンピュータの基礎、②情報の形態と収集の方法、③インターネットの仕組みとWebシステム、④アルゴリズムとプログラム、⑤情報の伝達、⑥セキュリティと法令遵守、及び、⑦ICT活用の問題解決等について、持続可能性にも配慮しながら学ぶ。

授業のねらい

AIに代表される技術革新の進歩やIoTの広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況に対応できる人材を養成するために、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指す。

到達目標

1	情報システムや情報ネットワークを活用する際に必要となる基本的な概念と知識、および、心構えを習得する。
---	--

教授方法

オンライン授業にてZoomを利用した同時双方向の授業を行う。講義を中心に、ICTに対する興味・関心が深まるよう、受講者同士のプレゼンや議論の機会を設ける。また、MS Teamsにて教材配布や情報提供を適宜行う。

履修条件

特になし。

授業計画

1	ガイダンス、コンピュータの基礎（コンピュータの仕組み、周辺機器やソフトウェア、身の回りの情報システムについて）
2	情報の形態と収集の方法（情報の表現と蓄積の形態、情報検索・収集について）
3	インターネットの仕組みとWebシステム（インターネットの概要と通信の仕組み、Webアプリケーションとクラウドコンピューティング）
4	アルゴリズムとプログラム（アルゴリズムとは、プログラムにおける制御構造）
5	情報の伝達（ソーシャルネットワーキングサービスやソーシャルメディアの概念、仕組み、利用方法について）
6	セキュリティと法令遵守（情報セキュリティの基礎知識、セキュリティ対策の方法と法律について）
7	ICT活用の問題解決（問題解決におけるICTの役割、インターネットを利用した情報発信等について）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業中の取り組みの程度とその学習成果の程度を評価
課題・レポート	50	課題・レポートへの取り組みの程度
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ・指定された課題に取り組むこと
- ・講義内容の予習・復習

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・メールやMS Teamsでの質問も受け付ける。
アドレス： kayatsu.rika@u-nagano.ac.jp

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「改訂新版 よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄(監修)	技術評論社	2017年	ISBN-13：9784774191423

参考書・参考資料等

- ・「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2021」佐藤義弘 (監修),日経B P,2021年
- ・ Glexa(本学e-Learningシステム), MS Teams 等共有スペースにて適宜紹介する。

受講生に臨むこと

- ・ ICT (情報通信技術) に関する日々のニュースに関心をもつこと
- ・ 積極的に議論に参加し, 発言すること

その他・特記事項

特になし

AI基礎

更新日：2023/01/10 08:58:59

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0090A	科目コード	S0090
担当教員	武田 元彦						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

世界ではデジタル化とグローバル化が不可逆的に進み、社会・産業の転換が大きく進む中で、データやAI活用は、今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられ、専攻分野に関わらず全ての学生が身に付けておくべき素養である。本講義では、その基礎的な素養として以下に関連するトピックを扱う。また、持続可能性にも配慮する。

- ・データが社会でどのように活用され、どんな価値を生んでいるのか
- ・AIの得意なところ、苦手なところ、人間中心で判断すべき領域
- ・社会の実データ、実課題へのアプローチ方法
- ・AIを組み入れるためのシステム開発アプローチ

授業のねらい

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で取り扱うことができる最低限の基礎的な素養を身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。

到達目標

教授方法

講義形式を中心とする。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	データ・AI・IoTの仕組み
2	データ・AI活用領域
3	AIによる予測の仕組み
4	AIによる予測の技術的な課題
5	データ・AIとユーザーエクスペリエンス
6	データ・AIを扱う上での留意事項
7	データ・AIへのビジネス導入戦略

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	30	授業内容を理解し、データ・AIをビジネスに活用するための分析手法やビジネス上の論点が整理できる。
レポート	70	データ・AIに関連する事例や社会の動向を自ら収集し、分析ができる。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

講義ノートや関連資料を参考に授業の内容の復習を行うこと。また、不明な点は自ら調べ学ぶ姿勢で臨むこと。

質問や相談への対応

授業内もしくはメールで対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定なし			

参考書・参考資料等

Foster Provost, Tom Fawcett (2014) 『戦略的データサイエンス入門 —ビジネスに活かすコンセプトとテクニック』 竹田 正和 監訳, オライリージャパン

受講生に臨むこと

他の履修生の妨げとなる行為は厳正に対処する。

その他・特記事項

履修生の理解度や習熟度により、授業内容を調整することがある。

デジタルイノベーション特論

更新日：2023/01/10 08:59:00

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0100A	科目コード	S0100
担当教員	横幕 秀明						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

課題先進国と称される日本は、諸外国に先んじて人口減少・少子高齢化が進んでおり、ICTを導入・利活用することで、雇用や生活の質、労働生産性の向上を積極的に進めて行くことが求められている。AIやビッグデータ、IoT、5Gなどの新たな技術の導入やテレワークによる働き方の見直し等は日本社会全体を変革するチャンスとなっている。

本講義では、これまでのテクノロジー（主に情報通信技術）の進化に伴い社会活動がどのように影響を受け発展してきたかを理解するとともに将来を予測する力を身に着ける。

授業のねらい

- ・テクノロジーの進化によって、社会活動が大きく変化するきっかけとなることを理解出来るようになる。
- ・溢れる情報の中から正しい情報を読み取る力、データを読み解き活用する力を獲とく出来る。
- ・将来のテクノロジー発展の動向を察知し、見極められるようになる。
- ・社会に新しいテクノロジーの活用意向が進むにあたり、具体的な導入の障壁や課題について、事例やワークなどを介して理解出来る。

到達目標

教授方法

講義形式のほか、グループによるディスカッションやワークショップ、実践演習を取り入れ、自ら考え、表現するスキルを習得する。オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし。

授業計画

1	オープニング：～産業構造の変化とSociety5.0時代、ICT技術を使いこなす時代に求められる人材像について
2	通信の発展の変遷と社会の変化：ICTの浸透によって社会はどう変わったか、また変わっていくか
3	通信技術を活用した産業の創出：コネクテッドカー、MaaS、ドローン、KDDI活用事例の紹介
4	データ化（数値化）の取り組み、活用事例：IoTコンピューティング（センサ・デバイス）導入事例、xRの活用事例
5	データ収集・分析～先端技術の活用とビジネス展開について：AI / ディープラーニング、ビッグデータ・データサイエンス概論、ビジネスへの活用
6	データを活用するにあたっての視点（リスクと対応）：サイバーセキュリティ・IoTセキュリティ、オープンデータの活用事例
7	これから変化していく社会（サービス、モノ）：ICTを活用したビジネス変革に向けた意識改革

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	40	各回で提示する課題レポートの内容
授業への取組	30	授業に積極的に参加し、新しい知識を習得しようとする意欲
発表	30	自ら考え、自身の意見を伝える意思、意欲
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：各実施回のテーマに沿ってあらかじめ講師より指定された課題検討や参考図書等を利用して学習すること、事例研究を行うこと
事後学習：各実施回のテーマに沿って事例を調べ、講義内容の理解を深めること

質問や相談への対応

授業時間外の質問や相談はメールもしくはSNSツールを利用

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定しない。			

参考書・参考資料等

別途紹介・配布する。

受講生に臨むこと

新しいことに興味と好奇心をもって積極的な授業参加を期待する。

その他・特記事項

特になし。

デジタルアナリティクス特論

更新日：2023/01/10 08:59:01

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0110A	科目コード	S0110
担当教員	羽田 明裕						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

IoT (Internet of Things) により全てのヒトとモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことで、社会的課題や困難を克服できる社会の実現が求められている。

このためには、データを科学するための数値解析及び確率論・統計学の知識を応用し、大量データから情報を取り出し、課題の発見、解決策を導く実践的な能力が必要である。

本講義では、講義とワークショップにより、科学的にデータを扱い、社会課題を認識し、解決のため施策を導くための応用的な知識とスキルの習得を目指す。

授業のねらい

データを科学的に扱う手法を習得する。

- ・数値解析及び確率論・統計学などのデータを科学的に扱う知識を実課題に適用できる。
- ・データに基づいて課題の所在と原因を探索・判断することができる。
- ・データに基づいて課題を解決するための施策を創出・比較・選定することができる。
- ・課題の原因や試作の洞察について、ステークホルダーに、説明することができる。

到達目標

教授方法

オンラインにより実施する。

講義形式の授業にワークショップを組み合わせて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	本授業に関する解説 データサイエンスの基礎スキル（統計及び数理基礎）
2	データ分析のための指標及び手法
3	（ワークショップ）データの分析・表示ツールの実践
4	データ解析の概要、活用事例
5	解析結果の読解、施策立案
6	（ワークショップ）実データに基づくケースワーク
7	（ワークショップ）発表、まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	40	授業内容の理解度、授業内容を応用する発想力
ワークショップ（個人レポート）	20	チーム活動における個人の役割と成果の評価
ワークショップ（チーム発表内容）	40	課題認識、解決策の妥当性・新規性を評価
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

ワークショップに関する事前・事後作業

質問や相談への対応

Mailによる対応

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	別途指定する。			

参考書・参考資料等

別途指定する。

受講生に臨むこと

実際にデータ分析の結果からの施策立案を経験することで、実務にも活用して欲しい。

その他・特記事項

授業形式、ツール等は状況により変更の可能性があります。

データサイエンス

更新日：2023/01/10 08:59:02

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0120A	科目コード	S0120
担当教員	鶴田 靖人						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本講義の目標はデータリテラシーの中でも「データを適切に読む・理解する・分析する・説明する力」を身につけることである。EXCELを使用したデータ分析の演習を通して研究や調査のために必要となるデータ分析の基礎的なスキルを習得し、データ分析のスキルを持続可能な社会に関連した研究や調査に活用可能になることを目指す。主に、データを適切な図表で可視化する方法、代表値や標準偏差などの記述統計量の扱い方、標本調査、相関関係と因果関係、2グループのデータの比較、データを適切に解釈する方法を学ぶ。

授業のねらい

データリテラシーに関する以下の能力を身につけることが目標である。

1. データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。
2. 相関関係と因果関係の違いを踏まえた上で、データの分析結果を解釈できる。
3. 標本調査の方法と注意事項を理解し、適切な標本調査を実施できる。また、標本の誤差を考慮して分析結果を解釈できる。
4. 条件をそろえたグループを正しく設定して分析を行い、グループ間の数値の差からそれらの特徴の違いを説明できる。

到達目標

教授方法

講義とデータ分析の演習を織り交ぜた形式で行う。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	データの種類とデータを図表として適切に表現する方法を学ぶ。 量的変数と質的変数、表形式のデータ(csv)、データのグラフ表現、不適切なグラフ表現（チャートジャンク）
2	代表値の性質やヒストグラムを学ぶ。 平均値、最頻値、中央値、ヒストグラム
3	データのばらつきとその指標を学ぶ。 分散、標準偏差、偏差値、正規分布
4	相関関係と因果関係を学ぶ。 相関係数、見かけの相関、相関関係と因果関係の違い
5	標本調査の方法を学ぶ。 母集団と標本、無作為抽出、全数調査、標本調査
6	データを比較化する方法を学ぶ。 条件をそろえた比較、A/Bテスト
7	データを正しく解釈する方法を学ぶ。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題	70	授業の理解度に応じて評価する。
授業への取組	30	グループディスカッションでの貢献、リアクションペーパーにおける授業の理解度を参考にして、平常点を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

毎回出される課題に取り組むのはもちろん、復習として授業で分からない点を調べて理解する必要がある。

質問や相談への対応

質問や相談には、授業中・授業の前後で対応する。メールでの質問も受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

なし

参考書・参考資料等

宮川公男著『基本統計学 第4版』有斐閣、2015年

涌井良幸・貞美著『からしっかり学ぶ 実習 統計学入門～Excel演習でぐんぐん力がつく』技術評論社、2011年

受講生に臨むこと

課題には主体的に取り組むこと。授業に関連した内容を自分で調べる自主性を持つことが望ましい。

その他・特記事項

EXCELの基本的な使い方（数値入力、数値の合計、グラフ作成の方法）を習得している前提で授業を進める。

社会調査論

更新日：2023/01/10 08:59:02

開講年度	2022	学期	1期	シバ`スコド`	S0130A	科目コード	S0130
担当教員	築山 秀夫						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本講義では、社会調査に関する基礎的知識を身につけるとともに、社会調査データを正しく利用するための能力を身につけ、さらに、各自の研究活動の基礎となる事実認識のためのデータ収集の技術を身につけ、調査リテラシーを身につけることをねらいとする。持続可能な社会を形成するには、目の前にある社会を正しく把握し、未来を予測する必要がある。そのために、社会調査は必須である。

授業では、社会調査の意義、社会調査における倫理、調査の種類と具体例、量的調査と質的調査の相違と特徴、理論・仮説と調査の関係、調査目的に応じた調査方法の選択、調査のデザイン、標本抽出と誤差、調査票の作成法（ワーディング）、調査法、質的調査法、フィールドワークの仕方など、データ収集から分析するまでの具体的な方法について学ぶ。

それぞれの学生が自分の固有の問いを立て、それを調査するには、どのような調査実施計画を立てるべきかについて、検討する。

授業のねらい

本講義では、社会調査に関する基礎的知識を身につけるとともに、社会調査データを正しく利用するための能力を身につけることを目標とする。さらに、各自の研究活動の基礎となる事実認識のためのデータ収集の技術を身につけ、調査リテラシーを身につけることをねらいとする。

到達目標

1	社会調査における倫理について理解する。
2	社会調査の企画と設計ができる。
3	標本抽出と抽出誤差について理解できる。
4	調査票の作成ができる。
5	カイ二乗検定他、二変数の相関をとらえることができる。
6	多変量解析などの方法を理解することができる。
7	質的調査の基本を理解する。
8	信頼に足る調査を見分けることができる。
9	そして、具体的に、以上の目標について、自分自身の問題意識を問うため、調査シミュレーションができることをめざす。

教授方法

基本的には、講義形式で実施する。授業は講義を中心に行うが、事前に、テキストの当該箇所を読み、事前学習をした上で講義を受講する。既存調査を利用し、履修生同士で正しい調査に関する理解を深め合う。オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	社会調査における倫理についての解説。個々の学生の研究活動の基礎となる事実認識のためのデータ収集の在り方についての考察。各自の問題関心について一人5分程度で報告する。事前学習：個々の学生の研究における問いをパワーポイント（5分・10枚程度）でまとめ、提出する。配布資料、指定図書当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（他の学生の課題に対する意見や、社会調査における倫理等について）を提出する。
2	社会調査の企画・設計について解説する。事前学習：配布資料、指定個所の当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（個々の学生の研究における社会調査の企画・設計等について）を提出する。
3	社会調査の方法、サンプリングについて解説する。事前学習：配布資料、指定個所の当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。個々の問題関心を調査する場合、いかなる対象に調査を実施するのかを具体的に検討する。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（個々の学生の研究における社会調査方法・サンプリング等について）を提出する。
4	社会調査の調査票作成について解説する。事前学習：配布資料、指定個所の当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。個々の学生が、調査票を作成してくる。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（事前に作成した調査票における問題点の発見とその修正等について）を提出する。
5	二変数の相関、カイ二乗検定について解説し、多変量解析手法についても解説する。事前学習：配布資料、指定個所の当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（カイ二乗検定等の計算問題を解く等）を提出する。
6	質的調査に関する方法を解説する。事前学習：配布資料、指定個所の当該箇所を読み、理解できない部分を発見し、講義前に提出する。事後学習：FORMSでフォローアップ課題（質的調査の手法等）を提出する。
7	全体の振り返りを実施し、重要な点について確認する。事前学習：これまでの配布資料等を読み返し、全体の中で、理解できていない点について発見し、講義前に提出する。事後学習：最終レポートを作成し、提出する。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準

事前学習	40	毎回、授業前に、教科書等の必要箇所を読んでくるように指示するので、読んで、分からない部分について明らかにしてくる。その質を問う。
授業への取組	30	毎回の講義で、積極的に、質疑応答する。また、授業後、その復習を実施する。その質を問う。
最終レポート	30	最後に、講義全体の理解度を問う最終レポートを課す。その質を問う。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

毎回、授業前に、教科書等の文献の必要箇所を読んでわからなかった部分について提出する。それは授業のなかで解いていく。さらに、授業後に、フォローアップ課題を課すので、回答する。

また、個々人の研究活動において必要とする社会調査を念頭におきながら、授業に望み、課せられた事前・事後学習を行う。

質問や相談への対応

まずは履修者が可能な限り独力で回答を出す。

他の履修者も理解が出来ない部分である可能性が高いため、履修者同士で学び合うことも重要であるので、皆で理解を深める。

テキスト等で分からない部分は、毎回、事前学習で明らかにし、講義中に解決することとする。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	佐藤郁哉『社会調査の考え方 上・下』	東京大学出版会	2015	
	大谷信介・後藤範章・小松洋・木下栄二『新・社会調査へのアプローチ』	ミネルヴァ書房	2013	

参考書・参考資料等

- ・須藤康介・古市憲寿・本田由紀（2018）『【新版】文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版
- ・岸正彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法』有斐閣

受講生に臨むこと

事前学習、事後学習にしっかりと時間を取り、授業に望んでいただきたい。

日常的に、多様なセクターが実施する社会調査に関心を示し、調査内容、調査目的、ワーディング、サンプリング、分析、結果の提示方法などに注意しながら、自分なりに読み解いて、調査のリテラシーを身につけてほしい。

その他・特記事項

なし。

ロジカルシンキング

更新日：2023/01/10 08:59:03

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0140A	科目コード	S0140
担当教員	神戸 和佳子, 馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

「考える」ことは誰もやっていると思いがちだが、それだけに、丁寧に検証することが少ない。しかし実際には、十分に注意していなければ見落としがちなる誤りや思い込みが多くある。この授業では、そうした典型的な誤謬と、正しい論理的推論の基礎を学ぶ。これにより、自分自身や他者の思考を吟味する技術を身に付け、既存の社会のあり方を問い直し、新たな持続可能な社会を構想する。

授業のねらい

論理的推論の基本的な形や、陥りやすい誤謬、合意形成のための基本的な方法と留意点を理解する。この理解に基づき、自分自身や他者の思考を吟味し、議論や対話、事業計画の検討等の中でみずから活用できるようになる。これを通じて、物事の既存のあり方を問い直し、新たなあり方を構想する発想を身につける。

到達目標

教授方法

オンライン授業により実施する。原則として講義と問題演習により実施するが、問題演習には受講生同士のディスカッションも含まれる。

履修条件

なし

授業計画

1	ロジカルシンキングとは何か
2	基本的な推論とその誤り（1）帰納と演繹、論理の飛躍
3	基本的な推論とその誤り（2）「ならば」の使い方、逆・裏・対偶
4	基本的な推論とその誤り（3）基本的なフレームワーク
5	注意すべき論法（1）非形式的な誤謬と詭弁
6	注意すべき論法（2）類比論法、仮説形成
7	合意形成の基本的な方法

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	35	演習・ディスカッションへの貢献
小テスト	35	各回後の小テストの得点
試験	30	最終試験の得点
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：各回の内容について基礎的な項目を予習する。

事後学習：小テストを解き直して復習する。

質問や相談への対応

原則としてEメールで受け付ける。必要に応じてリモート通話を行う。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

参考書・参考資料等

伊勢田哲治・戸田山和久・調麻佐志・村上祐子『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』（名古屋大学出版会、2013年）

受講生に臨むこと

思考を丁寧に見直す授業であるから、落ち着いた環境で受講すること。また、互いの思考を吟味しあうため、他の受講生との協働学習を積極的に行うこと。

その他・特記事項

特になし

哲学思考Ⅰ（探究）

更新日：2023/01/10 08:59:04

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0150A	科目コード	S0150
担当教員	神戸 和佳子, 馬場 智一						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

既存の社会のあり方を問い直し、持続可能な新たな社会を構想しようとするとき、現状のあり方を「問う」ことは必要不可欠である。この授業では、本質を問う、前提を問い直す、条件を変えるなど、様々な「問い」の形と、用いるべき適切な場面を学ぶ。問いは具体的な文脈に即して生じるので、受講者にも自らが直面する課題に関して、問いを立ててもらおう。その問いに対する解答を共に模索するなかで、適切な問い方を学ぶゆえ、この授業は事例検討の形で実施する。

授業のねらい

哲学的に思考を深めるための多様な問いの立て方と、それを適用すべき場面を理解する。また、それらの問いを、具体的な諸課題に対して、適切に活用することができるようになる。これを通して、既存のあり方の問題を見出し、他者と協働してよりよい解決を導くことができるようになる。

到達目標

教授方法

主にグループワークの形でディスカッションとプレゼンテーションを行う。必要に応じて一部講義を実施する。オンライン授業および対面授業を併用する。

履修条件

特になし

授業計画

1	基本的な問いの形とその使い方
2	課題を発見する
3	発見した課題の分析（1）課題の分類
4	発見した課題の分析（2）グループによる検討
5	発見した課題の分析（3）検討結果の共有
6	課題への対応の検討（1）課題の再検討
7	課題への対応の検討（2）課題への対応の発表

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	70	グループワークへの参加、ワークシートへの書き込み、授業に対するコメント、他の受講生へのフィードバック
レポート	30	授業で検討した事例についての報告
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：検討すべき課題の準備、授業でのディスカッションの準備

事後学習：授業でのディスカッションのまとめと振り返り

質問や相談への対応

原則としてEメールで受け付ける。必要に応じてリモート通話を行う。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			

参考書・参考資料等

梶谷真司『考えるとはどういうことか』（幻冬社、2018年）

桑子敏雄『社会的合意形成のプロジェクトマネジメント』（コロナ社、2016年）

受講生に臨むこと

検討したい具体的な課題など、各自の問題意識を持って受講してほしい。また、グループでの議論に主体的に貢献するよう努めること。

その他・特記事項

なし

哲学思考Ⅱ（哲学史）

更新日：2023/01/10 08:59:05

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0160A	科目コード	S0160
担当教員	馬場 智一						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

心と体、自然と人為、思惟と延長といった二元論的思考は、特に近代以降支配的になる思考法であるが、現代では様々な問題を生んでいる。他方、こうした思考法は現代の私たちの思考や言説に馴染みのあるものであり、これを自覚し別の思考法を見出すのは容易ではない。この授業では、近代的な思考法やその具体例や問題についてまず学び、ついでどのような思考法があるのかを、西洋／東洋といった区別を超え、世界の哲学の中から学ぶ。それを踏まえて、既存の社会のあり方を問い直し、新たな持続可能な社会のあり方を構想する。

授業のねらい

近代が抱える二元論的思考を克服するために、世界にはどのような哲学があるのかを学び、近代的なものの方見方にとらわれない哲学的思考を習得する。それを通じて各受講者が抱えている問題に関して、そこに含まれる二元論的思考を析出し、別の仕方でも問題をとらえ直すことができるようになる。

到達目標

教授方法

オンラインと対面授業を併用する。スライド資料などを使いながら講義を行うが、講義中もしばしば具体例を挙げるなどのワークを行う。講義の後ディスカッションにより理解を深める。

履修条件

特になし

授業計画

1	イントロダクション、近代的思考とそのオルタナティブ
2	近代的思考（1）近代的認識論
3	近代的思考（2）近代における社会
4	近代的思考（3）近代性の系譜
5	オルタナティブ（1）存在の類比、否定神学、脱構築
6	オルタナティブ（2）一元論、神秘主義、自己の探求
7	オルタナティブ（3）自然の中の人間

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	受講態度、ワークシートへの書き込み、授業後の感想、ディスカッションへの参加
レポート	50	現代が抱える具体的な問題について調べ、それに対して授業で学んだ内容を応用し分析する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前事後学習として、資料の読みこみや、ワークシートへの書き込みを課す場合がある。

質問や相談への対応

質問はできるだけ授業中に行うこと。それ以外はメールで受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

参考書・参考資料等

特になし

受講生に臨むこと

自らの問題意識を明確化して授業に臨むこと。

その他・特記事項

特になし

セルフマネジメント

更新日：2023/01/10 08:59:05

開講年度	2022	学期	2期, 3期, 4期	シラバスコード	S0170A	科目コード	S0170
担当教員	稲垣 聡一郎						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2・3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

この授業は、「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」などのセルフマネジメントの要素を主に扱う。ソーシャル・イノベーションを実現し、それを持続可能な状態にするためには、「自分の外側にある人や環境を変える」アプローチだけでなく、「自分自身の内面や思考のクセ、感情・行動・結果の構造」を理解し、まず自分自身がサステナブルになる必要がある。この授業では、自分自身の内面や軸（思考レベルではなく、感情や身体感覚レベル）に向き合いながら、今までとは違う選択肢を生み出し、新たな行動・結果を生み出していくための土台を理解し、自分自身をマネジメントすることがどう組織や社会につながるかの構造を理解していく。

授業のねらい

「望む結果を得るために、どのように自分をマネジメントすれば良いのか?」
「パフォーマンスを発揮できる状態をどのように作り、リーダーシップを発揮するのか?」

到達目標

1	今の自分の状態に気づき、適切に対応できる。
2	自分の思考パターンに気づき、思考をアンロックする。
3	自分のストレスを理解し、より良い状態に変える。
4	自分自身の土台を理解しマネジメントする。
5	新たな選択肢を生み出し結果を変える。
6	仕事（個人・組織）のパフォーマンスを上げる。

教授方法

講義と演習を織り交ぜたワークショップ形式。毎回、演習やディスカッション、ダイアログを通して授業を行う。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（授業の位置づけ、授業の進め方、グループ内で自己紹介）
2	思考と行動のメカニズム、 Self Awareness （自己認識）と瞬間のマネジメント
3	新たな選択肢を生み出すために（身体・感情・思考）
4	意図と結果を結びつけるための方法（ Intention Result Map ）
5	ストレスと神経系のマネジメント
6	マインドセット（自分のパターンを知る）
7	まとめ（セルフマネジメントを日常に組み込むための方法を考える）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	30	参加貢献と基礎知識の理解度
最終レポート	40	授業終了後の最終課題レポート
各回のレポート	30	各回の実践結果レポート提出。理解度に応じて評価。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ① 毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ② 実践期間中の「うまくできたこと」「難しかったことやチャレンジ」「実践から学んだインサイト」をレポート1枚にして授業に持ち寄る。
- ③ 授業で学んだ内容をもとに、最終講義終了後にレポートを作成して提出する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。
- ・メールでの質問も受け付ける（si@transform-your-world.com）。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	ジェレミー・ハンター・稲垣聡一郎『ドラッカー・スクールのセルフマネジメント教室 — Transform Your Results』	プレジデント社	2020	

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。また、授業中に適宜資料を配布する。

受講生に臨むこと

- ① 毎回、実践期間で学んだレポートを作成し授業に臨むこと
- ② 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと

その他・特記事項

特になし

アート思考

更新日：2023/01/10 08:59:06

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0180A	科目コード	S0180
担当教員	若宮 和男						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

イノベーションのための思考法として現在注目されている「アート思考」について、基礎的な知識を得るとともに、座学のみではなくワークショップを通じて学生が実践的にアート思考を体験する。

「アート思考」とはアートについての知識や教養を身につけることではない。アートや芸術家のラディカルな創造性に触発され、常識を超えた自分ならではのユニーク・バリューを生み出すモードである。そのために授業は「受け身の学習」ではなく、不確実性を楽しみ自ら価値を生み出そうとする姿勢を磨くことを目指す。また、価値観の革新と多様性の素地を培うアート思考を学ぶことで、拡大志向の資本主義から持続可能な社会への価値転換の契機とする。

授業のねらい

「VUCAの時代」と言われる中でどのようにこれまでにない価値をつくり、また自分らしい働き方・生き方をつくっていくのかについて学ぶ。

到達目標

1	ビジネスおよびソーシャルイノベーションを生むためのアート思考の位置付け（ロジカル思考やデザイン思考における）について理解する。
2	アート思考を体験・実践することで、既存の枠組みを外す想像力を磨く。
3	自分起点の価値の創出法を身につける。

教授方法

各回、講義＋ワークショップを基本の形式とする。授業の後半には学生同士のディスカッションにより理解を含める。オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	アート思考ワーク 常識を揺らすアートとソウソウ的鑑賞
2	VUCAの時代とビジネスにおけるアート思考①
3	VUCAの時代とビジネスにおけるアート思考②
4	テクノロジーとアートのイノベーション
5	制約と想定外から生まれる中動態的創造
6	イノベーションを殺さないための身体性と組織
7	まとめ（「自分」起点の価値のつくり方）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	30	ワークショップやディスカッションへの貢献のユニークさ（自分らしい発言をしているか？）で評価する。
レポート	50	授業終了後の最終課題レポート
提出課題	20	各回の授業からの学びについて振り返りフォームで毎回報告する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ①毎回授業後、振り返りフォームにて自身の学びを送信する。
- ②毎回次回のグループワークのための簡単な宿題を課す。必ず実施して望むこと。
- ③終了後にレポートを提出する。

質問や相談への対応

・質問は、授業中および振り返りフォームにて受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	『ぐんぐん正解がわからなくなる！アート思考ドリル』 (若宮和男) 実業之日本社、 2019『ハウ・トゥ・アート・シンキング』 (若宮和男)	実業之日本社	2021	
--	---	--------	------	--

参考書・参考資料等

ロジカル思考・デザイン思考への理解が浅い学生は事前に下記を参考にすること。

『ロジカル・シンキング 論理的な思考と構成のスキル』 (照屋 華子、岡田 恵子) 東洋経済新報社、2001

『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方 [アップデート版]』 (ティム・ブラウン) 早川書房、2019

受講生に臨むこと

受け身ではなく、各回の授業の中でもなんらか「自分ならではの視点」を付け加えるマインドセットで望むこと

その他・特記事項

特になし

システム思考

更新日：2023/01/10 08:59:07

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0190A	科目コード	S0190
担当教員	福谷 彰鴻						
備考	講義・演習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

私たちが現実と直面する複雑な課題を解決するために必須の力として、OECDのEducation 2030プロジェクトにも紹介されているシステム思考。現代の社会が直面する環境や社会の持続可能性の課題は、ものごとをただ要素還元するだけでは解決できないだけでなく、意図せぬ結果を生むことがしばしばである。こうした複雑な課題に効果的にアプローチするため、要素のつながりに着目して「木を見て森も見る」思考習慣をはぐくむ。氷山モデルや因果関係ループ図、時系列変化パターングラフなど、一見難解なシステム思考のツールや手法を、身近な事例を取り上げた実践演習と対話をとおして実生活に応用できる学びをサポートする。

授業のねらい

授業終了時に、次の状態になっていること：

- ・システム思考の各種ツールやモデル（氷山モデルとループ図）を理解して、身の回りの事例に当てはめて考えることができる。
- ・問題のすり替わりや成長の限界など、典型的なシステムの挙動を、身の回りの事例に当てはめて考えることができる。
- ・出来事に対して、単純に解決策を考える思考の習慣を保留し、背景のシステム構造を洞察する習慣を身に付けている。
- ・個人及び集団として、自分自身がシステムに関与していることを俯瞰して、思考の習慣を振り返ることができ、効果的な介入策を考えることができる。

到達目標

教授方法

講義およびワークショップ。第2回のみ対面必須、ほかの日程はオンライン実施。

履修条件

なし

授業計画

1	システム、システム思考とは何か？システムとは、相互に影響を与え合うつながりのこと。私たちの身の回りにどんなシステムがあるのか？なぜシステム思考が必要なのか？氷山モデルを用いて、システム構造に目を向けるプロセスを解説する。
2	特別演習ビール・ゲーム（1）MITのシステムダイナミクスグループで開発された、世界でもっとも多くプレイされているシステム思考のシミュレーション演習。複数の要素が影響し合う複雑なシステムの特性を学ぶとともに、私たちの思考や行動がどのようにシステムに影響を与えるかを学ぶ。
3	特別演習ビール・ゲーム（2）MITのシステムダイナミクスグループで開発された、世界でもっとも多くプレイされているシステム思考のシミュレーション演習。複数の要素が影響し合う複雑なシステムの特性を学ぶとともに、私たちの思考や行動がどのようにシステムに影響を与えるかを学ぶ。
4	特別演習ビール・ゲーム（3）MITのシステムダイナミクスグループで開発された、世界でもっとも多くプレイされているシステム思考のシミュレーション演習。複数の要素が影響し合う複雑なシステムの特性を学ぶとともに、私たちの思考や行動がどのようにシステムに影響を与えるかを学ぶ。
5	因果関係ループ図、システム思考演習① 問題のすり替わりシステム構造を洞察する力を育むツールを紹介。私たちの身の回りに起きるさまざまな現象をシステムの視点から捉える演習を行う。「問題のすり替わり」は、昨日最善を尽くしたはずの解決策こそが、今日の問題を生み出していたり、逆に悪化させていたりする。そんな不都合の背景にあるシステム構造を探る演習を行う。
6	システム思考演習②成長の限界順風満帆に見えた取り組みが、いつか失速し、ついには始める前の状態に戻ってしまう。そんなよく見られるパターンは、システムが「押すと押し返す」性質を持っているから。システムの変化と揺り戻しの構造を捉えて、持続的な変化を生み出すための取り組みを考える演習を行う。
7	システムと複雑系、その「分かり得ない」性質システム思考を学ぶと、あらゆることが無限の複雑性の中で立ち現れていることが見えてくる。現実の複雑さ圧倒されて思考を放棄するのではなく、複雑さを受け容れてどのように行動してゆくことができるかを考える。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	20	講義やグループワーク中の発言・傾聴の姿勢。チームとしての学びにコミットしているか。
グループ相互評価	20	自分自身を含めた、グループメンバーの貢献度に対する相互評価
グループレポート	40	3回の演習で起きたことのレポート。システム構造についての気づきの広さと深さ
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

各授業のあとに個人の振り返りを記入して提出
各演習のあとにグループでのレポートを作成して提出

質問や相談への対応

随時、メールやSlackによる。
必要に応じて、週1時間程度のオフィスアワーを設ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『学習する組織——システム思考で未来を創造する』ピーター・センゲ	英治出版	2012	

参考書・参考資料等

『社会変革のためのシステム思考実践ガイド——共に解決策を見出し、コレクティブ・インパクトを創造する』デイヴィッド・ピーター・ストロー（英治出版, 2019）

『世界はシステムで動く——いま起きていることの本質をつかむ考え方』ドネラ・メドウズ（英治出版, 2015）

受講生に臨むこと

グループワーク中心の構成のため、積極的な参加を求める。（耳だけの参加不可）

その他・特記事項

オンラインホワイトボードを使用。PC、Mac、タブレットからの参加が必要である。

身体性思考

更新日：2023/01/10 08:59:08

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0200A	科目コード	S0200
担当教員	藤本 靖						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

「外の世界にある情報に出会い、それを感覚として受けとめて表現する」われわれが日常当たり前に行っているこのプロセスを「身体」をベースに考察することが「身体性思考」である。

先行きの見えない不確実な世界

を生き抜くためには、持続可能性を持つ未来を構想する創造力、人や社会とつながる共感力が必要となる。

本講義では、創造力や共感力の源泉となる「身体性」について、理論（神経生理学）と実践（ボディワーク）を交えて講義する。

授業のねらい

本講義は以下の内容を修得することを目標とする。

- ・神経生理学の基本を学ぶことで、自らの心身の置かれている状況を把握し、その対処方針について理解できるようになる。
- ・ボディワークの基本を理解、体験することで、セルフケアの方法を身につけて、自立した心と体になることを目指す。
- ・西洋医学的「健康」、トレーニング科学的「運動能力」と異なる文脈である「身体性=Embodiment（体現化）」を理解、体験し、未来を構想する思考力を身につける。

到達目標

教授方法

講義と演習を織り交ぜたワークショップ形式。毎回、演習やディスカッション、ダイアログを通してを授業を行う。

履修条件

なし

授業計画

1	「身体性」とは何か（ボディワーク視点から）
2	「身体性」とは何か（神経生理学視点から）
3	現代人の神経系について（神経系の自己調整力）
4	「身体性」と「創造力」の関係について
5	「身体性」と「共感力」の関係について
6	東洋的身体技法における「身体性」について
7	「身体性思考」で未来を構想する

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	参加貢献と基礎知識の理解度
レポート	50	適宜レポート提出。理解度に応じて評価。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ・毎回指定された課題・問題に取り組む。
- ・授業で学んだ内容をもとに、最終講義終了後にレポートを作成して提出する。

質問や相談への対応

- ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。
- ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントを行う。

教科書・テキスト

基本方針

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「人間関係が楽になる神経の仕組み 脳幹リセットワーク」藤本靖	講談社	2019年9月	

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。

受講生に臨むこと

主体的に課題やディスカッションに取り組むこと

その他・特記事項

特になし

人類学的思考

更新日：2023/01/10 08:59:08

開講年度	2022	学期	3期	シバースコード	S0210A	科目コード	S0210
担当教員	織田 竜也						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

文化人類学は「文化を通して人間集団を理解する」学問分野である。文化は集団が共有する世界観であり、時代や地域の制約を受けて常に変化する。人間が創り出す世界観の構造、他者理解のメカニズム、世界各地の様々な文化現象について解説する。具体的にはローカルナレッジ、創られた伝統、トリックスター、贈与論、構造主義、暗黙知などを取り上げ、文化人類学が磨いてきた思考について理解を深める。持続可能性については現地の世界観から発想する。

授業のねらい

文化人類学の概念や思考様式について基礎的な知識を修得する。世界観の相違や転換に関する専門用語や着眼点を理解する。「構造主義」「暗黙知」について経験的な感覚を伴って説明できるようになる。「多様な価値」や「様々な視点」といった大雑把な解釈ではなく、異文化に対して具体的な事例を想定し、自分から他者の価値や視点を発見する姿勢を身につける。

到達目標

教授方法

オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし。

授業計画

1	自然と文化：世界観の構造、自分のでき方、「普通・常識・当たり前」とは何か
2	ローカルナレッジ：強固な地域の知、異文化理解の難しさ、「生理的に無理」を克服する
3	創られた伝統：伝統の長さ、民族と国民、文化の商品化
4	トリックスター：世界観の転換、道化、神話
5	贈与論：経済人類学、クラとポトラッチ、沈黙交易
6	構造主義：神話分析、現実を組み替える、コンステレーション
7	暗黙知：身体の統一感覚、他者への潜入、世界の全体的理解

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	10	毎回の授業後に「リアクションペーパー」を提出。
試験	90	記述穴埋め式問題。ノート持ち込み不可。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事後学習：映像視聴、文献読解など、随時指示する。

質問や相談への対応

面談を希望する日時をメールで問い合わせること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

山口昌男『学問の春：知と遊びの10講義』（2009年、平凡社新書）。ティム・インゴルド『人類学とは何か』（2020年、垂紀書房）。マイケル・ポランニー『暗黙知の次元』（2003年、ちくま学芸文庫）。

受講生に臨むこと

口頭の講義内容をノートするように指導する。

その他・特記事項

特になし。

健康マネジメント特論

更新日：2023/01/10 08:59:09

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0220A	科目コード	S0220
担当教員	宮崎 紀枝						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

人々がその人らしく生き生きとした生活を送るためには、健康を資源にすることが不可欠である。このために、個人からコミュニティまでの「健康」の概念を正しく理解し、豊かな人生の創造に向け、いかに健康を資源としてマネジメントするかを追究していく。
個人の健康と所属するコミュニティの健康が相互に影響し合うこと、思考・活動などのパフォーマンスの質や量に影響することを知り、人々の健康と生活の営みが密接に影響しあっていることを理解する。個人や所属するコミュニティの健康課題を抽出、身近な解決策の試行、新たな対策の創出を通じ、健康マネジメントの重要性を理解する。

授業のねらい

- ・健康の概念を理解し、QOLの向上やヘルスプロモーションの理念に基づいた人々の生活を営む重要性を学ぶ。
- ・個人の健康管理、コミュニティメンバーの健康管理の重要性を学び、個人の健康がコミュニティに与える影響、コミュニティの健康が個人に与える影響を理解する。
- ・自分自身の健康生活を振り返り、改善に向けた目標・行動計画をたて試行・評価できる。
- ・既存の社会資源・健康システムを知り、所属コミュニティの健康課題の抽出、課題解決をデザインできる。

到達目標

教授方法

主にオンライン授業にて実施する

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション 健康とは何か（個人・家族からコミュニティまで）
2	健康状態とパフォーマンスへの影響
3	健康状態のアセスメント①（人間のからだところ）
4	健康状態のアセスメント②（環境の変化と人への影響）
5	健康状態のアセスメント③（所属コミュニティの健康を考える）
6	保健行動のきっかけをデザインする
7	健康をまもる解決策の創造

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
提出課題	60	自己管理票（10%） その他提出物（20%） 最終レポート（30%）
プレゼンテーション	40	発表内容（資料10%、内容20%、説明等10%）
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

自身の健康を振り返り、行動計画をたて実際に期間中試行してみよう。
所属コミュニティの健康課題の抽出のために事前・事後学習が必要（コミュニティの保健統計やメンバーの健康把握等、既存の社会資源やシステムなどを把握）

質問や相談への対応

質問時間は授業時間内に確保するように配慮する。時間外では、質問や相談は主にMailで対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	教科書の指定なし			

参考書・参考資料等

参考書は、学習資源一覧として資料配布予定

受講生に臨むこと

健康自己管理と所属組織の健康課題に積極的に取り組んでほしい。

その他・特記事項

特になし

公共経営特論

更新日：2023/01/10 08:59:10

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	S0230A	科目コード	S0230
担当教員	真野 毅						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

持続可能な社会の実現には、公益のために存在する行政組織も、社会の変化に対応して戦略思考への転換が求められている。本講義は、行政組織の改革に求められる戦略思考への転換と具体的な改革の手法を学ぶ授業である。具体的には、戦略策定を重視してきた計画行政から、現場での執行を通じて戦略を形成していくという創発戦略への戦略思考の転換の必要性と、その実現に必要な組織改革と協働に関する経営理論を学ぶ。そのうえで、自治体改革に実践的に活用されている行政評価とロジックモデルと行政におけるデザイン思考を学ぶ。

授業のねらい

本講義は、本研究科が目指す公民連携をリードする行政職員に公民連携に必要な戦略思考と具体的手法を学んでもらうことを狙いとしている。

到達目標

1	公民連携の構築に求められる経営理論と実践に必要な知識を学び、それぞれの職場で応用できるようになることである。
---	--

教授方法

講義で学んだ内容と質問をそれぞれ100字でまとめてもらい、次回の講義の最初に共有し、学生間で議論する。最終の授業では、受講生が関係する組織に関連した「組織改革」をテーマとした発表を行い、学生間での学びを深める。オンライン授業で実施する。

履修条件

公共経営の単位を取得していること。

授業計画

1	ガイダンス 公共を運営する戦略思考の転換（戦略計画から創発戦略へ）
2	組織改革の処方箋（組織改革の理論）
3	組織改革の処方箋（協働の理論）
4	行政評価を活用した自治体改革
5	ロジックモデルを活用した自治体改革
6	行政におけるデザイン思考
7	発表 組織の改革

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加と議論における貢献度合い
最終発表	50	授業の理解度と改革の実現可能性
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：事前に提示したテキストを読んでおくこと。
事後学習：講義で学んだことを100字に整理してまとめ、質問があれば100字以内にまとめてレポートすること。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールまたは授業終了後随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	佐藤徹編『エビデンスに基づく自治体政策入門—ロジックモデルの作り方・活かし方』	公職研	2021	

参考書・参考資料等

授業内で指示する

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な授業参加を望む。

その他・特記事項

特になし

ジェンダー・ダイバーシティとサステナビリティ

更新日：2023/01/10 08:59:10

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0240A	科目コード	S0240
担当教員	渡邊 さやか						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

ジェンダーにおける基礎的な知識としての歴史・国内外の動向・取り組み事例などを学ぶと共に、ジェンダーやダイバーシティの視点からの企業・組織としてのサステナビリティについて事例も含めて学ぶ。

現代社会においてジェンダーについて知っておくことは、公共・民間どちらにとっても必須であると共に、新たな事業創造のきっかけとなる視点を身につけることにもつながる。

授業のねらい

ジェンダーとしての基礎的な知識を理解しておくと共に、今後の企業のサステナビリティに必須となるジェンダー/ダイバーシティについて理解した上で実践してもらうことが狙い。

授業を通して学生たちは、現代社会においてジェンダーについて理解していることは教養であることを認識するとともに、自分自身の中にあるアンコンシャス・バイアスに気づき、自分自身や組織内においてもよりイノベーションが起きやすい環境づくりや意識づくりができるようになる。

到達目標

教授方法

基礎知識としての講義に加えて、ゲストも含めて事例を取り扱いながら、企業や組織のサステナビリティについて学びながら、グループディスカッションで理解を深める。

オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	ジェンダー/ダイバーシティの基礎（歴史・国内外動向）
2	ジェンダー/ダイバーシティの基礎（企業や組織として知っておくべき基礎知識、海外事例）
3	ジェンダー/ダイバーシティにどう取り組むのか：先進事例企業から学ぶ
4	ジェンダー/ダイバーシティにどう取り組むのか：先進地域から学ぶ
5	ジェンダー/ダイバーシティと働き方について：先進事例から学ぶ
6	ジェンダー/ダイバーシティと新規事業について：起業家から学ぶ/ジェンダー投資家から学ぶ
7	発表：講義からの学びと今後のそれぞれの組織での取り組みについて

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
発表	30	事例を学んだ上で、自分ごとにできているか。
授業への取組	30	積極的に質問や発言をしているか。
レポート	40	講義全体の理解の深さ
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

講義において共有する参考文献を事前に読んでおく他、自らの組織に立ち返ったときの課題について事前に整理しておくことを期待する。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

講義まえに連絡する。

受講生に臨むこと

積極的な講義への参加

その他・特記事項

特になし。

企業論

更新日：2023/01/10 08:59:11

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0250A	科目コード	S0250
担当教員	中川 亮平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

経営学という学問は「よいことを上手に成し遂げる方法を探求する学問である」（加護野, 2014, 238頁）と定義されているように、伝統的な経営学のテーマである「上手に成し遂げる」ことに加え、企業がそれを取り巻く多様な利害関係者や社会にとって持続的に「よいこと」をする存在であるためにどうあるべきかが問われている。本講義は、この「よいこと」について、企業と多様な利害関係者との持続的な関係について考察してゆく。具体的には、「企業統治」「コーポレートガバナンス」「よいこと」を定義したうえで、企業形態論や統治論で議論されていることからこれらを紐解いていく。また、株式会社制度がどのように発展してきたのかを学び、現代の企業統治の実態、昨今のコーポレートガバナンス改革の問題点などを分析する。

授業のねらい

- ①企業の存続にとっての企業統治の意義と手段について理解する。
- ②企業の競争力強化と不祥事を防止するための手段について理解する。
- ③企業統治をめぐる実社会における昨今の動向を理解し、批判的に考察できるようになる。

到達目標

教授方法

講義および学生によるプレゼンテーションおよび小集団討議の時間を設け、学生間でも相互に理解を確認しながら授業を進める。オンライン授業にて実施する。

履修条件

履修の前提として、経営学の基本的理論を理解しておくこと。また内外の経済的・政治的・社会的背景とその変遷について、また会計分野の一定の理解が求められる。

授業計画

1	イントロ、「企業統治論」の定義、企業の経営と統治（第1章）：企業と社会、社会における価値の創造、利益とその分配
2	企業制度の基本的なしくみ（第2章）、資金調達の基本的なしくみ（第3章）：企業形態の多様性、下位者の多様性、株式会社のメリットとデメリット
3	企業家と組織（第4章）、企業家と社会問題の解決（第5章）：資金調達的手段、企業家とはなにか、組織ライフサイクルと企業統治、社会問題の解決者としての企業
4	会社観の多様性（第6章）、多元的な統治（第7章）：会社用具観、日本における多様な統治、従業員による統治
5	同族による統治（第8章）、非営利組織（第9章）：同族経営の存在感、同族の果たした役割、非営利組織の統治
6	経営戦略論とよいこととの関係（第10章）、企業の責任（第11章）：経営戦略論史、投資家資本主義と経営戦略論、「企業の責任」についての様々な見方
7	良心による統治（第12章）、まとめと復習：標準的な企業統治と良心による企業統治、日本型企業統治の核心、新たな日本型企業統治の構築に向けて

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	40	出席しただけでは「授業への貢献度」のポイントとはならない。発言等、授業に対しての貢献が求められる。
小テスト	20	単元が終わるたびに理論を実際の企業や組織の現場でどのように応用すべきかを検討する小テストを実施する。
期末試験	40	全体的な理解度を測るため期末試験を実施する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- 該当する教科書の単元を事前に理解して授業に臨むこと。
- 各単元後の小テストに向けて、毎回の授業内容を復習して理解すること。

質問や相談への対応

オフィスアワー、またはアポイントに応じて常時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	吉村典久、田中一弘、伊藤博之、稲葉祐之『企業統治』	中央経済社（ベーシックプラス）	2017	
--	---------------------------	-----------------	------	--

参考書・参考資料等

- 加護野忠男（2014）『経営はだれのものか—協働する株主による企業統治再生』日本経済新聞出版社
- 宮島英明（編著）（2017）『企業統治と成長戦略』東洋経済新報社
- 田中一弘（2014）『「良心」から企業統治を考える』東洋経済新報社
- 伊丹敬之（2000）『日本型コーポレートガバナンス—従業員主権企業の論理と改革』日本経済新聞社

受講生に臨むこと

- 授業時には発言や質問など能動的な参加が求められる。
- 履修生の知見を積極的に共有し、学生間で相互に学びを高めること。
- 講義外でも積極的に多方面の読書や情報理解を怠らないこと。

その他・特記事項

一部英文資料を用いる。

国際経営特論

更新日：2023/01/10 08:59:12

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0260A	科目コード	S0260
担当教員	森本 博行						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

少子高齢化社会を迎えて国内市場規模が縮小し、内需型企業や地域経済のグローバル化や、さらに持続可能性(サステナビリティ)を追求するESG(環境、社会、ガバナンス)経営が叫ばれているが、本講義では具体的な企業事例について講義することで、国際経営におけるESG経営を概説する。

授業のねらい

本講義では、国際経営において持続可能性を追求するESG経営の実際、および課題について検討することを目的としており、グローバルに活躍できるESG経営の実践力、論理的理解力、問題解決力を修得することができる。

到達目標

教授方法

- ・講義形式
- ・オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	持続可能性を追求するSDGsに向けた国際経営
2	パナソニック・インドのボリュームゾーン戦略(国際マーケティング)
3	トヨタ自動車における国際生産の進展(国際生産)
4	共立精機(大連)における現地化(中国と日本企業)
5	中農製作所のベトナム事業展開における現地人社長の登用(ベトナムと日本企業)
6	日本電産のM&A不敗神話(M&Aと国際ビジネス)
7	カルフルの障がい者雇用促進に向けた取り組み(多様性と国際ビジネス)

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	40	事前学修の企業事例の課題発見と理解度
期末レポート	60	国際経営におけるESG経営の理解度
合計	100	

授業外における学習(事前・事後学習等)

- ・事前に、テキストの企業事例を読み解くこと。

質問や相談への対応

メール等で下記アドレスに質問 morimoto.hiromichi@u-nagano.ac.jp

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	安室憲一監修、古沢昌之、山口隆英編著『安室憲一の国際ビジネス入門』	白桃書房	2019	

参考書・参考資料等

"Social-Impact Efforts That Create Real Value," HBR, September-October, 2020 (邦訳「ESG戦略で競争優位を築く方法」DHBR2021年1月号)
 "Emerging Giants: Building World-Class Companies in Developing Countries," with Krishna G. Palepu, HBR, October 2006. (邦訳「新興市場で成長する企業の条件」DHBR2007年)

受講生に臨むこと

- ・事前学修として、指定された企業事例を読み解く必要がある。

その他・特記事項

-
- ・SDGsの17項目について課題解決についてESGの企業事例を通して理解することができる。

人材マネジメント

更新日：2023/01/10 08:59:13

開講年度	2022	学期	3期	シラバスコード	S0270A	科目コード	S0270
担当教員	宮下 清						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

人材マネジメント(HRM)の基礎知識と基本原理を修得すること、持続可能な社会における環境、戦略、組織と関連させての理解を主眼とする。さらに事業体や組織における人材マネジメントに関わる諸問題の解決につながる力を修得することも目指している。

人材マネジメントは経営資源の中でも最も重要とされる人的資源（Human Resource）すなわち人材を対象とし、組織目的を達成するための人材の活動や施策から成り立つ。本講義では人材マネジメントの基礎となる概念や理論を学び、同時にそれらが実践的に使われている人事制度や施策についての理解を深める。人材マネジメントと環境、戦略、組織、育成、雇用、異動、評価、賃金、国際人事などが具体的な内容となる。

授業のねらい

人材マネジメント(HRM)の履修により、受講者は次のことができるようになることを目標とする。

- ・持続可能な社会、環境、経営戦略や組織と人材マネジメントとの関わりを理解し、自分の立場からそれを考えることができる。
- ・人材マネジメントに関する基本的な用語や概念については自分の言葉で説明することができる。
- ・企業や組織における課題を人材マネジメントの観点から探り、それらの解決に役立つ方法を提案することができる。

到達目標

教授方法

授業ではシラバスに沿ったテーマについて、テキストや論文・資料などに基づいて、重要な点を主とした解説を行う。また質疑、発表やグループ討議等も含め、双方向かつ主体的な学びが行えるよう進めていきたい。

オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし（関連する履修科目：「マネジメントの基礎」「組織の基礎」を履修していること）

授業計画

1	ガイダンス：人材マネジメントの学び方、経営・戦略・人事、持続可能(SDGs)な環境と経営、外部環境と内部環境
2	人材マネジメント(HRM)とマネジメント：人事労務管理と人材マネジメント、人事管理の意義と発展
3	人材とモチベーション：労働意欲と人間観、動機づけの人事施策、職務充実、マネジメントとリーダーシップ
4	人材育成と教育訓練：人材育成の概念、経営と人材育成、人材育成の方法とプログラム、日本企業の人材育成
5	雇用マネジメント：採用、配置、異動マネジメント、人材ポートフォリオ、昇進昇格、資格制度、管理職と専門職
6	評価と報酬管理：職務評価、人事考課、コンピテンシー、目標管理、賃金管理、賃金体系、年俸制、賞与
7	国際人事管理：国際経営と人材マネジメント、グローバル人材育成、人材マネジメントの総合事例、まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	40	授業全体の理解度の評価
上記以外の評価	30	授業への参加（質疑、討議、コメント等）による評価
授業での課題	30	授業課題の提出やレポートの評価
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

テキストや課題の資料を理解し、課題を考え作成（提出）する「事前学習」および、講義や討議で学んだ内容を整理し、学習を定着させる「事後学習」が求められる。

質問や相談への対応

オンライン授業でのチャット、授業終了時の面談、また随時、メールで対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	宮下清『テキスト経営・人事入門』	創成社	2013年	他に、関連する論文・資料（論文・資料は随時配布）

参考書・参考資料等

上林憲雄ほか『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣、2018年。
佐藤博樹ほか『新しい人事労務管理』有斐閣、2019年。

受講生に臨むこと

企業や組織の経営・人事に関する情報・記事を経済ニュース、新聞、ネットなどから関心を持ち、また読んでみることを。

その他・特記事項

自らの経験、文献や記事から得た情報を人材マネジメントの学びと関連させて考えてみることを。

ファミリーアントレプレナーシップ

更新日：2023/01/10 08:59:14

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0280A	科目コード	S0280
担当教員	伊 大栄						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

地域を拠点に長く存続し、地域（地場）産業を担っている企業のほとんどは、ファミリービジネスである。地域活性化や地域社会が直面する課題解決には地域企業のイノベーションが不可欠である。ファミリービジネスこそアントレプレナーシップに富み、革新的なイノベーションに適している、という事実が最近の研究で明らかになりつつある。

本講義では、伝統や歴史にとらわれず、アントレプレナーシップを発揮して更なる発展・成長を成し遂げたファミリービジネスの事例を用いて、ファミリービジネスが所有する資源の固有性とアントレプレナーシップとの関係のあり方がどのようにファミリービジネスの革新性につながるのかを議論する。単なる理論の理解だけではなく、現実問題の解決に適用できる実践的なインプリケーションを創出できるようにする。

毎回のセッションでは、特定の事例を教材とし、事前に課される課題に沿ってグループ討議を行ったあと、グループ間で討議結果をシェアする。

最終的には、全体の討議内容をディスカッション・ペーパーとしてまとめていく。取り上げる事例の選定については、各セッションのトピックにもっともふさわしいと思われるケースを用意し、関連資料・文献を事前に配布する。

授業のねらい

日本のファミリービジネスの多くは、創業から事業年数の長い長寿企業（老舗）ある。ファミリービジネスの長寿性は、環境変化や事業リスクに果敢に挑戦して革新を生み出してきたことによるものであり、単に先代からの事業を固く守り抜いたからではない、ということを実例研究を通じて理解する。

毎回のセッションにおいて、事前に課される課題に沿って事例についてグループディカッションを行い、理論の理解だけではなく、現実問題の解決に適用できる実践的なインプリケーションを創出できるようにする。

到達目標

教授方法

講義に加え、随時ケース（事例）を用いたディスカッションを行う。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	ファミリーアントレプレナーとは何か
2	ファミリーアントレプレナーシップ事例（1）：世代を跨ぐアントレプレナーシップ
3	ファミリーアントレプレナーシップ事例（2）：ファミリービジネスの社会情緒的資産と地域との関係性
4	ファミリーアントレプレナーシップ事例（3）：ファミリービジネスと地域（地場）産業のイノベーション
5	ファミリーアントレプレナーシップ事例（4）：ファミリービジネスの再創業（伝統と革新）
6	ファミリーアントレプレナーシップ事例（5）：ファミリービジネスの永続性とイノベーション
7	まとめ：ワークショップ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	60	授業における発表・グループ討論への参加
レポート	40	各セッションの事前レポート（20%）期末の課題レポート（20%）
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

各セッションで取り上げる予定のケースについて、事前配布の資料・文献を読み込み、自分なりの理解を形成すること。
また、必要に応じて追加文献をレビューしてくること。

質問や相談への対応

メールなどにより、常時対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	山田幸三編『ファミリーアントレプレナーシップ』	中央経済社	2020	

参考書・参考資料等

- ・尹大栄（2014）『地域産業の永続性』、中央経済社。
- ・ファミリービジネス学会・奥村昭博・加護野忠男編（2016）『日本のファミリービジネス』、中央経済社。

受講生に臨むこと

深いレベルを議論ができるように、事前にリーディング資料やケースをしっかりと読み込んだうえで講義に臨むこと

その他・特記事項

各セッションに関連した資料・論文を適宜紹介、または配布する。

財務会計Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:59:14

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0290A	科目コード	S0290
担当教員	衣川 修平						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

会計は実学であり、現実には様々な用途に使用されている。株主が投資判断のために用いたり、銀行が与信判断のために用いたり、経営者が経営判断のために用いたり、納税のために用いたりするのが一例であろう。このような目的が違えば、会計の処理方法は異なってくる。本講義では、様々な目的に応じて会計が発達してきた歴史や、現制度において様々な目的に応じた会計処理が共存している様を確認しながら、会計とは何かを考えていく。

授業のねらい

本講義では、公表財務諸表の中核をなす、減価償却や減損会計といった会計処理をマスターしたうえで、その理論がどのような会計目的に応じて発達してきたのか理解することを目的とする。
またその他、歴史上、様々な企業・会計目的に応じて会計理論と会計処理が発展してきた歴史を振り返りながら、新しい現代的課題、例えば環境や企業の社会的責任（CSR）に対して、会計がどのように応じようとしているのか、理解するのを目的とする。

到達目標

教授方法

講義と問題演習

また受講生の状況に応じて、オンラインで講義する可能性がある。

履修条件

財務会計Ⅰを履修していることが望ましい

授業計画

1	会計の歴史から学ぶ：複式簿記の誕生と近代会計の成立まで
2	会社と会計は誰のものか
3	有形固定資産の評価と配分①：減価償却の仕訳
4	有形固定資産の評価と配分②：減価償却の機能と理論
5	有形固定資産の評価と配分③：減損会計の仕訳と理論
6	有形固定資産の会計処理から学ぶ会計の機能
7	新しい企業目的と会計の可能性：マテリアルフローコスト会計と企業の社会的責任（CSR）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
平素点	50	ディスカッションへの参加など講義への積極的な貢献度をもとに評価する。
理解度	50	講義内での問題演習、発表内容をもとに評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

紹介された文献を読み、また当該内容の簿記・会計の問題演習を行うことが望ましい。

質問や相談への対応

授業時間およびメールで対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	テキストは授業時に指示する。			

参考書・参考資料等

伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞出版

稲盛和夫『稲盛和夫の実学—経営と会計』日本経済新聞出版

受講生に臨むこと

積極的に発言し、自ら勉強する姿勢を取ることが望ましい。

その他・特記事項

企業と法

更新日：2023/01/10 08:59:15

開講年度	2022	学期	2期	シバ [®] スコド [®]	S0300A	科目コード	S0300
担当教員	金 賢仙						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本講義では、企業を取り巻く法制度について学習する。法学総論、企業の組織に関する法領域、情報開示に関する法領域、資金調達に関する法領域、企業の取引に関する法領域、企業と労働者に関する法領域、企業と市場に関する法領域、企業の知的財産権に関する法領域、企業と訴訟に関する法領域等について学習をする。

授業のねらい

企業を取り巻く法制度（組織、情報開示、資金調達、取引、企業と労働者、企業と市場に関する法領域、知的財産権に関する法領域、訴訟に関する法領域等のうち、講義で取り扱うテーマ）について、正確に理解をすることができるようになる。

現行の法制度の課題を抽出し、分析をすることができるようになる。

法制度の課題について、新たなルールメイクや改善を提示するための基礎的なバックグラウンドとなる知識を得ることができるようになる。

到達目標

教授方法

原則として、講義形式とする。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

法学（特に、企業と関係する諸法制度）について基礎的な知識を有していること。

授業計画

1	ガイダンス
2	企業の組織に関する法領域
3	企業の情報開示（ディスクロージャー）に関する法領域
4	企業の資金調達に関する法領域
5	企業の取引に関する法領域
6	企業の労働者に関する法領域
7	まとめと振り返り

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	100	提示された法的課題に関して、正確に理解をし、法的問題点を抽出及び分析して、解決策を提示しているかどうか。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前：学習内容に関係する学術文献を事前に読了し、理解しておくこと。

事後：復習をして問題意識を深めておくこと。

質問や相談への対応

オフィスアワーを設定するので、必要に応じて申し出ること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	別途指定する。			

参考書・参考資料等

別途指定する。

受講生に臨むこと

講義の初回に、各自の問題意識や関心のあるテーマについてアンケートを実施するので、用意しておくこと。

その他・特記事項

特になし

経済学特論：産業と市場における企業行動

更新日：2023/01/12 08:15:48

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0310A	科目コード	S0310
担当教員	穴山 悌三						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本講義は、ミクロ経済学・ゲーム理論・企業の経済学・産業組織論等の、理論経済学および応用経済学で扱う分析用具を用いて、理論と実証の両面から、特に産業・市場における企業行動に焦点を当てて考究する。主なテーマは、現代経済学の目的と方法、企業の境界、価格機構、経済厚生などの企業行動を考究する上で重要な経済学の理論と実際、参入阻止行動、共謀、垂直的取引制限などについての産業組織論やゲーム理論のアプローチを用いた企業行動の分析、企業行動をめぐる競争政策・規制の考察、そして持続的発展を目指す企業行動の検討などである。授業はパワーポイントによる解説と対話の他、参加者の報告・討議を実施する。

授業のねらい

授業では、現代経済学における企業行動に関する理論と実証の考え方を学び、現実の産業・市場における企業行動の分析について理解を深める。本科目を履修することにより、企業行動に関する経済理論知識とその応用力が身に付き、ソーシャル・イノベーションに関する産業・市場について、企業の戦略的行動などを分析する力が身に付く。また企業の持続的発展や経済厚生の観点から政策・規制を評価し、関連するテーマについて考察・論評できるようになる。

到達目標

教授方法

主にパワーポイントを用いた講義と対話・討議を行う。第1回授業で授業のガイダンスを実施する。第7回授業では各自のレポート（4000～6000字程度、テーマや書き方等は第2回授業で指示する）を元にプレゼンテーションと討議を実施する。なお、一方通行の講義とならないよう、授業中は積極的に対話を行う。また経済学の基礎知識が不十分な学生にはオンデマンド教材による補習や反転学習によって水準向上を可能にする。オンライン授業にて実施する。

履修条件

初級・中級ミクロ経済学やゲーム理論、微分等の数学に関する基礎知識があれば授業理解に有用である。ただし講義中に平易な解説を加え、必要に応じてプリント等でも補強するため、これらは必須ではない。

授業計画

1	イントロダクション：本講義の狙いと概要、現代経済学における企業行動分析のアプローチ
2	企業の理論（企業とは、企業の境界、企業行動目標、現代的な諸課題；SDGsとガバナンス）
3	市場構造と価格機構（需要と供給、完全競争市場・独占市場の市場均衡、価格差別）
4	経済厚生（消費者余剰と生産者余剰、市場均衡と厚生の比較分析）
5	寡占市場における企業行動（寡占市場のモデル、参入障壁と参入阻止行動、ネットワーク外部性）
6	企業間関係と競争政策・規制（プライスリーダーシップ、垂直的取引制限、共謀、合併、公正取引）
7	持続的発展を目指す企業行動（事例検討：SDGsやDXの進展とイノベーション、産業融合等の変容をふまえた企業行動）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	70	授業中の有益な発言内容と、LMS（ラーニング・マネジメント・システム）等を用いた意見記述・討論内容等を評価する。評価基準は、正しい理論的理解、優れた仮説立てと考究を含む発言や記述を高く評価する。
レポートとその関連討議	30	第2回授業で指示するテーマと書き方でレポートを書き、第7回授業で発表する。評価基準は、分析力に優れ、独自性のある付加価値が認められるものが30点満点、資料等で一通り調べてあるものが15点である。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習については、リーディング・アサインメントで1週間前の講義時までには必読文献と参考文献とを指定するので該当部分を読んでくること（準備学修の目安は各100分程度）。事後学習については、LMSで演習問題やクイズを出すので積極的に取り組むこと（目安は各30分程度）。

質問や相談への対応

授業中はもちろん、授業前後やオフィス・アワーの質問等を歓迎する。またLMS等を用いて各回の感想・質問等を記入してもらい、全てに目を通した上で適宜返答を行い双方向のコミュニケーションをとるので積極的に活用すること（詳細は第1回授業で説明する）。

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	使用しない。			

参考書・参考資料等

参考書として次を推薦するので自習に用いること。各人の関心とレベルに応じて授業開始後にも適宜追加紹介する。

◇Waldman D.E., and E.J.Jensen[2019], Industrial Organization-Theory and Practice, 5th Ed., Routledge.

◇Belleflamme, P., and M. Peitz [2015], Industrial Organization -Markets and Strategies-, 2nd Ed., Ca

受講生に臨むこと

ソーシャル・イノベーションの実装・展開に関わる産業・市場における企業行動について経済学的な理解・分析を深めることはとても有用である。好奇心を持ち積極的に挑戦すること。

その他・特記事項

本授業で扱うテーマは他の学問領域とも広範に関わっている。理論的分析の基礎となるミクロ経済学、ゲーム理論、数理統計学はもとより、ビジネス・エコノミクス、規制の経済学、経営学のマネジメントやマーケティングの戦略論などとも関連を持つ。これらの科目を併せて学ぶことで、より一層豊かな知識や応用力を得ることが期待できる。担当教員は、企業等における産業組織の分析に係る実務経験を有しており、実態に即した解説等を行うことができる。

公共経済学

更新日：2023/01/12 08:15:49

開講年度	2022	学期	1期	シバコード	S0320A	科目コード	S0320
担当教員	中条 潮						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年1学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本講義では、持続可能な社会を形成するうえで基礎となる市場メカニズムの役割と市場の失敗について議論する。

持続可能な社会は、本来は、市場の失敗に政府が適切に介入することで達成される。しかしながら、市場の失敗とならんで政府の失敗も大きいことを考えれば、むしろ市場の失敗さえも市場に任せておいたほうがましな場合もある。

この点を考慮すれば、持続可能な社会の達成のためには、民間に努力目標を与え、政府は何もしないほうがましな場合もあり得る。

この点を念頭に置いたうえで、市場メカニズムの機能と市場の失敗・政府の失敗について正しく理解したうえで、いくつかの政策トピックをとりあげて、現行の政策が妥当か否かを履修者による発表を求めて議論し、持続可能な社会構築の基礎とするのが本講義の目的である。

授業のねらい

市場メカニズムの機能と市場の失敗について正しく理解すること、および、それに沿って持続可能な社会構築のために必要な補助・規制政策のありかたを、具体的に特定のトピックについてA4用紙1枚でまとめて提言できる能力を身に付けることを目標とする。

到達目標

教授方法

履修者の発表とそれに対するコメント、ディスカッションとするが、具体的には履修者の能力に応じて履修者と相談して決める。オンライン授業を原則とする。

履修条件

ミクロ経済学と市場の失敗について長野県立大学グローバルマネジメント学部での「ミクロ経済学」および「公共経済学Ⅰ」を履修済みであること、あるいはそれと同等の能力をもつものであること。

授業計画

1	市場メカニズムの役割の正しいとらえかたについての復習（1）社会全体の幸せの最大化、すなわち、総余剰の最大化のためには、市場メカニズムの役割を正しく理解する必要がある。履修者がこの点、正しく理解していないことが多いので、復習を兼ねて、市場メカニズムが正常に機能していれば、市場の失敗がない限り、総余剰の最大化は基本的に達成されること、不用意な価格規制などの市場介入が資源配分をゆがめることを2回に分けて基礎から復習する。
2	市場メカニズムの役割の正しいとらえかたについての復習（2）
3	市場の失敗についての復習
4	政策トピックをとりあげての発表と議論（1）4回にわたって、履修者の興味にあわせてトピックを選び、市場の失敗がないにもかかわらず政策介入することの問題点を発表してもらい、議論し批評する。または、教員から課題を出して議論しながら講義する。履修者の関心にあわせてテーマを選ぶこととするが、外部不経済としての環境問題の内部化において、過剰な内部化政策が実施されていることや、過疎地域の公共交通機関に対して、市場の失敗と関係のない非効率な補助がおこなわれていること、下部構造、教育、医療など、民間で供給されてしかるべ
5	政策トピックをとりあげての発表と議論（2）
6	政策トピックをとりあげての発表と議論（3）
7	政策トピックをとりあげての発表と議論（4）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	100	毎回の発表と議論。発表レポートの内容、発表のパフォーマンスによって判断する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

ミクロ経済学(特に余剰分析)と、市場の失敗について基礎を復習し、理解したうえで授業に臨むこと。授業の事後学習としては、授業であとあげた発表内容のreviseをすること。

質問や相談への対応

必要なら随時。メールでアポをとってください。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

	中条潮 『経済学で読み解く公共・交通政策』	中央経済社	2018年4月	
--	-----------------------	-------	---------	--

参考書・参考資料等

必要に応じてその都度紹介するが、大学院では参考資料、参考書は自身で探すことも勉強であるので、自分で渉猟することを基本とする。

受講生に臨むこと

授業のすすめかたは、具体的には履修者と相談しながら決めるが、ミクロ経済学と市場の失敗についての基本的な知識がない履修者には、それをまず学ぶことから始める。

その他・特記事項

オンライン授業を原則とする。

ファイナンス

更新日：2023/01/12 08:15:49

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0330A	科目コード	S0330
担当教員	永田 邦和						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

企業経営において、資金の調達と利益の還元（ペイアウト政策）は重要な課題である。クラウドファンディング等により新しい資金調達手段が誕生しても、資金調達とペイアウト政策は引き続き重要な意思決定である。この授業では、ソーシャル・イノベーション研究科での学習に必要なファイナンスの基礎知識を身に付けるために、投資決定の理論や資本コスト、資本構成、ペイアウト政策を学習する。また、近年、企業経営とSDGs、持続可能性の関係が重視されているので、ESG投資についても学習する。

授業のねらい

この授業の目標は、今後の学習に必要なファイナンスの基礎知識（専門用語と基礎的な理論）を身に付けることである。基礎知識を身に付けることで、受講生は高度な理論やファイナンスの実務を理解できるようになる。さらに、受講生が、将来資金調達や利益還元を行う際に、直感や経験ではなく、信頼できる根拠に基づいて判断できるようになる。

到達目標

教授方法

担当教員による講義（ただし、質疑応答や討論を含む）
オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	ガイダンス：ファイナンス紹介
2	投資決定の理論
3	リスクとリターン
4	資本コスト
5	資金調達と資本構成
6	利益還元とペイアウト政策
7	ESG投資：持続可能性とファイナンス

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	70	授業での取り組み態度（授業中の課題や質疑応答、討論での発言等）を総合的に評価する
レポート	30	授業の途中か期末に課すレポートの内容を評価する
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

授業では、教員による講義以外にも討論を行うので、事前に予習をしてから参加すること。

質問や相談への対応

対面やオンラインで随時対応するので、事前に連絡すること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	開講時に指定する。			

参考書・参考資料等

砂川伸幸（2017）『コーポレートファイナンス』（第2版），日本経済新聞出版社
井出正介・高橋文郎（2009）『ビジネス・ゼミナール 経営財務入門』（第4版），日本経済出版社
バード・ディマージ（著），久保田敬一他（訳）（2011）『コーポレートファイナンス 入門編』（第2版），ピアソン桐原

ボディ・マートン・クリートン（著），大前恵一朗（訳）（2011）『現代ファイナンス論』（原著第2版），ピアソン桐原湯山智教（編著）（2020）『ESG投資とパフォーマンス』，金融財政事業研究会

受講生に臨むこと

数学や統計学を用いた内容が多いので，辛抱強く取り組むこと。

その他・特記事項

なし

経営史

更新日：2023/01/12 08:15:50

開講年度	2022	学期	2期	シバ`スコト`	S0340A	科目コード	S0340
担当教員	橋本 規之						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

江戸時代末期から21世紀の現在までを対象に、日本における企業経営と企業家の足跡をたどっていく。テーマやトピックによっては、欧米やアジアの事例にも言及する。

各時代の企業家と経営者が直面した制約や見出した課題は何であったのか。その制約や課題にどのように対応していったのか。革新的な企業家・経営者の活動を事実面に即して理解していくことで経営の実像に迫ることにしたい。そして、困難に直面した際の創意工夫や窮地に活路を見出す知恵を学ぶことで、社会的存在として、生活の質の向上と持続可能性に貢献するビジネスとマネジメントのあり方を検討していきたい。

授業のねらい

第一に、主な企業家と経営者を軸に、日本経営史の流れと要点が理解できるようになる。

第二に、各時代の企業家・経営者が直面した制約や課題と生み出した解決法を追体験することで、具体的な課題に直面した際により良い意思決定と問題解決ができることを目指す。

到達目標

教授方法

オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし。

授業計画

1	経営史の視点と発想：経営史の考え方や基礎知識を理解し、実務において経営史の発想や教訓を生かすための準備を整える。
2	戦前の企業経営と企業家Ⅰ：幕末から明治期に活躍した企業家・経営者を取り上げる。
3	戦前の企業経営と企業家Ⅱ：大正期から昭和前期に活躍した企業家・経営者を取り上げる。
4	戦後の企業経営と企業家Ⅰ：戦後の復興期に活躍した企業家・経営者を取り上げる。
5	戦後の企業経営と企業家Ⅱ：高度成長期に活躍した企業家・経営者を取り上げる。
6	戦後の企業経営と企業家Ⅲ：1970年代後半から1980年代の日本の経営の時代に活躍した企業家・経営者を取り上げる。
7	戦後の企業経営と企業家Ⅳ：1990年代以降の時代に活躍した企業家・経営者を取り上げる。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
レポート	50	期末レポートの達成度により評価する。	
授業への取組	50	各回のディスカッションの参加の程度や質問に対する回答の割合で評価する。	
合計	100		

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前の学習では、配布資料や参考文献を読んでおくと、理解が深まる。

事後の学習では、講義内容を具体的な文脈に適用してみることが肝心である。

質問や相談への対応

授業後の教室、電子メール、Zoom、研究室での面談（事前に予約してください）で対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	初回の授業で紹介する。			

参考書・参考資料等

各回の授業で紹介する。

受講生に臨むこと

毎回出席し、ディスカッションに積極的に参加すること。

その他・特記事項

授業は日本語で行う。

ソーシャルファイナンス論

更新日：2023/01/12 08:15:51

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0350A	科目コード	S0350
担当教員	鴨崎 貴泰						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

少子高齢化、経済格差、地方創生などの社会課題が深刻化するなか、NPO、企業、行政、市民など様々な主体が協働して課題解決を行なっていく必要がある。しかし、こうした社会課題解決に必要な資金は不足しており、政府の財政の逼迫する日本では公的資金のみに依存することは不可能である。そこで、民間資金を活用した社会課題解決「ソーシャルファイナンス」に近年注目が集まっている。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的インパクトを生むための金融」と捉えて、その概要と調達手法を学ぶ。

授業のねらい

- ・ソーシャルファイナンスの概要や国内外の最新動向に関する知見を身につけることができる。
- ・社会課題解決に必要な資金調達に必要な知識を体系的に習得し、戦略策定、実行計画策定ができるようになる。
- ・ソーシャルファイナンスに不可欠な「社会的インパクト」を可視化するための評価方法の知識を体系的に習得し、ロジックモデル作成や指標設定等ができるようになる。
- ・官民連携のソーシャルファイナンスのスキーム作りができるようになる。（ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）やコレクティブインパクトなど）

到達目標

教授方法

スライドを用いた講義形式。グループディスカッションやワークショップを行う。オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	ソーシャルファイナンスとは：ソーシャルファイナンスの一般的な理解について解説
2	ファンドレイジング①：NPOやソーシャルビジネスの資金調達方法（理論編）
3	ファンドレイジング②：NPOやソーシャルビジネスの資金調達方法（実践編）
4	社会的インパクト評価・マネジメント①：社会的インパクト評価・マネジメントの一般的な理解について解説
5	社会的インパクト評価・マネジメント②：社会的インパクト評価・マネジメントの手法をワークショップを通じて学ぶ。
6	官民連携のソーシャルファイナンス：ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）と多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念と事例から学ぶ。
7	ソーシャルファイナンスの今後：ソーシャルファイナンスの今後の展望と課題について解説、議論を行う。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	60	クラス内での発言回数と内容、プレゼンテーションの内容、クラスへの貢献度合（建設的批判等）
レポート	40	「講義での学びを活かしたソーシャルファイナンスの実践」をテーマにしたレポートを期末に提出し、その内容で評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

宿題などはないが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めること。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

質問や相談への対応

質問や相談は随時メール等にて対応する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない。			

参考書・参考資料等

・「社会的インパクトとは何か？」マーク・J・エプスタイン (著), クリスティ・ユーザス (著), 鶴尾雅隆 (監修), 鴨崎貴泰 (監修)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4862762077>

・「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

受講生に臨むこと

本講義は単に知識を得るだけでなく、実務や実践にどのように活かせるか、常に考えながら受講すること。

その他・特記事項

特になし

ベンチャー企業特論

更新日：2023/01/12 08:15:51

開講年度	2022	学期	4期	シバーストド	S0360A	科目コード	S0360
担当教員	松野 茂樹						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

この先の見通せない時代においては、企業が安定して10年も20年も続くことは考えにくくなっている。有名企業、大企業と呼ばれる企業に勤めても、定年まで安定した人生を過ごせるという保証もない。これからは、新たにビジネスを作り出すためにも、高い創造力とコミュニケーション能力を発揮できる人財が求められている。また、事業を立ち上げるだけでなく、企業に就職する場合でも、既存のビジネスモデルに囚われない、新たにビジネスを作り出せる人が重用な時代となっている。

本講義では、起業という選択肢を考え、また具体的にはどうやっていくのかを学習する。

授業のねらい

1. 起業・経営の理論の基本を理解できるようになる。
2. 起業が多様なキャリアにおける1つの選択肢であることを理解できるようになる。
3. 起業のためのビジネスアイデアを自身で開発・評価できるようになる。

到達目標

教授方法

理論の理解とスキル習得を目的とした講義形式とグループによる対話やワークショップ、実践演習を取り入れる。
オンライン授業にて実施する。

履修条件

なし

授業計画

1	ガイダンス&イントロダクションシラバスを解説し、ベンチャー企業論とはどういう学問か、学習方法、現代のベンチャー企業が抱える設立や持続の課題などを学ぶ。
2	起業へのマインドセット、人生論やめく力、失敗を恐れず前へ進むマインド（思考）、事業を展開するうえでの仲間づくり（チーム作り）を学ぶ。
3	ビジネスアイデアの創出（ローカルとスタートアップ）ビジネス創出における違いを学ぶ
4	起業とお金（資金調達、クラウドファンディング、補助金、税金）スタートアップ企業としての資金調達の各種手法のメリット、デメリットやVCとの上手な関わり方について学ぶ。
5	事業構想と収支計画（講義と演習）事業アイデアを形にして、スケールするまでの評価や実行のためのビジネスプラン作成法を学ぶ。
6	ビジネスプラン構築と演習マーケティングを学び、スモールビジネスのアイデアを創造する。（事前学習必須）
7	まとめとふりかえり（発表、評価）事業演習に基づいた学びの結果発表

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
レポート	40	各回で示す課題の提出	
発表	30	事業アイデア創出への取り組み	
授業への取組	30	授業中における意見の発表など授業への参加意欲、理解度	
合計	100		

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：各実施回のテーマに沿って予め講師より指定された参考図書等を利用し学習すること、事例研究を行うこと

事後学習：各実施回のテーマに沿って事例を調べ、講義内容の理解を深めること

質問や相談への対応

授業時間外の質問や相談はメールを基本とする。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定しない			

参考書・参考資料等

適宜紹介・配布する

受講生に臨むこと

授業への積極的な参加を望む。また授業では自らの意見を述べ、同時に他人との違いを理解し、受け入れる姿勢が重要である。

その他・特記事項

特になし

企業法務・税法

更新日：2023/01/12 08:15:52

開講年度	2022	学期	3期	シバコード	S0370A	科目コード	S0370
担当教員	田中 慎						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年3学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

競争から共創へと企業の在り方が変化する中、ビジネスモデルの変化に伴い、企業が知っておくべき法務や税務の知識は大きく変化している。また、社会のオンライン化が急速に進み、地方における起業であっても、オンラインを前提とした法務や税務の知識も必須となっている。本講義は大きく2部構成とし、最新の社会動向を踏まえた企業の法務と税務、オンライン社会の法務と税務に関する実務上の知識を身に着ける。特に創業間もない企業や中小企業、ベンチャー企業が最低限知っておくべき税務、資金調達、秘密保持契約、知的財産権、労務、契約、著作権等をテーマとし、実務視点で体系的な理解を深める。

授業のねらい

- ・法務・税務リスクを踏まえたビジネスモデル検討ができるようになる。
- ・最新の社会動向を踏まえた企業の法務・税務の実務リスクを知る。
- ・オンライン社会の法務・税務の実務リスクを知る。
- ・各種専門家と連携し適切な判断をする力を身につける。

到達目標

教授方法

講義を中心にディスカッションを交え、双方向型での議論を行う。実務に即した実践的な講義であるため、履修生からの質問や意見も積極的に求める。オンライン授業にて実施する。

履修条件

特になし

授業計画

1	企業の法務と税務 概論
2	起業家の資金調達と金融関連法（ゲスト予定 ※中小企業診断士）
3	共創における秘密保持契約と知的財産実務（ゲスト予定 ※弁理士）
4	オンライン社会の法務と税務 概論
5	リモートワーク時代の雇用契約と労務リスク（ゲスト予定 ※社会保険労務士）
6	デジタル時代の契約知識と著作権（ゲスト予定 ※弁護士）
7	まとめディスカッション-ビジネスモデルとリスク分析-

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
成果物及び授業への取組	50	適切に講義内容に取り組んでいること。理解度。積極性。 成果物は、指定する回のプレ宿題・成果物を評価する。
リスク分析ドキュメント	50	講義内容、まとめディスカッションを踏まえた社会的企業の法務・税務のリスク分析が示されること。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

毎回の講義の時間は、一般的な書籍やオンライン情報から得られる用語や基礎知識を前提として進める。次回講義に向けて講義中に指示する内容について予め思考しておくこと。

自身の研究するビジネスモデルがあれば、講義を通してその実務的なリスク分析を検討することができるため、探索しておくことを推奨する。

質問や相談への対応

メールやオンラインでの相談は随時受け付ける。

特に独立起業志向の学生は上記による随時相談を大いに歓迎する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

参考書・参考資料等

授業中に適宜参考書を紹介する。

受講生に臨むこと

実務からの学びを深めるため、一般的な知識は事前に学習した上で、過去の知識に囚われず積極的に学ぶ姿勢を望む。
テクノロジーは可能な限り最大限活用するため、講義にPCは必須（困難な学生は事前に教務に相談）。
社会起業志向の学生またはオンライン時代に新たなビジネスモデルを探索する学生の履修を推奨する。

その他・特記事項

税理士・中小企業診断士

実務経験：クラウド会計を活用したバックオフィス業務最適化支援を得意とし、業務改善・経営戦略策定支援を実践する。公的機関コーディネーターとして社会起業家支援及び新規プロジェクト立ち上げ経験。
起業家向け及び経営支援者向け研修実績多数。

サステナビリティとイノベーション

更新日：2023/01/12 08:15:52

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0380A	科目コード	S0380
担当教員	鈴木 諒子						
備考	演習・講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

2015年に国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、日本でもSDGsやサステナビリティという言葉が日常で多く耳にするようになった。その背景としては、便利で豊かな生活や経済的成長を追い求めるばかりに、貧困や環境汚染、異常気象といった社会問題が深刻化し、地球システムの限界が危惧されていることにある。

企業にとっても、環境や社会、社員や消費者が健全でないとビジネスが成り立たない。また、これまでのやり方ではSDGsの達成期限である2030年に到底間に合わない。それゆえ企業にはいっそう革新的な新しい製品・サービスの開発、また経営自体のサステナビリティとイノベーションが求められている。

この授業ではサステナビリティの観点から社会的課題を包括的に捉え、企業に求められているCSR経営やサステナビリティ経営について学び、さらにサステナビリティに寄与するイノベーションのアイデア創出を行なう。

授業のねらい

- ・サステナビリティの概念やその歴史的背景を理解する。
- ・システム思考によりサステナビリティの課題を建設的かつ包括的に捉える力を養う。
- ・CSR経営やサステナビリティ経営について理解する。
- ・社会課題を解決するためのイノベーションのアイデアを発想する力を醸成する。

到達目標

教授方法

オンラシステムZoomを使い、レクチャーとワークショップ形式によって実施する。また、オンラインでのグループワークを行なうための、デジタル付箋ツールを使用する。加えて学生同士のグループワークを補うために、コミュニケーションアプリSlack等も使用する。

履修条件

なし

授業計画

1	「サステナビリティと企業活動」 オリエンテーション、アイスブレイク、各種ツールの説明と練習を行なう。サステナビリティの概念や歴史的背景を理解し、企業活動との関係を議論する。
2	「サステナビリティとシステム思考」 サステナビリティを脅かす社会的課題を包括的に捉え、問題の本質を見抜く力を養うために、システム思考をもちいたグループワークを行なう。
3	「CSR経営」 CSRの概念や、それが求められてきた経緯、およびCSVやISO26000、ESG投資といった近年の動向を学ぶ。
4	「サステナビリティ経営」 企業自体の持続性と企業が社会に与える価値やインパクトが持続的であるかという両面を理解し、SDGsをどのように経営に取り込むべきか、事例を分析しながら議論する。
5	「サステナブルな未来を実現するイノベーション①」 SDGsの先も見据えた未来像を描き、そこから導き出される潜在的ニーズを分析する。また、既存のソーシャルイノベーションを分析し、その構造を捉える。
6	「サステナブルな未来を実現するイノベーション②」 未来のニーズと分析したソーシャルイノベーションの手段を掛け合わせ、アナロジー思考によるアイデア発想を行なう。
7	「サステナブルな未来を実現するイノベーション③」 アイデアのプレゼンテーションを実施する。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	20	グループワークへの貢献度を評価する。 ・チームワークを大切にしているか。 ・積極的な発言をおこなっているか。
事後課題	20	・学んだことについて要点をおさえているか。 ・独自の考察があるか。
事前課題	20	授業のグループワークが円滑にできるリサーチや準備ができているか。
創出したアイデア	40	・本質的な社会課題を捉えているか。 ・未来のニーズを考察できているか。 ・新しさがあるか。

合計	100			
----	-----	--	--	--

授業外における学習（事前・事後学習等）

回によって、事前や事後の課題を出す。

事前課題は、次回ワークショップを行なうためのリサーチが主である。

事後課題は、グループワークで議論したことを纏め、考察するレポート形式（A4 1枚程度）である。

アイデア発想のワークショップでは事前にプレゼンテーションの準備も発生する。

質問や相談への対応

質問や相談がある方はメールもしくは授業の前後に尋ねること。場合によっては別途オンラインでのミーティングで対応する。

教科書・テキスト

基本方針	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	指定の教科書やテキストはないが、スライド資料を毎回共有する。			

参考書・参考資料等

- ・小宮山宏著『サステイナビリティ学への挑戦』岩波書店、2007年
- ・大室悦賀著『サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域』学芸出版社、2016年
- ・谷本寛治著『企業と社会—サステナビリティ時代の経営学』中央経済社、2020年

受講生に臨むこと

グループワークの際はチームワークを重視するため、原則Zoomのビデオはオンにすること。また、積極的なワークショップの参加を期待する。

その他・特記事項

オンラインでのグループワークの際は、デジタル付箋ツールやコミュニケーションアプリといったフリーソフトを使用する。基礎的な使い方は始めに説明するが、システムやツール自体に関する質問は、それぞれのサービス提供者へ問い合わせること。

共創型プロジェクト・デザイン

更新日：2023/01/12 08:15:53

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0390A	科目コード	S0390
担当教員	片田 保						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

コレクティブ・インパクトにより社会課題を解決するための「共創型プロジェクト・デザイン」について学ぶ。多様なセクターが連携・共創して社会課題の解決に取り組むプロジェクト・デザインとして、社会課題の発見から構想立案、事業/サービスデザイン、社会実証・社会実装を行うための官民連携、プロジェクト・マネジメントなどについて、フレームワークを活用しながらワークショップを通じて実践する。

授業のねらい

社会課題の解決のために、多様なセクターが連携・共創するようになった背景について理解する。
社会課題を取り上げ、共創型プロジェクト・デザインをワークショップにより体験し、議論を深める。
コレクティブ・インパクトによる共創型プロジェクトを行うための流れを理解し、実践できるようになる。
多様なステークホルダの立場から多角的に課題を検討し、事業として組み立てられる。

到達目標

教授方法

夏期集中講義（7～8月）とするが、必要に応じてオンライン授業を併用する。
共創型プロジェクト・デザインのフレームワークを活用しながらワークショップを行う。

履修条件

特になし

授業計画

1	ガイダンス：本講義の説明。共創型プロジェクト・デザインの基礎：公共経営、コレクティブ・インパクト、社会実装など
2	社会課題を考える：社会的インパクト/アウトカム、ロジックモデル、ギャップ分析、課題マップなど
3	解決方法を考える①：ロジックモデルのブラッシュアップ、実施内容・アクティビティ検討など
4	解決方法を考える②：事業範囲、事業/サービスデザイン、需要の再検討、社会的受容性、リスクなど
5	事業として組み立てる：SWOT、経営資源、ビジネスプロセス、ビジネスモデルなど
6	社会実装を計画する：仮説検討：法制度/技術/事業性等、プログラム評価・改善、プロジェクト・マネジメントなど
7	レポートの発表・ディスカッション

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	ワークショップなど積極的に参加し、ディスカッションを行う
レポート	50	レポート、プレゼンテーション
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

ワークショップのための課題（事前準備）、ブラッシュアップのための復習を前提に授業を行う。

質問や相談への対応

質問や相談はメールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて授業前、授業内で指示する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて授業前、授業内で指示する。

受講生に臨むこと

他の学生とのディスカッション、ワークショップを通じて学びあえるよう、主体的、積極的な授業参加を望む。

その他・特記事項

特になし

象山塾

更新日：2023/01/12 08:15:54

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	S0400A	科目コード	S0400
担当教員	真野 毅, 渡邊 さやか, 神戸 和佳子, 馬場 智一						
備考	講義・演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

社会課題解決に取り組むイノベーターを学外から招き、現実における様々な課題やチャレンジについて学生にリアルに考えてもらう授業である。

イノベーターに自分の経験を語っていただいたうえで、学生自らが自分の問題として考えていく。

イノベーションを社会問題別に、セクター別に、プレイヤー別に、その分野で活躍するイノベーターから学ぶことにより、持続可能な社会の実現に必要なエコシステムの全体像を学ぶ。

授業のねらい

持続可能な社会を実現するためには、すべてのセクターの利害関係者の参加による横断的なイノベーションが求められている。持続可能な社会の実現の障害となっている問題の本質に触れ、その課題解決のために各セクターで始まっているイノベーションとイノベーターの思考法を体感し、大学院における学びの動機付けをすることが授業の目標である。到達目標は、各自が明確な自分のイノベーター像を持ち、他の学生と一緒に学び合える関係を構築していることである。

到達目標

教授方法

第一回は、ガイダンス後チームビルディング研修を行う。学外イノベーターの講演を3回開催したのち、関連するテーマについて学生がグループワーク・プレゼン・ディスカッションを行う。これを1サイクルと考え、3サイクル実施する。

最終授業では、持続可能な社会を実現するために何をすべきか学生に発表してもらう。オンラインと対面授業を併用して実施する予定である。

履修条件

特になし

授業計画

1	ガイダンス 哲学的チームビルディング
2	環境分野におけるイノベーション
3	貧富格差解消に向けたイノベーション
4	教育格差解消にむけたイノベーション
5	ディスカッション：持続可能な社会を実現するには？
6	行政におけるイノベーション
7	シビルテックによるイノベーション
8	企業によるイノベーション
9	ディスカッション：イノベーションを起こすためには？
10	ベンチャー企業社長
11	エンジェル・ベンチャーキャピタル
12	社会的企業 B CORP
13	ディスカッション：イノベーターになるには？
14	最終発表

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	ディスカッション、質疑応答などの内容。
最終発表	50	最終のレポート・決意発表
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

各講師の講義の前に、講師のプロフィールを理解し、質問を準備しておくこと。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールまたは授業終了後随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『出現する未来から導く』	英治出版		

参考書・参考資料等

適宜指示する。

受講生に臨むこと

活発な議論を行うこと

その他・特記事項

特になし

ソーシャルイノベーター演習Ⅰ

更新日：2023/01/12 08:15:55

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	S0410A	科目コード	S0410
担当教員	真野 毅, 秋葉 芳江, 渡邊 さやか						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

本演習では、各自がソーシャルイノベーターを目指し、構想をリサーチペーパーに仕上げるための基礎を養う。前半は、構造化スキームを用い各自のテーマを使用する模擬的構想検討を通じ実践的に理解する。後半は、チーム形成しテーマ選択しテーマに基づく構想案をチームで検討し、スキームを活用し構造化する。後半は、形成したチーム中心で検討を行いつつ、全員でフィードバックを共有する。

先行履修のサステナブル事業構想演習の学びを、本講義で実践的に展開する。

授業のねらい

サステナブル事業構想演習で扱った基本的な考え方にに基づき、スキームを学び活用し、複数人での検討プロセスを経て、多様な解決策を発想することを実践的に理解する。これにより、二次次のリサーチペーパー作成に向けた基礎を固める。

到達目標

1	①講義で用いたスキームを活用し構造化して示す。
2	②多様な解決策を見出す。
3	③チーム構想案を構造化して示す。なお、本演習ⅠはⅡと合わせて、基礎科目、経営科目の基礎知識をベースに、思考科目で学んだ思考を、学生が実務的に確に活用できるようになることを到達目標とする。

教授方法

・講義、ワークショップ、ディスカッションを組み合わせ、集合知の学びを、履修者テーマを重視して行う。

履修条件

サステナブル事業構想演習を履修していること

授業計画

1	イントロダクション、履修生の関心とテーマ共有（サステナブル構想演習の各自成果共有）
2	事業構想のスキーム① 用いるスキームの解説（BMCを基本に履修生の状況に対応する）
3	事業構想のスキーム② 仮想案のビジョン、ミッションから検討（スキームを用いた各自試作案からレビュー）
4	事業構想のスキーム③ 提案価値を顧客視点から検討（スキームを用いた各自試作案からレビュー）
5	事業構想のスキーム④ リソースから検討（スキームを用いた各自試作案からレビュー）
6	事業構想のスキーム⑤ 発想のJUMPから検討、ストーリーの検証（スキームを用いた各自試作案からレビュー）
7	前半まとめと集中討論「未来を拓く構想のポイント」
8	後半のイントロダクション、検討チームのチームビルディング、テーマ仮設定
9	チーム検討実践① チームごとの検討テーマ決定、仮の課題設定と解決に向けた仮説設定
10	チーム検討実践② 課題分析し課題設定、ビジョンメイク
11	チーム検討実践③ ビジョンからバックキャストし解決策検討
12	チーム検討実践④ 解決策の多様性検討、創出価値の検討
13	チーム検討実践⑤ スキームを用いた構造化、持続可能性の確認
14	全体まとめ チーム構想案（検討結果）発表、討論

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	30	授業への積極的参加、集合知による学びへの貢献
中間まとめ	30	講義内容を踏まえているか、スキーム理解度、一連の模擬構想素案としての完成度
チーム構想案	40	持続可能性が意識されているか、課題分析がなされているか、解決策が多様であるか
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

・反転型、アクティブラーニングで進行するため、毎回、指示した事前課題の実施を前提とする。事後学習は、授業中の助言情報を用い各自で進める。特に前半は、毎回の事前課題を元に自らの模擬構想を毎回進化させる。

・対面とオンライン併用のハイブリッド

質問や相談への対応

メール等にて随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	「ビジネスモデル・ジェネレーション」アレックス・オスターワルダー他著	翔泳社	2012年	
	上記のほか授業中に適宜指示する			

参考書・参考資料等

履修生のテーマに応じて、講義中に指示する。

受講生に臨むこと

本演習のねらい達成のためには、履修生相互の議論への積極的参加が、極めて重要である。積極的に議論に参加すること

その他・特記事項

担当教員は3名とも、特徴あるバックグラウンドを有する。
履修生を含めて全員で取り組む機会を活用してほしい。

ソーシャルイノベーター演習Ⅱ

更新日：2023/01/12 08:15:55

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	S0420A	科目コード	S0420
担当教員	真野 毅, 秋葉 芳江, 大室 悦賀, 尹 大栄, 渡邊 さやか						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	4	

授業の概要

本演習では、専門分野を担当する各教員の指導・助言の下に、各自が設定する持続可能な社会に貢献する実践的なテーマ・課題の課題解決に取り組む。この演習は、3名の実務家教員(真野・秋葉・渡邊)によってゼミ単位で実施され、課題解決の実践状況を各ゼミで報告しながら、その事業計画を策定し、事業計画を基にリサーチペーパーを完成させていく。月1回は、3つのゼミが合同で発表したり議論したりする時間を設け、より多様な立場からの意見をもらうことで、さらなるブラッシュアップを行うことを想定している。実践的な活動と平行して、大室教授と尹教授も指導に加わり、設定したテーマ・課題について、問題提起、問題発生の際の経緯とメカニズムの解明、先行研究・事例の把握、実現可能な解決策の提示といった問い—主張を、具体的なデータを基に論証するリサーチペーパーとして完成させる。

授業のねらい

本演習は「ソーシャルイノベーター演習」に引き続き、1年次に各自が設定した課題に取り組み、解決策を教員や他の学生と議論しながら、仮説—実験—検証を現場で実践することを通じて、持続可能な社会を構築するソーシャルイノベーターとして活躍できる人材を養成することが狙いである。

到達目標

1	ソーシャル・イノベーション基礎科目、経営基盤科目、経営専門科目で学んだソーシャルイノベーションやビジネスに必要な基礎知識をベースに、思考科目で学んだ持続可能な社会の課題解決に必要な思考を、学生が実務的に確に活用できるようになること
---	---

教授方法

授業での報告や討論を通して、検討に必要な具体的な課題を明確にし、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と道筋を立てて考える力を向上させる。必要に応じて、教員と一緒にゼミ生が、課題解決のフィールドに入り、課題解決の場に入り、一緒に解決策を検討する。

履修条件

ソーシャルイノベーター演習Ⅰの単位を取得していること

授業計画

1	(真野毅) 企業における事業提携、新規事業経験とグローバル企業経験、並びに地方自治体における公共経営経験を持って、履修生が取り組む事業計画や政策の実現にむけ、個別に支援・指導を行う。
2	(秋葉芳江) 履修生が取り上げる現実の課題について、ビジョンを描き、トライアル実践を通じてその具体的解決策を策定し、構想として主張できるよう、個別に指導する。
3	(渡邊さやか) 日本の地方地域での事業構築、海外(特に新興国・途上国)での事業構築、ジェンダーに関わる事業、PPP(Public-Private-Partnership)事業などの実践経験や企業支援の経験をもって、履修生の取り組むテーマの実現に向けて支援・個別指導する。基本的には個別の事業構想のブラッシュアップや、トライアル実践の伴走や事業ピボットなどを行うと共に、ゼミ生同士での学びを促進し、実際に履修生が事業を行う際の、同志として応援し合える関係性を構築していく。
4	各自がリサーチのテーマを設定し、フィールドでの課題解決の実践状況をゼミで報告しながら、事業計画を策定していく。月1回は、3つのゼミが合同で発表したり議論したりする時間を設け、より多様な立場からの意見をもらうことで、さらなるブラッシュアップを行うことを想定している。平行して文献・事例収集と理解、相互学習をつうじて、リサーチペーパーを執筆に取り組む。
5	各自がリサーチのテーマを設定し、フィールドでの課題解決の実践状況をゼミで報告しながら、事業計画を策定していく。月1回は、3つのゼミが合同で発表したり議論したりする時間を設け、より多様な立場からの意見をもらうことで、さらなるブラッシュアップを行うことを想定している。平行して文献・事例収集と理解、相互学習をつうじて、リサーチペーパーを執筆に取り組む。
6	各自がリサーチのテーマを設定し、フィールドでの課題解決の実践状況をゼミで報告しながら、事業計画を策定していく。月1回は、3つのゼミが合同で発表したり議論したりする時間を設け、より多様な立場からの意見をもらうことで、さらなるブラッシュアップを行うことを想定している。平行して文献・事例収集と理解、相互学習をつうじて、リサーチペーパーを執筆に取り組む。
7	各自がリサーチのテーマを設定し、フィールドでの課題解決の実践状況をゼミで報告しながら、事業計画を策定していく。月1回は、3つのゼミが合同で発表したり議論したりする時間を設け、より多様な立場からの意見をもらうことで、さらなるブラッシュアップを行うことを想定している。平行して文献・事例収集と理解、相互学習をつうじて、リサーチペーパーを執筆に取り組む。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
ゼミ発表	50	授業への参加と議論における貢献度合い
リサーチペーパー	50	分析、論証、提案の実現可能性、未来構想力、持続可能性
合計	100	

授業外における学習(事前・事後学習等)

それぞれのフィールドにおける課題解決のための活動

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			

参考書・参考資料等

授業内で指示する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な授業参加を望む。

その他・特記事項

なし

サステイナブル事業構想演習

更新日：2023/01/12 08:15:56

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0430A	科目コード	S0430
担当教員	秋葉 芳江						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

持続可能性を欠く現代は課題発生が連鎖している。同時にテクノロジーによる社会変化が早く見通しが持ちにくい（VUCA）。この中で、地域課題を拾い上げ持続的な社会の構築に貢献するには、現在の延長上ではない発想を、事業初期の構想段階から持つ必要がある。本演習では、①サステイナブル（持続可能）を軸に据え、②思考科目群での学びを事業構想へのマインドセットとして統合化させる。本演習では、持続可能な事業発想に重要かつ基本的な点を扱い、引き続き「ソーシャルイノベーター演習Ⅰ」につなげる。

授業のねらい

- ・サステイナブル（持続可能）を理解し、サステイナブル社会を志向する事業を構想する基本的な考え方を理解する。
- ・ラーニングサイクルを習慣化し現代に求められる実践コンピタンスを身に付ける。

到達目標

1	仮想の構想に関する、ミッション、ビジョン、バリュー、顧客、提供価値、ストーリーを言語化する。
---	--

教授方法

- ・講義、ワークショップ、ディスカッションを組み合わせ、集合知の学びを、履修者テーマを重視して行う。
- ・ディスカッションを多用し、input-ouput-feedbackのラーニングサイクルを素早く繰り返す。

履修条件

思考科目群の先行または並行履修を推奨

授業計画

1	イントロダクション、履修生テーマの共有
2	「持続可能」発想を理解し、最新動向を踏まえた最新の実践知を知る。
3	事業構想のマインドセット① 未来を描きバックキャストする、認知バイアスを意識する。
4	事業構想のマインドセット② リソースをとらえなおす。無形資産と限界費用。
5	事業構想のマインドセット③ 価値創出を理解し、価値循環発想を理解する。
6	事業構想のマインドセット④ 各自テーマからの仮の構想のミッション、ビジョン、バリューを言語化し顧客を仮想する。
7	まとめ 検討内容を仮想案に落とし込む（ミッション、ビジョン、バリュー、顧客、提案価値、ストーリー）。集中討論。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	40	授業への積極的参加、ラーニングサイクルの実践、集合知による学びへの貢献
演習仮想案	60	授業内容を踏まえていること。仮想案の熟度（ミッション、ビジョン、バリュー、顧客、提案価値、ストーリー）
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ・反転型、アクティブラーニングで進行するため、毎回、指示した事前課題の実施を前提とする。事後学習は、授業中の助言情報を用い各自で進める。毎回の事前課題を元に自らの仮想案を毎回進化させる。
- ・オンラインを中心とし履修生状況に応じて対面併用のハイブリッド

質問や相談への対応

メール等にて随時受け付ける

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業中に適宜指示する。			

参考書・参考資料等

履修生のテーマに応じて、講義中に指示する

受講生に臨むこと

履修生の状況によっては、従来発想から大きく転換しなければならない。柔軟な発想でどん欲に取り組むことを強く望む。

その他・特記事項

担当教員は、社会変革を伴う、構想～計画の実践指導経歴を多数有する。経験値を含めて積極的に吸収して欲しい。

スタディーツアーⅠ

更新日：2023/01/12 08:15:57

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0440A	科目コード	S0440
担当教員	真野 毅, 渡邊 さやか						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

本実習は、最前線で政策を担当する行政職員や地域のアクターとの議論や現地視察を通じて、公民連携のリアルを学ぶ。具体的には、兵庫県豊岡市で視察研修を実施する。豊岡市役所で行政職員から行政と地域のアウトターとの関係をどのように再構築してきたのか講義を受け、それが実際の現場でどのように実施されているのかを理解するため、それぞれの現場を視察し、実践しているアクターから現場の実態を学ぶ。

授業のねらい

公共経営で学んだ、企業・NPO・市民が公共の担い手として積極的に参加する公共領域のマネジメントを実践している地方自治体を視察し、公民連携のあり方について理解を深めることが狙いである。

この実習では、地域に存在する行政、企業、NPO等様々なアクターがどのような視点で経営されているのか、基礎科目・経営科目で学んでいる知識を活用して理解を深めることも目的としている。

到達目標

1	地域における異なるアクターがそれぞれの役割を担い、共通のアジェンダに対して、どのように相互に補強しながら、目標達成に導いているのかを理解できるようになることである。
---	--

教授方法

視察前に学生が問いを立て、先進自治体の視察を通じて、その問いの答えを他の学生と一緒に見出すアクションラーニング方式。

履修条件

公共経営、ケーススタディーⅠの単位を取得していること。

授業計画

1	1日目：移動日 兵庫県豊岡市現地集合 豊岡市で宿泊
2	2日目：豊岡観光イノベーション（DMO）の講義 市役所・地域観光団体との協働とデータに基づく経営を学ぶ
3	2日目：アルチザンアベニューを視察 地場産業である靴スクールとセレクトショップを視察
4	2日目：豊岡市役所を訪問 行政職員から参加型政策評価や地域コミュニティ支援活動について学ぶ
5	2日目：城崎温泉視察 そぞろ歩きを楽しめる温泉街を視察 宿泊
6	3日目：城崎温泉観光協会からの講義 市役所、旅館との協働、観光まちづくりについて学ぶ
7	3日目：コウノトリ里公園を視察 自然との共生、環境と経済の両立について学ぶ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50	現地視察内容の理解や考察ができているか。
授業への取組	50	視察への積極的な参加視察中、他の学生の学びにつながる議論ができていないか。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

視察前に、視察先に関する資料をよく読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

視察前に連絡する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な議論を望む。

その他・特記事項

現地集合（豊岡市）。

宿泊・現地研修費（概算3万円）は学生負担。

スタディーツアーⅡ（国内）

更新日：2023/01/12 08:15:57

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0450A	科目コード	S0450
担当教員	真野 毅, 渡邊 さやか						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

ケーススタディで学んだ事例を中心として、企業・公共・市民などが連携して生み出されたコレクティブ・インパクトの事例の現場に足を運び、実践者から話を聞くことで、現場のリアル感を掴み、実際に自分がイノベーターとして事業を起こす時の参考とする。
また、実践者と会って話を行うことで、何か起きた時に相談できる相手やロールモデルを見つけることにもつながる。

授業のねらい

ケーススタディ2で学んだ事例のうちの1つを視察し、ソーシャル・イノベーション創出にあたっての各ステークホルダーの話を聞き、理解を深め、体感すると共に、自分自身の場合に起こりうることについて先人に質問し、理解を深め、実践に活かせるようにする。
受講学生は、この授業を通じて実践の中で起こりうる課題や障壁を認識し、それらに直面した時にどのように対処していけばよいかについて考え、行動できるようにする。

到達目標

教授方法

視察前に学生が問いを立て、先進事例視察をつうじて、その問いの答えを他の学生と一緒に見出すアクションラーニング方式。

履修条件

ケーススタディⅡの単位を取得していること

授業計画

1	1日目：移動日 八王子市到着
2	2日目：八王子で取り入れた Social Impact Bond の事例について概要の講義を受ける
3	2日目：サービス・プロバイダーから話を聞く、実際の現場視察（がん検診）
4	3日目：支援者であるケースリーから SIB の評価についての話を聞くと共に、他の SIB の事例についての話も聞く
5	3日目：移動 東京都内
6	3日目：リコー株式会社における社内起業創出の仕組みについて話を聞く
7	3日目： KDDIのDigital GATE（5G・IoT時代のビジネス開発拠点） 視察
8	3日目：有楽町のアンテナショップ（民間経営と公共経営の違い）視察
9	3日目：解散

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	70	現地視察内容の理解や考察ができているか。 自分の課題解決
授業への取組	30	視察への積極的な参加 視察中、他の学生の学びにつながる議論ができているか
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

視察前に、視察先に関する資料をよく読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

視察前に連絡する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な議論を望む。

その他・特記事項

特になし。

スタディーツアーⅡ（国外）

更新日：2023/01/12 08:15:58

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0460A	科目コード	S0460
担当教員	真野 毅, 渡邊 さやか						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

海外の先進事例として、社会的投資や社会企業家たちに直接会い話を聞き、どのようにしてソーシャル・イノベーションを生み出しているのか、どのようなエコシステムが構築されているのかを体感する。
特に海外に足を運ぶことで、日本とは異なる社会文化的背景の中における貧困問題や、格差の状況などを目の当たりにし、体感することから見えてくるグローバルな社会構造などの理解促進につながる。

授業のねらい

日本国外あるいはグローバルな視点で取り組まれているソーシャル・イノベーションの事例について現場を視察し、国別比較や国境を超えた場合の難しさを体験すると共に、貧困などの現状を体感することがねらいである。

授業を通じて学生は、国境を越えても共通して必要となるイノベーターとして共通する知識やスキル、人間性などを認識できるようになる。また、グローバル化する現代社会において、いかに自分自身のプロジェクトに取り組む際にもグローバルな視点で社会構造を理解し、局地的な専門性と知見だけでなく、高い視座をもって課題を認知し、取り組むことが重要なのかについても理解して、自身のプロジェクトにも取り組むことができるようになる。

到達目標

教授方法

視察前に学生が問いを立て、訪問先の視察をつうじて、その問いの答えを他の学生と一緒に見出すアクションラーニング方式。

履修条件

ケーススタディーⅡの単位を取得していること

授業計画

1	1日目：移動日（ジャカルタ到着）
2	2日目：Insteller訪問（インドネシアの起業家・社会起業家を取り巻くエコシステムの概要について学ぶ）
3	2日目：Angeles of Impact訪問（インドネシアの投資の状況について学ぶ）
4	3日目：社会起業家訪問（Javara）
5	3日目：ジャカルタ市内視察（マーケットなど）
6	4日目：Javaraの関わる農家や中間支援組織を訪問
7	5日目：Javaraの関わる農家や中間支援組織を訪問
8	6日目：援助機関や国際機関訪問（UNDP、UNICEF、JICA）
9	7日目：移動日

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	70	現地視察内容の理解や考察ができていないか。 自分の課題解決
授業への取組	30	視察への積極的な参加 視察中、他の学生の学びにつながる議論ができていないか
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

視察前に、視察先に関する資料をよく読んでおくこと。

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

視察前に連絡する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な議論を望む。

その他・特記事項

特になし。

ケーススタディー I

更新日：2023/01/12 08:15:58

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0470A	科目コード	S0470
担当教員	真野 毅						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

持続可能な社会の実現には、企業や行政、NPOなど所属セクターを問わず、社会のあらゆる場で協働が求められる時代になってきた。本演習では、企業・NPO・市民が公共の担い手として積極的に参加する公共領域のマネジメントを実践している先進事例を学び、地方自治体の政策に多様なアクターの参加することがどのような価値に結びついているかを学ぶ。

授業のねらい

本演習は、夏季休暇に「スタディーツアーI」で訪問する先進自治体の事前研修として、「公共経営」の授業で学んだ、企業・NPO・市民が公共の担い手として積極的に参加する公共領域のマネジメントを実践している先進事例を学ぶことが狙いである。

到達目標

1	先進事例と身近な地方自治体の政策を比較・分析することで、状況に応じて最適なガバナンスの方法を選ぶメタガバナンスの思考を理解できるようになること
---	---

教授方法

先進自治体の事例を学習した後、それぞれの受講生が興味を持つ自治体の政策を発表してもらい、その違いを比較し、考察してもらう。

履修条件

公共経営の単位を取得していること

授業計画

1	先進自治体事例 1（行政評価）
2	地方自治体の行政評価に関するグループディスカッション
3	先進自治体事例 2（観光政策）
4	地方自治体の観光政策についてのディスカッション
5	先進自治体事例 3（環境政策）
6	地方自治体の環境性策についてのディスカッション
7	授業の振り返り・まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	発表する政策についての理解度
レポート	50	授業の理解度
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

受講生が興味を持つ自治体の政策を発表できるように準備すること

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

授業で指示する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な議論を望む。

その他・特記事項

特になし。

ケーススタディー II

更新日：2023/01/12 08:15:59

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0480A	科目コード	S0480
担当教員	渡邊 さやか						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

政府・民間が連携して生み出されたソーシャル・イノベーションの事例や、企業内イノベーターとしての社内起業家などの事例について学ぶ。事例を通じて、ソーシャル・イノベーションが生み出された背景として、それぞれのアクターがどのような課題を乗り越え、事業を生み出していったのかを知ることにより、自らに置き換えた場合の取り組みをより鮮明に描けるようにしていく。

授業のねらい

受講生が、今後自らが創業していく際に直面するであろう状況を、事例から理解し、自分ごととしながら課題や対策などを考える思考を体得することがねらいである。

授業を通じて学生は、自分自身が取り組んでいく課題やプロジェクトにおいても発生しうる課題や障壁を先んじて理解すると共に、その対応方法を先駆者たちからケーススタディーを通じて学び、対応できるようになる。

到達目標

教授方法

講義を受けた後、受講生が事例からどのような学びを得たのか、自らに置き換えた場合にどんな課題などが想定されるのか、どんな対応策が考えられるのかを発表し、考察してもらう。

履修条件

ケーススタディー I を履修していること

授業計画

1	先進事例： Social Impact Bond を取り入れた事例
2	Social Impact Bond についての議論とその仕組みや実現についてのグループディスカッション
3	先進事例：社内起業家事例
4	社内起業家としての課題や実現に向けた取り組みについてグループディスカッション
5	先進事例：社会起業家事例
6	社会起業家としての課題や実現に向けた取り組みについてグループディスカッション
7	まとめ 授業で学んだことを発表

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	35	事例の理解度と自分ごと化度合い
レポート	35	自分ごととして事例を理解し、今後どう活かせるか
授業への取組	30	質問や発言
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事例について事前課題を読んだ上で、質問ができるようにしておくこと

質問や相談への対応

質問や相談は、メールで随時受け付ける。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし。			

参考書・参考資料等

授業で指示する。

受講生に臨むこと

他の学生と学び合いが促進できるよう、主体的、積極的な議論を望む。

その他・特記事項

特になし。

ブラッシュアップセッション

更新日：2023/01/12 08:16:00

開講年度	2022	学期	4期	シバコード	S0490A	科目コード	S0490
担当教員	大室 悦賀, 真野 毅, 秋葉 芳江, 渡邊 さやか						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1・2年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

1年次3学期よりサステナブル事業構想演習およびソーシャルイノベーター演習Ⅰ・Ⅱにより、学生個々人の新規事業計画を作成していく。その作成過程で、外部のさまざまな人々の視点から事業計画をブラッシュアップするための集中講義として開講する。

開講時期は1年次の春休みと2年次の夏休みに、それぞれ1日開講する。

参加者は、実務家教員として本研究科に参加している教員や外部の企業家にきていただき、学生一人当たり40分の持ち時間で、新規事業の概要をプレゼンテーション後参加者からコメントをもらい、計画をブラッシュアップする。これを2回実施する。

授業のねらい

本科目を担当する教員とは平日頃から事業計画のブラッシュアップをソーシャルイノベーター演習で実施するが、本科目はそれ以外の多様なバックグラウンドや経験を持った実務家の視点を加え、より革新的で実施可能な事業に練り上げることを狙いとしている。プレゼンしない学生は他の学生のプレゼンにコメントすることで、事業評価能力を養う。

到達目標

1	1回目は、学生が事業計画の概要レベルのプレゼンを実施し、概要レベルと注意しておいたポイントあるいは見落としているポイントなどの指摘を詳細計画に繋げる。2回目は詳細計画を発表し、革新的で実現可能な計画とすること。
---	---

教授方法

学生によるプレゼンテーションと担当教員及び参加者からコメント等してもらい、事業計画を再構成する。

春：ガイダンス等（100分）＋1人30分×10人で、300分（授業4回分）。夏1人30分×10人で300分（授業3回分）。

履修条件

ソーシャルイノベーター演習の受講者

授業計画

1	ガイダンス（ねらいと到達目標）及び担当教員以外の人々とのネットワークづくりのための簡単なワーク
2	学生プレゼンテーション（春）
3	学生プレゼンテーション（春）
4	学生プレゼンテーション（春）
5	学生プレゼンテーション（夏）
6	学生プレゼンテーション（夏）
7	学生プレゼンテーション（夏）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	100	プレゼンテーションの内容と姿勢により総合的に勘案する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習：ここまで受けた授業で学んだことを自分なりに見直し、その上で事業計画を作成すること。

事後学習：授業内であったコメントをもとに事業計画を練り直すことと、ここまで受けた授業とコメントの関係を見直し、自分の知識や経験とすること。

質問や相談への対応

質問や相談はメール・Zoom等を通じて随時可能。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	なし			

参考書・参考資料等

なし

受講生に臨むこと

躊躇することなく、自分の考えていることをプレゼンテーションすること及び参加者からのコメントに対する真摯な態度を求める。

その他・特記事項

特になし

参加型評価演習

更新日：2023/01/12 08:16:01

開講年度	2022	学期	4期	シバ ストド	S0500A	科目コード	S0500
担当教員	源 由理子						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	1年4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

この授業では社会的プログラムに関わるステークホルダーが参加して、協働で戦略的なプログラム形成、評価を行う「参加型評価」の実践を学ぶ。参加型評価は社会課題解決をめざすプログラムの評価方法である「プログラム評価」の一形態であり、「評価プロセス」における関係者間の学び、関係性の構築、当事者意識の醸成などの効果が認められるものとして多様な組織の共創に活用されている。またこの方法論は、プログラムの継続的な改善と変革をすすめる、持続可能な社会 (sustainable society)の実現に向けた創発的なマネジメント・プロセスを内包する方法論として近年注目されている。この授業では、その実践を評価ワークショップの演習を通じて学ぶと同時に、ワークショップに欠かせないファシリテーターの技能と役割についても学ぶ。

授業のねらい

この授業をととして受講者が以下の知識・技術を活用できるようになることをめざす。

- ・プログラム評価/参加型評価の方法論の修得
- ・戦略形成ツールとしてのロジックモデル作成技術の修得
- ・多様なステークホルダーが関与する評価ワークショップのファシリテーション技術の修得

到達目標

教授方法

講義およびワークショップ

履修条件

特になし

授業計画

1	参加型評価について、その理論と方法論について学ぶ
2	プログラムセオリーとロジックモデルの考え方とその方法について学ぶ
3	ワークショップ演習（1） ニーズアセスメント
4	ワークショップ演習（2） ロジックモデル作成プロセスをととした戦略策定
5	ワークショップ演習（3） ロジックモデル作成プロセスをととした戦略策定
6	ワークショップ演習（4） ファシリテーションの役割と機能
7	まとめ：共創社会における戦略の策定と評価のあり方について検討する

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業への取組	40	参加型ワークショップにおける積極的関与の度合い	
レポート	60	課題レポートの内容の質的水準	
合計	100		

授業外における学習（事前・事後学習等）

（事前学習）指定テキストの事前リーディング

質問や相談への対応

授業以外の時間帯においてはメールにて対応

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	源由理子編著『参加型評価～改善と変革のための評価の実践』	晃洋書房	2016年	

参考書・参考資料等

山谷清志監修、源由理子/大島巖編著『プログラム評価ハンドブック～社会課題解決に向けた評価方法の基礎・応用』、晃洋書房、2020年

受講生に臨むこと

異なる経験と知見をもった受講生によるワークショップでの積極的な参加・議論を期待したい。

その他・特記事項

特になし

コミュニティ・デザイン実践研究

更新日：2023/01/12 08:16:02

開講年度	2022	学期	2期	シバコード	S0510A	科目コード	S0510
担当教員	瀧内 貴						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 ソーシャル・イノベーション研究科					
	配当時期	2年2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

地域の持続可能性について念頭に据えたコミュニティデザインの現場で、必要なファシリテーション能力に加え、ディレクションやプランニングといった能力について、コミュニティデザインの実践とディスカッションを繰り返しながら、身につけることを目標とする。（授業で用いる事例については、地域で進行中の多様なプロジェクトの中から取り上げる。）

授業のねらい

- ・持続可能なコミュニティのあり方について構想、構築できる。
- ・共創の場、コミュニティ構築について必要な知識、マインドを修得する。

到達目標

教授方法

演習を主に、一部講義を交えた形式、随時グループワークを行う。また、学外へのフィールドワークを行う。

履修条件

特になし

授業計画

1	イントロダクション 授業の概要や位置づけ、進め方や評価方法、学習方法について説明する。
2	グループワーク実践（1） 講師による課題設定に基づき、課題解決プランニングを行う。
3	グループワーク実践（1） 発表と意見交換
4	グループワーク実践（2） 講師または受講生による課題設定に基づき、ヒアリングを実施
5	グループワーク実践（2） 事例収集に基づく仮説、受講生同士、課題当事者によるディスカッション
6	グループワーク実践（2） 発表と意見交換
7	まとめ、振り返りと最終レポート作成

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
最終課題レポート	30	最終課題レポートにてコミュニティデザイン的な提案の達成度によって評価。
上記以外の授業評価	40	授業内のグループワーク他、共創への参加と貢献に応じて評価する。
中間課題授業レポート	30	中間課題レポートにてコミュニティデザイン的な提案の達成度によって評価。 (第1回20%/第2回10%)
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

- ・履修生には事前課題と準備物を別途連絡する。
- ・参考書等や事例を通じて、事前事後ともに学習すること。

質問や相談への対応

- ・質問は、主として授業中や授業前後に受け付ける。予約の上、オンラインでの対応も適宜行う。
- ・予備的に、メールやLINEでの質問も受け付ける。（メールアドレスは授業内およびガイダンスにてアナウンスする）

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特になし			

参考書・参考資料等

授業内で適宜資料配布、参考書の紹介を行う。

受講生に臨むこと

- ・授業自体、コミュニティデザインの場合、共創の場として積極的に取り組むこと。

その他・特記事項

授業内では事前の予習、事例収集が必要となり、特にグループワーク等において、その質や量が授業自体のクオリティに影響するため、積極的な受講生の履修を望む。

研究倫理と研究法

更新日：2023/01/10 08:59:16

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0010A	科目コード	E0010
担当教員	稲山 貴代, 石井 陽子						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

健康・栄養・食分野で活躍する人材にとって必須となる倫理観、倫理的に配慮された研究をすすめていくための知識と技能を身につけることを目的とする。研究倫理、科学的研究の基本原則、研究の進め方、論文投稿手順などについて、解説する。

(オムニバス方式/全7回)

(石井 陽子/3回)

研究倫理では、事例をもとに、多様な倫理的問題を理解し、適切な対応方法を学び、健康・栄養・食に関する分野における研究倫理を修得する。

(稲山 貴代/4回)

研究法では、研究計画の考え方、倫理審査、論文の書き方、論文投稿、査読報告の取り扱いについて学ぶ。

授業のねらい

研究倫理について、その基本的な知識や事例から、多様な倫理問題があることを説明できる。

研究倫理について、研究者として責任ある研究をすすめるための適切な態度、使命感を身につけたことを説明できる。

研究法について、倫理的配慮のされた研究の計画・実践を理解し、適切な倫理申請書を作成できる。

研究法について、研究論文の書き方、論文投稿のプロセスを理解し、研究計画を準備することができる。

到達目標

教授方法

講義では、pptファイルの映写やホワイトボード、視聴覚資料等を使って授業をすすめる。

全般にわたって質疑応答・意見交換・議論・課題発表などを積極的に実施しながら授業をすすめる。

履修条件

多くの参照サイトを活用しながら必要な課題を提示する。常にインターネットにアクセスできる状況で授業にのぞむこと。

授業計画

1	研究倫理総論：歴史、歴史的事例、研究倫理指針（石井）
2	責任ある研究行為（倫理研修の内容を含む）（石井）
3	責任ある研究行為（研究不正、利益相反を含む）とケーススタディ（石井）
4	研究法：科学的研究の基本および研究プロセスの概要（稲山）
5	研究法：研究計画書の作成と倫理審査の実際（稲山）
6	研究法：論文投稿と査読報告書、査読者とのコミュニケーション（査読回答）（稲山）
7	成果発表と議論（稲山）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題発表のクオリティなど）を評価する。
期末レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

研究倫理について、事前学習では、課題のケースを読み込み、議論できるように理解を深めておくこと。

事後学習では、自身が考える大学院での研究テーマに関わる倫理の問題について考える時間をとること。

研究法について、事前学習では、自身の考える大学院での研究案について授業内で議論できるように準備しておくこと。

事後学習では、授業での議論をもとに、研究計画案を改善をはかっておくこと。（詳細は授業内で説明する）

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。

後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針。	厚生労働省（改訂あり）		
	『臨床研究の教科書 第2版: 研究デザインとデータ処理のポイント』川村孝著	医学書院		ISBN-13 : 978-4260042376

参考書・参考資料等

『初めての栄養学研究論文—人には聞けない要点とコツ』栄養学雑誌編集委員会編集。第一出版。ISBN-13 : 978-4804112657
「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—【テキスト版】」（日本学術振興会）https://www.mext.go.jp/fa_menu/jinzai/fusei/1353972.htm
その他、必要に応じて、授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

特別研究に取り組むにあたって基盤となる科目であり、全出席を原則とする。しっかり体調を整えて、授業にのぞむこと。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）に対応する。
倫理研修の内容を含む。

エビデンス実装論

更新日：2023/01/10 08:59:24

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0020A	科目コード	E0020
担当教員	今村 晴彦						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

健康・栄養に関わるエビデンスを、対象とする現場（医療機関、地域、行政等）にいかに関付させるかを科学的に検証できる能力を養うことを目的とする。エビデンスやイノベーションがうまく根付く現場と、そうでない現場があるのはなぜか。近年、その問いに答える学問領域として「普及と実装科学」が注目されている。普及と実装科学は、臨床や公衆衛生に関わるエビデンスを、対象とする現場（医療機関、地域、行政等）にいかに関付させるかを科学的に検証する、学際的な学問である。本講義では、普及と実装科学の概要とその意義について学び、海外の多くの研究で用いられている「実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）」を時間をかけて輪読することで理解を深める。

授業のねらい

普及と実装科学の概要とその意義について理解し、説明できる。

「実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）」を用いて、普及と実装科学の視点から身近な現場や研究対象を評価できる。

到達目標

教授方法

pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。

輪読では、予め割り振られた担当者が担当ページについて発表後、議論を重ねて講義をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：エビデンスとは何か
2	普及と実装科学入門
3	実装研究のための統合フレームワーク 輪読（1）：介入の特性
4	実装研究のための統合フレームワーク 輪読（2）：内的セッティング
5	実装研究のための統合フレームワーク 輪読（3）：外的セッティング、個人特性
6	実装研究のための統合フレームワーク 輪読（4）：プロセス
7	総括と総合討論

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題発表など）を評価する。
期末レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

授業時に提示する関連の先行文献・資料を読み、授業の事前・事後の学習を行うこと。また講義の内容を、身近な現場や研究対象を通して考察する時間をとること。輪読担当者では、割り振られた担当ページの概要とともに、こうした考察についても発表すること。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。

後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）』内富庸 介監修・今村晴彦／島津太一 監訳	保健医療福祉における普及と実装科学研究会		ISBN：978-4-9911-886-0-2
	その他、必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

普及と実装科学は新しく、また実践的な学問である。新しい視点で健康・栄養について考えたい人、大学院での学びを社会に活かしたい人の受講を歓迎する。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）に対応する。

栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:59:29

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0030A	科目コード	E0030
担当教員	今村 晴彦						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

栄養・健康に関わる問題を発見し、研究や実践活動を通して改善していくためには、データを適切に扱い、解析し、結果を解釈することが重要である。さらに近年では、得られた結果をわかりやすく、効果的に「見える化」（可視化）することも求められている。本科目では、統計学を基盤として、Microsoft Excelを活用しながらこれらの基本的な技術を身に付けていく。また、オープンに扱える公的統計データを用いて、実際にデータ解析を計画し、結果をまとめる一連のプロセスも体験する。

授業のねらい

Microsoft Excelを用いて、データを適切に扱い、解析し、結果を解釈することができる。さらに、結果をわかりやすく提示することができる。公的統計データを用いて、データ解析を計画し、結果をまとめることができる。

到達目標

教授方法

各授業の前半では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。その後、パソコンを用いた演習を行う。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	データ解析の基礎（1）データの種類、標本抽出、記述と推測、代表値、散布度、分布
3	データ解析の基礎（2）疫学的研究デザインとデータ解析
4	1変数のデータ解析（1）平均値/中央値、割合、度数分布表とヒストグラム
5	1変数のデータ解析（2）四分位数と箱ひげ図、分散/標準偏差、偏差値、変動係数
6	1変数のデータ解析（3）母平均値の推定、平均値の差の検定（t検定）
7	2変数のデータ解析（1）散布図、相関と回帰
8	2変数のデータ解析（2）クロス集計、ピボットテーブル
9	2変数のデータ解析（3）割合の差の検定（カイ二乗検定）
10	3変数以上のデータ解析：分散分析
11	公的統計データの取得と活用（1）e-statを用いたデータの取得と課題発見
12	公的統計データの取得と活用（2）解析計画立案
13	公的統計データの取得と活用（3）解析結果のまとめ
14	総括

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	70	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、授業内課題の提出内容など）を評価する。
期末レポート	30	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

テキストおよび授業時に提示する関連の先行文献・資料を読み、授業の事前・事後の学習を行うこと。各回の演習内容を、自身の関心ある研究テーマにどのように応用できるかを考える時間をとること。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。
後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針	
------	--

必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『Excelで学ぶ統計解析本格入門』 日花弘子	SBクリエイティブ		ISBN : 978-4-8156-0113-3
				その他、必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

世の中はデータに溢れている。授業を通して、身近にあるさまざまなデータにアンテナを張り、批判的に吟味する習慣を身につけることをのぞむ。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

パソコンを用いた演習を行うため、毎回、必ずパソコンを持参すること。またExcelをインストールしておくこと。

栄養と健康のデータサイエンス演習 II

更新日：2023/01/10 08:59:29

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコッド	E0040A	科目コード	E0040
担当教員	今村 晴彦						
備考	演習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

栄養・健康に関わる問題を発見し、研究や実践活動を通して改善していくためには、データを適切に扱い、解析し、結果を解釈することが重要である。さらに近年では、得られた結果をわかりやすく、効果的に「見える化」（可視化）することも求められている。本科目は「栄養と健康のデータサイエンス演習 I」の継続科目として、より発展的な統計分析手法をIBM SPSS Statisticsを用いて学ぶ。さらに、データを「見える化」して意思決定に役立てるためのBI（Business Intelligence）ツールとして、Microsoft Power BIの使い方も学ぶ。

授業のねらい

目的に応じて適切な多変量解析手法を選択できる。
IBM SPSS Statisticsを用いて多変量解析を行い、結果を解釈することができる。
Microsoft Power BIを用いて、データをわかりやすく提示することができる。

到達目標

教授方法

各授業の前半では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。その後、パソコンを用いた演習を行う。

履修条件

「栄養と健康のデータサイエンス演習 I」を履修していること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	多変量解析（1）IBM SPSS Statisticsの基本操作
3	多変量解析（2）重回帰分析
4	多変量解析（3）多重ロジスティック回帰分析
5	多変量解析（4）主成分分析
6	多変量解析（5）因子分析
7	公的統計データを用いた多変量解析
8	データの可視化（1）BI（Business Intelligence）ツール概説とMicrosoft Power BIの使い方
9	データの可視化（2）テーブルとレポートの設計
10	データの可視化（3）データの表示、棒グラフ/折れ線グラフ、円グラフ
11	データの可視化（4）レーダーチャート
12	データの可視化（5）地図情報を用いた表示
13	公的統計データを用いたデータの可視化
14	総括

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	70	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、授業内課題の提出内容など）を評価する。
期末レポート	30	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

テキストおよび授業時に提示する関連の先行文献・資料を読み、授業の事前・事後の学習を行うこと。
各回の演習内容を、自身の関心ある研究テーマにどのように応用できるかを考える時間をとること。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。
後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析 第2版』対馬栄輝	東京図書		ISBN : 978-4-489-02290-6
				その他、必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

世の中はデータに溢れています。授業を通して、身近にあるさまざまなデータにアンテナを張り、批判的に吟味する習慣を身につけてほしい。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

SPSSを使用できる環境で受講すること。データの可視化の回は必ずパソコンを持参すること。Power BIは無料でダウンロードできる。

健康・栄養・農業政策

更新日：2023/01/10 08:59:30

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	E0050A	科目コード	E0050
担当教員	今村 晴彦, 村山 伸子, 岡島 正明						
備考	講義/必修//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

人びとが健やかに健康寿命を延伸するために必要な、健康・栄養と農業を含めた一連の政策について学ぶことを目的とする。健康・栄養・農業に関連する社会的な課題、政策・立案、その評価と今後の課題について、事例研究も含めて議論し、政策・立案への展開のプロセスを学ぶ。さらに、健康に与えるさまざまな社会的要因や政策評価の方法について学び、次のアクションへの展開を議論する。

(オムニバス方式/全14回)

(今村 晴彦/6回)

オリエンテーション、国レベル・自治体レベルにおける健康政策について、長野県における事例研究なども含めて、講義、総括を担当する。

(村山 伸子/4回)

国レベル・自治体レベルにおける栄養政策について、健康日本21（第二次）の評価や自治体の事例研究なども含めて、講義を担当する。

(岡島 正明/4回)

日本の食料政策・農業政策、持続可能な社会を目指した世界の食料政策、今後の食・農業の課題などについて、講義を担当する。

授業のねらい

マネジメントサイクルの視点から、健康・栄養・農業課題についてアセスメントに基づく課題抽出と目標設定、政策への展開を説明できる。健康・栄養・農業政策について、事例から、評価と次のアクションを説明できる。

到達目標

教授方法

講義、視聴覚資料等の視聴、ケーススタディなどを取り入れて授業をすすめる。全般にわたって議論・質疑応答・意見交換、発表などを積極的に行う。

履修条件

参照サイトを活用しながら講義をすすめることもあるため、常にインターネットにアクセスできる状況で授業にのぞむこと。

授業計画

1	オリエンテーション (今村)
2	健康政策：国レベルにおける健康政策（1）健康格差と社会環境の整備（健康日本21） (今村)
3	健康政策：国レベルにおける健康政策（2）ケーススタディー健康まちづくりと通いの場 (今村)
4	健康政策：自治体レベルにおける健康政策（1）長野県における健康課題と健康政策 (今村)
5	健康政策：自治体レベルにおける健康政策（2）ケーススタディー長野県における保健指導員制度の取組みと評価 (今村)
6	栄養政策：国レベルにおける栄養政策（1）日本の栄養課題解決のための方策 — 健康日本21（第二次）：栄養・食生活 (村山)
7	栄養政策：国レベルにおける栄養政策（2）健康日本21（第二次）：栄養・食生活の評価 (村山)
8	栄養政策：自治体レベルにおける栄養政策（1）自治体レベルでのアセスメントと目標設定・実践・評価 (村山)
9	栄養政策：自治体レベルにおける栄養政策（2）ケーススタディ（新潟県等の自治体での取組みと評価） (村山)
10	農業政策：我が国の食料政策・農業政策の変遷 (岡島)
11	農業政策：SDGsと世界の食料事情 (岡島)
12	農業政策：食育基本法と食料政策・農業政策 (岡島)
13	農業政策：Society5.0における、これからの「食」、これからの「農業」 (岡島)
14	総括 (今村)

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題発表など）を評価する。
レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、提示された関連の先行文献・資料を読み理解し、授業での議論の準備を行うこと。

事後学習では、授業内容をふり返り、身近な健康・栄養・食料課題と照らし合わせながら、理解を深める時間をとること。

質問や相談への対応

初回の実習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。
その際、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。
質問・相談の方法は、担当教員の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて授業時に資料を配付する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

オムニバスで行われることから、必要に応じて担当教員と連絡をとり、受講もれがないようにする。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

ヘルス・コミュニケーション特論

更新日：2023/01/10 08:59:31

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	E0060A	科目コード	E0060
担当教員	助友 裕子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

地域のみならず、県内、国内における健康栄養課題の把握と解決、健康・栄養教育、社会への啓発など、コミュニケーション力を育成することを目的とした科目である。

ヘルス・コミュニケーションは、人々に、健康上の関心事についての情報を提供し、重要な健康問題を公的な議題として取り上げ続けるための主要戦略である。このようなコミュニケーションは、個人間や集団などさまざまなレベルで存在し、メディアアドボカシー、パブリックリレーション、個人および集団への指導、パートナーシップの形成まで、さまざまな手法によって行われている。本特論では、効果的なヘルス・コミュニケーションを実践できるようになるための基礎的な理論と知識を学ぶ。これに基づき、あらゆる健康課題解決のための方法論を習得する。

授業のねらい

あらゆる生活場面でヘルス・コミュニケーションについて、その重要性を認識することができる。

効果的なコミュニケーション戦略を立案するための知識と技能を説明することができる。

自らの研究領域におけるヘルス・コミュニケーションの実際を想起し、科学的な健康課題解決のための実装研究を考えることができる。

到達目標

教授方法

講義に加え、各回のテーマに沿った学術論文の抄読および受講者による討論を中心に進める。特に、ディスカッションの充実を図るため、受講者各人による論文抄読を中心に行う場合がある。

履修条件

授業計画

1	オリエンテーション、ヘルス・コミュニケーション概論
2	ヘルス・コミュニケーションとヘルスプロモーション（1）国内外の健康戦略
3	ヘルス・コミュニケーションとヘルスプロモーション（2）プロセス戦略
4	ヘルス・コミュニケーションとヘルスプロモーション（3）活動方法
5	個人レベルのヘルス・コミュニケーション
6	個人間レベルのヘルス・コミュニケーション
7	集団レベルのヘルス・コミュニケーション
8	ヘルス・コミュニケーションと健康教育（1）家庭を介した実装研究
9	ヘルス・コミュニケーションと健康教育（2）学校を介した実装研究
10	ヘルス・コミュニケーションと健康教育（3）職場を介した実装研究
11	ヘルス・コミュニケーションと健康教育（4）地域を介した実装研究
12	ヘルス・コミュニケーションと健康教育（5）仮想空間を介した実装研究
13	ヘルス・コミュニケーションの研究デザイン
14	総括

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題への取り組み状況など）を評価する。
レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

WHO等国連諸機関、各国衛生行政所管部局等のヘルス・コミュニケーション施策に関する時事情報を提供するので、授業外の時間を使って、定期的にそれらに目を通すこと。（週当たり120分程度。）

質問や相談への対応

授業前後の対面またはメールにて対応する。メールアドレスは、初回授業時に提示する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、講義資料を配布する。			

参考書・参考資料等

- ・健康社会学研究会編．事例分析でわかるヘルスプロモーションの5つの活動．ライフ出版，2016．
- ・日本健康教育学会編．健康行動理論による研究と実践．医学書院，2019．

受講生に臨むこと

自身の研究テーマを常に意識し、研究成果を社会へ発信する際のコミュニケーション戦略を意識しながら受講してほしい。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

食文化特論

更新日：2023/01/10 08:59:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバスコト*	E0070A	科目コード	E0070
担当教員	中澤 弥子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

日本を含む世界各地の食文化の事例を通じて、多様な生活文化を学び、その背後にあるものの見方・考え方を理解することを目的とする。食物は生産、加工、消費のすべての側面において、環境条件や社会組織、技術、文化の影響を強く受けるため、国内各地でも、世界各国においても、食のあり方は多様である。理解するうえで重要なことは、自文化を絶対視せずに、自分自身の食を顧みて客観的に見つめる視点であり、かつ、他地域や他国の食文化に対し敬意を持って客観的にみつめる、文化相対主義的な視点である。このことを通じて、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養う。具体的な学習手段としては、文献資料や映像資料、実物等を用いた講義のほか、課題発表やディスカッションを通して、食文化への理解を深める。

授業のねらい

日本を含む世界各地の食文化の事例から、多様な生活文化の背景も含めて理解し、多様な視点、多様な価値観を持つことができる。文化相対主義的な視点を身につけ、異文化を柔軟に受けとめる姿勢を養うことができる。様々な生活文化や価値観など、多様性を受け入れて、課題発表することができる。

到達目標

教授方法

文献資料の他、映像資料、実物等を教材とした講義に加え、課題発表やディスカッションを積極的に取り入れながら授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、食文化の視点、人類史からみた食文化
2	世界の食文化形成、世界の食文化類型と地域の食文化の特徴
3	日本の食文化の形成、異文化接触と受容、日本の食文化の普遍性と特殊性
4	おもな食べ物から見る食文化（1）主食となる食材
5	おもな食べ物から見る食文化（2）副食となる食材
6	おもな食べ物から見る食文化（3）調味料・油脂・香辛料
7	おもな食べ物から見る食文化（4）菓子・茶・酒
8	台所・道具・食器・食卓の文化
9	食の思想と食の禁忌
10	日常と非日常の食の文化
11	食の情報化と食の文化
12	食の精神的機能と社会的機能、食文化の継承と食育
13	課題発表（1）
14	課題発表（2）とまとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	60	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題への取り組み状況など）を評価する。
レポート	40	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、配布プリントや教科書等の関係する資料を確認し、次の授業の準備をすること。
事後学習では、授業内容を振り返り、自らの食文化を相対的に捉え直すこと。
自分で設定した課題についての学習、レポート作成、発表準備は授業外の時間に行うこと。

質問や相談への対応

授業前後の対面またはメールにて対応する。メールアドレスは、初回授業時に提示する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『日本の食文化 新版「和食」の継承と食育』江原絢子・石川尚子編著	アイ・ケイ・コーポレーション	2016	

参考書・参考資料等

『講座 食の文化 第一巻～第七巻』石毛直道監修 味の素食の文化センター 1998～1999。
 その他、適宜、授業時に紹介・資料を配布する。

受講生に臨むこと

多様な食文化の特徴について理解を深め、その背後にあるものの見方・考え方について、相対的に捉え直すことを試み、授業に積極的に参加し、主体的に学んでほしい。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

健康発達心理学特論

更新日：2023/01/10 08:59:32

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0080A	科目コード	E0080
担当教員	朴 相俊						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	2年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

加齢とともに発達し変化する心の健康、身体の健康との関わりについて理解することを目的とした科目である。心理学的視点から、受精から死に至るまで、ライフステージごとの発達の特徴（認知・情動・社会性を中心に）について解説するとともに、社会の変化に伴って生じてきた心の問題について、支援策も含めて、最新の知見を紹介する。また、障害に関しても、心理学的視点から、発達や学習のプロセスについて概説する。これらの講義や授業内での議論を基に、様々な社会問題と心の健康に関する課題や健康に向けての支援策について解説し、議論をすすめる。さらに、心の健康を支援するための具体的な方策について、議論を通して、試案を作成する。

授業のねらい

ライフステージごとの心の健康と、身体の健康との関わりについて、説明することができる。
社会的背景や社会問題との関連を理解した上で、心の健康の問題を多角的に考え、説明することができる。
価値観の多様性を重視した、個々人の心の健康を理解し支援するための方策をたてることができる。

到達目標

教授方法

講義に加え、各授業で質疑応答、ディスカッション、発表等を適宜取り入れながら、授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、心理学の視点、「発達」の捉え方
2	心身の発達の特徴（1）乳幼児期の認知・情動・社会性の特徴
3	心身の発達の特徴（2）児童期・青年期の認知・情動・社会性の特徴
4	心身の発達の特徴（3）成人期前期の認知・情動・社会性の特徴
5	心身の発達の特徴（4）成人期後期の認知・情動・社会性の特徴
6	心身の発達の特徴（5）老年期の認知・情動・社会性の特徴
7	心身の発達の特徴（6）特別な配慮が必要な者の認知・情動・社会性の特徴
8	社会変化と心の健康問題（1）社会変化と心の諸問題
9	社会変化と心の健康問題（2）心の問題への対処
10	ライフステージ別にみた心の問題と対処（1）幼児期・児童期
11	ライフステージ別にみた心の問題と対処（2）青年期
12	ライフステージ別にみた心の問題と対処（3）成人期・老年期
13	課題の発表と討議（1）
14	課題の発表と討議（2）とまとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	60	授業への参加態度（発言、議論への積極的な参加、課題への取り組み状況など）を評価する。
レポート	40	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、授業時に提示する資料を読み込み、発言や議論の準備を行うこと。
課題レポート、発表資料の作成は、事後学習の時間に取り組むこと。

質問や相談への対応

授業前後の対面またはメールにて対応する。メールアドレスは、初回授業時に提示する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて授業時に資料を配付する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

社会問題に興味を持ち、深く考えていくこと。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

健康栄養科学特論Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:59:33

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0090A	科目コード	E0090
担当教員	白神 俊幸						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

各種栄養素の消化・吸収の分子機序について、栄養素や遺伝子といった分子レベルから細胞・臓器レベルや栄養を営む個体レベルで考え、健常時と疾病時の両側面から栄養科学について学ぶことを目的とする。

腸管、特に小腸における栄養素の消化・吸収と代謝は、生命の維持にとって最も重要な過程である。まずは、各種栄養素の消化・吸収に関与する消化酵素や輸送担体の特徴・性質・調節機構を学ぶ。そのうえで、種々の腸疾患、消化吸収不良等における各種栄養素の消化・吸収障害と体内での栄養障害を理解する。さらに、疾病予防、疾病治療への応用・発展性について考える。

授業のねらい

各種栄養素の消化・吸収の分子機序や調節機構を理解し、説明できる。

輸送担体の調節が破綻する機構および疾病時における栄養状態との関わりについて、一連の栄養素吸収と栄養障害をミクロからマクロにかけて説明できる。

小腸における栄養素の消化・吸収と代謝の動態、疾病予防、疾病治療との関連について、概要を説明することができる。

到達目標

教授方法

pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。

授業ごとに提示する学習の要点に関して、質疑応答・議論を行い、理解度をみながら授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション、栄養素の消化機構と調節の概念
2	輸送系、輸送担体、膜輸送の分子機構
3	たんぱく質の消化と吸収
4	アミノ酸・ペプチドの吸収障害
5	糖質の消化と吸収
6	糖質の吸収障害
7	脂肪の消化と吸収
8	脂肪の吸収障害
9	ビタミンの吸収とその障害
10	ミネラルの吸収とその障害
11	輸送担体と疾病との関わり
12	栄養障害と輸送担体
13	疾病予防への応用・発展性
14	疾病治療への応用・発展性、まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（教員や学生間における議論と質疑応答、授業への積極的な参加態度など）を評価する。
レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、授業計画に示す内容について、主体的に基本的事項や関連内容を学習しておくこと。

事後学習では、講義内容を振り返り、知識を整理し、理解を深めておくこと。

質問や相談への対応

オフィスアワーは、授業初回時に提示する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、資料を配布する。			

参考書・参考資料等

適宜、参考資料を配布または紹介する。

受講生に臨むこと

身近な健康、栄養、食・食品、疾病と関連付けて考えることを心掛けてほしい。自ら考える姿勢を期待する。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）に対応する。

健康栄養科学特論Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:59:17

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバコード	E0100A	科目コード	E0100
担当教員	杉山 英子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

栄養素のうち特に脂質の代謝とその調節について理解するとともに、栄養障害、肥満、糖尿病などの代謝障害時の糖質・脂質代謝について学ぶことを目的とする。

ヒトが摂取する食物中の成分は、消化管における消化・吸収を経て、栄養素別に代謝される。それぞれの栄養素の過不足は、食生活と密接な関連を持つ疾患の発症要因となっている。本特論では、代謝性疾患の発症に大きな影響を及ぼす脂質の代謝とその調節機構、ならびに、脂質代謝の恒常性が影響を受ける身体状態（栄養障害、肥満）における脂質代謝の変化について解説する。

授業のねらい

脂質の分解過程と細胞内への取り込み、細胞内での代謝について説明できる。

脂質代謝を制御する主な転写因子とその調節機構の概要を説明でき、栄養障害、肥満、糖尿病などの病態との関連を説明できる。

食事が健康に寄与する意義を深く考察できる。

到達目標

教授方法

講義

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	脂質の分類とその消化・吸収
3	中性脂肪の代謝（脂肪酸の β 酸化、脂肪酸合成、細胞内脂肪酸輸送）
4	中性脂肪の代謝と疾患（肥満症）
5	スフィンゴ脂質の分解、合成
6	スフィンゴ脂質の代謝と疾患
7	コレステロール・ステロイドの代謝
8	コレステロール・ステロイドの代謝と疾患
9	飢餓状態における糖質・脂質代謝と摂食障害
10	摂食障害の現状と栄養療法
11	脂質代謝関連分子の遺伝子発現調節機構と健康
12	論文紹介・ディスカッション
13	論文紹介・ディスカッション
14	まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	40	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
授業への取組	60	授業への参加態度（自主性、積極性、課題発表のクオリティ、討議内容のクオリティなど）を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、糖質・脂質代謝と遺伝子発現に関する基本的な内容について学習し、充分理解をした上で授業にのぞめるようにしておくこと。

事前学習では、授業時に提示する論文を読み込み理解しておくこと。

質問や相談への対応

随時受け付ける（対面、オンライン両方可）。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時、資料を配布する。			

参考書・参考資料等

Lippincott Illustrated Reviews: Biochemistry (Lippincott Illustrated Reviews Series), Abali E, Cline S, Franklin D, Viselli S, LWW; Seventh, North American版, 2021

受講生に臨むこと

これまでに修得した知識をよく整理し、自主的・積極的に取り組むこと。
プレゼンテーション、ディスカッションがあるので、授業で提示する論文を熟読し準備しておくこと。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

健康医学特論

更新日：2023/01/10 08:59:17

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコト	E0110A	科目コード	E0110
担当教員	石井 陽子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

健康・栄養・食の分野で活躍する人材に必要なとされる医学的な知識、医学的見地からの健康維持と疾病予防について学ぶことを目的とする。非感染性疾患（NCDs: Non-communicable diseases）とは、世界保健機関（WHO: World Health Organization）の定義では、不健康な食事や運動不足、喫煙、過度の飲酒、大気汚染などにより引き起こされる、がん・糖尿病・循環器疾患・呼吸器疾患・メンタルヘルスをはじめとする慢性疾患の総称である。NCDsに対する栄養学的介入には疾患横断的な病態生理の理解が求められる。本授業では、このような視点から論文・資料（英文を含む）を選び精読し、先端的な疾患概念及び栄養学的介入の意義を学修する。

授業のねらい

NCDsの疾患横断的概念、先端的な疾患概念の概要を説明できる。
NCDsの病態生理の概要を説明できる。
NCDsに対する栄養学的介入の意義を説明できる。

到達目標

教授方法

講義では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、授業をすすめる。また、授業内での教員、学生間での積極的な討議を繰り返しながら授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：授業の位置付け・到達目標、授業の進め方
2	NCDs（Non-communicablediseases）（1）概念
3	NCDs（Non-communicablediseases）（2）代表的疾患
4	NCDs（Non-communicablediseases）（3）対策
5	NCDs（Non-communicablediseases）（4）課題
6	ジェネティクス・エピジェネティクス、DoHad（DevelopmentalOriginsofHealthandDisease）（1）概念と関連疾患
7	ジェネティクス・エピジェネティクス、DoHad（DevelopmentalOriginsofHealthandDisease）（2）対策・課題
8	概日リズム、時計遺伝子（Clock）、時間栄養学（Chrono-nutrition）（1）概念と関連疾患
9	概日リズム、時計遺伝子（Clock）、時間栄養学（Chrono-nutrition）（2）対策・課題
10	腸脳相関と関連疾患（1）概念と関連疾患
11	腸脳相関と関連疾患（2）対策・課題
12	医学・栄養学に関する最近の話題（1）担当教員が提供する話題
13	医学・栄養学に関する最近の話題（2）受講者が提供する話題
14	まとめ：健康に関する社会的課題に対する自己の考えを述べ、討議する。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	30	授業への参加態度（課題の発表内容、討議への積極的な参加態度など）を評価する。
レポート	70	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

各回指定された論文・資料を次回までに各自で事前学習する。担当者は可能な範囲で論文・資料を理解し内容を発表する準備を行う。事後学習として資料を整理し、今後活用できるようにしておく。

質問や相談への対応

授業の前後の他、メールにて随時受け付ける。研究室訪問はメールにて事前アポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	随時、論文・資料を配布、あるいはダウンロード先を示す。			

参考書・参考資料等

随時、論文・資料を配布、あるいはダウンロード先を示す。

受講生に臨むこと

自主的に学び、授業中は積極的に討議に参加すること。

「解剖生理学」、「臨床医学概論」に相当する科目の復習、あるいは自習をしておくこと。授業では当該科目の発展的内容を扱う。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

食品開発・製造特論

更新日：2023/01/10 08:59:18

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シバスコッド	E0120A	科目コード	E0120
担当教員	小木曾 加奈						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

食品の機能性や栄養性に主眼をおいて、健康食品などの開発・製造に関する内容について学ぶことを目的とする。実際の食品製造企業で行われている操作について食品工学的な手法、すなわち食品製造プロセスを中心に解説する。例えば、食品開発を行う際、食品原料は種類によって性状が異なるため、製造手段として画一的に考えることはできない。原料の特性を活かすような手段（原理や操作）が様々にあることから、本講義ではそれを網羅的に解説する。また、具体的な例を挙げ、実際の食品の開発や製造の現場における応用・展開についても説明する。

授業のねらい

食品製造企業での製造プロセスにおける原理や手法について説明できる。
食品原料と、それに応じた製造手段に関する課題の概要について説明できる。
食品工学的な原理や手法に関する知識と具体例から、実際の食品の開発や製造現場への応用・展開例を考えることができる。

到達目標

教授方法

講義では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い、授業をすすめる。また、授業内での積極的な質疑応答や議論の他、理解度を確認するための課題を取り入れながら授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：食品関連分野で活躍するゲストスピーカーによる特別講義、総論
2	食品の機能性と食品学の基礎分野
3	食品工学の基礎分野（計算や単位などを含む）
4	食品の保存と水、殺菌の手法と例
5	凍結と解凍の手法と例
6	湿度と食品の乾燥、その手法と例
7	粉体の大きさと分離の手法と例
8	乳化の手法と例
9	食品の弾性と粘性、その手法と例
10	有用成分抽出の手法と例
11	成分濃縮の手法と例
12	蒸留の手法と例
13	ろ過と膜分離の手法と例、様々な機器
14	長野県内の主要食品産業と日本、世界への展開、まとめ

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	40	毎回講義の最後に行う小レポート（小テストを含む）で、授業の理解度を評価する。
期末レポート	60	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

授業の理解では、物理や化学の素養が必要である。
事前学習では、授業計画にある内容について、事前の説明をもとに基本的なことを理解するための学習をしておくこと。
事後学習では、授業を振り返り、原理等、理解を確かなものにするための学習をしておくこと。

質問や相談への対応

質問や相談に対して、授業内で解説したり、個別に対応する。
詳細は、初回の授業時に説明する。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

Food Engineering Fundamentals, Arjun Ghimire著, Lulu.com, 2017

受講生に臨むこと

食品の製造プロセスを知ること、身近にある健康効果や栄養機能をうたった食品の開発には、美味しさや栄養素だけでなく、物理や化学の基礎も必要とされることを理解すること。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）に対応する。

健康栄養科学実験

更新日：2023/01/10 08:59:19

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シラバスコード	E0130A	科目コード	E0130
担当教員	杉山 英子, 石井 陽子, 白神 俊幸, 小木曾 加奈						
備考	実験/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

知識と実践のつながりを理解するために、基礎健康栄養科学分野の専門科目（講義）を担当する教員によるオムニバス形式で実施する。関連文献の検討とともに、研究のために必要な基本的手技や考え方について実験を通して学び、プレゼンテーションも取り入れて、当該分野における実践力を養うことを目的とする。

健康・栄養・食をキーワードに科学的な側面から研究を遂行していくうえで必要な基本的な考え方、実験に関する基本手技、解析方法などを幅広く経験して学ぶことで、視野を広げ、多様な課題に対応できるスキルを養う。

（オムニバス方式/全14回）
（杉山 英子/5回）
オリエンテーション、食物および生体中の栄養成分の定性・定量に関する実験、総括を担当する。
（石井 陽子/3回）
健康と疾病における細胞と組織に関する実験を担当する。
（白神 俊幸/3回）
健康・栄養・食分野の研究における腸管細胞の培養実験を担当する。
（小木曾 加奈/3回）
食用植物からの成分抽出と、その抽出物を用いた食品の酸化防止に関する実験を担当する。

授業のねらい

提示された実験内容に関して実際の例をもとに体験し、各種実験の原理、方法等の概要を理解し、説明できる。
本実験の一連の作業によって、基礎健康栄養科学分野における修士論文研究を遂行する上で必要な知識と技術を身につけ、自身の実験手技として使うことができる。

到達目標

教授方法

担当教員ごとに実験と成果のまとめ・発表を行いながら、授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（杉山）
2	食用植物からの成分抽出および抽出物を用いた食品の酸化防止実験（1）食用植物からの成分抽出（小木曾）
3	食用植物からの成分抽出および抽出物を用いた食品の酸化防止実験（2）抽出成分の確認（小木曾）
4	食用植物からの成分抽出および抽出物を用いた食品の酸化防止実験（3）抽出成分の含有有無における調理後の酸化防止実験、プレゼンテーション（小木曾）
5	食物および生体中の栄養成分の定性・定量（1）ビタミンの定性（杉山）
6	食物および生体中の栄養成分の定性・定量（2）ラット血中ミネラルの定量（杉山）
7	食物および生体中の栄養成分の定性・定量（3）ラット血中総たんぱく質・アルブミンの定量、プレゼンテーション（杉山）
8	健康・栄養・食分野の研究における腸管細胞の培養実験（1）細胞培養の意義、細胞培養法の理解と準備、基本手技と操作（白神）
9	健康・栄養・食分野の研究における腸管細胞の培養実験（2）培養細胞からの遺伝子の抽出と検出（白神）
10	健康・栄養・食分野の研究における腸管細胞の培養実験（3）栄養成分の添加による腸管細胞への影響の検討、プレゼンテーション（白神）
11	健康と疾病における細胞と組織（1）細胞・組織観察の基本と見方（石井）
12	健康と疾病における細胞と組織（2）癌細胞の分化度と悪性度の比較観察（石井）
13	健康と疾病における細胞と組織（3）癌細胞の分化度と進展様式の比較観察、プレゼンテーション（石井）
14	総括（杉山）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60	各教員が提示する課題レポートで、それぞれ、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。

授業への取組	40	実験への取り組み状況（主体性・積極性、実験原理・手技等の理解度、教員や大学院生間における議論と質疑応答、成果発表のクオリティなど）を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

学生は栄養学の基礎的素養を備えていることから、関連する講義科目の履修は必ずしも求めないが、事前学習では、各担当教員が提示する関連の資料をもとに内容を理解しておくこと。

事後学習では、実施した内容を振り返って整理し、実験成果のまとめやプレゼンテーションの準備をすること。

質問や相談への対応

初回の実習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。

その際、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。

質問・相談の方法は、各担当教員の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	適宜、資料を配布する。			

参考書・参考資料等

適宜、参考資料を配布または紹介する。

受講生に臨むこと

健康、栄養、食・食品に関する研究とは何か、各実験手技が何に利用・応用できるのか、何に貢献できるのか、について考えながら経験してほしい。

その他・特記事項

原則、対面で実施することが望ましいが、社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応することも可能である。

履修ガイダンス時に、詳細を説明し、必要に応じて、各担当教員と事前に相談すること。

栄養マネジメント特論

更新日：2023/01/10 08:59:19

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0140A	科目コード	E0140
担当教員	稲山 貴代						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

各ライフステージの個人や集団を対象に、PDCAマネジメントサイクルに基づき健康の維持・増進に向けた研究および理論と結びついた実践活動を学ぶことを目的とする。ライフステージでは妊娠・授乳期、新生児・乳幼児期、学童期・思春期、成人期、高齢期に加え、スポーツ選手、障害のある人、災害時の被災者を対象とする。健康の保持・増進、生活習慣病予防・重症化予防、フレイル予防のための栄養マネジメントについて、根拠に基づくアセスメント、課題抽出と目標設定、栄養ケア、評価、フィードバックについて、ケースをとりあげ議論を重ね、理論と結びつく実践活動を理解する。最終的には地域・コミュニティを想定した介入計画を立案し、倫理的配慮、実現可能性、妥当性など、様々な視点で議論し、実践に結びつく栄養マネジメントを理解する。

授業のねらい

根拠に基づき、最新の技術を取り入れたアセスメント手法を理解し、栄養評価を企画することができる。

論理的に目標項目と評価項目を設定し、目標達成可能な栄養ケアを企画することができる。

地域やコミュニティの視点から、実現可能性の高い介入計画を立案し、論理的な栄養マネジメントプロセスを考えることができる。

到達目標

教授方法

pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。

ケーススタディと健康・栄養ケア介入計画づくりでは、提示するライフステージ別のケースをもとに、積極的に議論を重ねて授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	日本人の食事摂取基準を活用した個人ならびに集団を対象とした栄養マネジメント
3	最新の技術を用いた栄養アセスメントの展開
4	アセスメントの評価尺度の開発事例
5	ライフステージ別の健康・栄養課題と必要とされる栄養ケア（1）ケーススタディ（例、生活習慣病予防）
6	ライフステージ別の健康・栄養課題と必要とされる栄養ケア（2）ケーススタディ（例、フレイル予防）
7	中間発表（ケーススタディ）と議論
8	ライフステージ別の健康・栄養介入計画づくり（1）目標項目と評価項目
9	ライフステージ別の健康・栄養介入計画づくり（2）栄養ケア
10	中間発表（介入計画）と議論
11	ライフステージ別の健康・栄養介入計画づくり（3）
12	ライフステージ別の健康・栄養介入計画づくり（4）
13	成果発表と議論
14	総括

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言・議論のアクティビティおよび課題発表のクオリティなど）を評価する。
期末レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、課題のライフステージ別のケーススタディについて、理解を深めておくこと。

事後学習では、授業内での議論を反映し、常に、自身の栄養マネジメントの企画を振り返り、修正し、次の議論に向かう準備をしておくこと。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。

後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『日本人の食事摂取基準 [2020年版]』伊藤・佐々木監修	第一出版		ISBN : 978-4-8041-1408-8
				その他、必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

Ada Pocket Guide to Nutrition Assessment, Third Edition, Pamela C. and Malone A., Academy of Nutrition and Dietetics, 2015, ISBN: 978-0880914895

受講生に臨むこと

ライフステージ別にケーススタディを行う。自身がとりあげるライフステージにある市民の声を理解するために、書籍などから積極的に情報を収集し、具体的にイメージしておく。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

医療栄養学特論

更新日：2023/01/10 08:59:20

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	E0150A	科目コード	E0150
担当教員	川島 由起子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

医療を中心に、福祉や介護関係の職域も含め、傷病者を対象とした高度な栄養管理・栄養療法等を学ぶことを目的とする。医療分野では、科学的根拠に基づく疾患別の診療ガイドラインが次々と発表されている。主要な疾患の診療ガイドラインをとりあげ、栄養・食事療法に焦点をあてながら、エビデンスのシステムレビューとその総合評価について概説する。また、実際の医療現場における栄養問題は多岐にわたり、疾病、ライフステージやライフスタイル、身体機能等にに応じた栄養ケアに加え、多職種連携による総合的な支援が重要となる。国際標準であるNutrition Care Processについて、栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養介入、モニタリングと評価という一連のプロセスを理解する。ケーススタディでは、実際の臨床現場の代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患などの複数の事例から、各自、1つを選び研究をすすめ、臨床現場における課題解決能力を養う。

授業のねらい

診療ガイドラインを理解し、科学的根拠に基づく栄養管理・栄養療法について説明できる。
国際標準である栄養ケアプロセスを理解し、さまざまな病態を有する傷病者の事例にあてはめ、臨床現場における課題解決のための栄養ケアを説明できる。

到達目標

教授方法

pptファイルの映写やホワイトボードを用い、講義形式で授業をすすめる。
ケーススタディでは、積極的に議論を重ねて授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション
2	診療ガイドラインと食事摂取基準
3	高血圧の診療ガイドライン：科学的根拠と栄養・食事療法
4	糖尿病の診療ガイドライン：科学的根拠と栄養・食事療法
5	動脈硬化性疾患の診療ガイドライン：科学的根拠と栄養・食事療法
6	肥満症の診療ガイドライン：科学的根拠と栄養・食事療法
7	診療ガイドラインに基づく栄養ケア計画の事例と総合討論
8	Nutrition Care Process ：栄養スクリーニングと栄養評価、栄養診断
9	Nutrition Care Process ：栄養介入、モニタリングと判定
10	Nutrition Care Process ：アウトカム管理システム
11	ケーススタディ（1）
12	ケーススタディ（2）
13	ケーススタディ発表
14	総括

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】 基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。 【A】 基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】 基本的な到達目標をおおむね達成している。 【C】 基本的な到達目標を最低限度達成している。 【F】 基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（発言・議論のアクティビティおよび課題発表のクオリティなど）を評価する。
期末レポート	50	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習・事後学習では、授業時に提示する関連の先行文献・資料を読み、理解を深めておくこと。
特に、事例研究では、授業外で、資料等を読み込み、発表できるよう学習をすすめておくこと。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。
後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	『栄養管理プロセス』木戸・中村・小松編、	第一出版		
				その他、必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

International Dietetics & Nutrition Terminology (IDNT) Reference Manual: Standardized Language for the Nutrition Care Process, Third edition, American Dietetic Association 2010, ISBN : 978-0880914451

受講生に臨むこと

診療ガイドラインは、オンラインで最新の情報を収集し、活用する。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

国際栄養学特論

更新日：2023/01/10 08:59:21

開講年度	2022	学期	3期, 4期	シラバスコード	E0160A	科目コード	E0160
担当教員	草間 かおる						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年3・4学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

世界の健康・栄養・食料問題を俯瞰し、課題解決のための栄養政策の立案、PDCAサイクルに基づいた栄養介入プログラムなどを学ぶことを目的とする。世界の健康・栄養・食料問題の現状と課題の理解として、世界保健機関（WHO）や国連食糧農業機関（FAO）などの資料から疾病構造、飢餓や栄養不良の状況について学修し、過去から現在に至るまでの推移の把握とともに、特に栄養不良（低栄養・過栄養）に関わる要因について、総合的に学ぶ。あわせて、課題抽出や課題解決のための取り組みから、世界の栄養政策の潮流を理解する。さらに、国外で栄養介入プログラム介入の経験を有する実務者から提示される事例をもとに、PDCAサイクルに基づいた介入プログラムの評価や実社会に向けての提言等について議論する。

授業のねらい

- ・世界の健康問題について国際的な取り組みと推移、現在に残る課題について説明できる。
- ・世界の栄養・食料問題について国際的な取り組みと推移、現在に残る課題について説明できる。
- ・国外の事例をもとに、世界の栄養政策や介入プログラムを評価できる。

到達目標

教授方法

講義形式では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い授業をすすめる。
栄養介入プログラムの理解では、グループワークや演習形式をとりいれながら、積極的に議論を重ねて授業をすすめる。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション：国際栄養学とは
2	世界の健康問題（1）人口転換、世界の疾病構造、感染症および非感染性疾患
3	世界の健康問題（2）国際保健、プライマリーヘルスケア、健康格差
4	世界の栄養問題（1）飢餓、栄養不良、栄養不良関連因子
5	世界の栄養問題（2）栄養不良関連因子
6	世界の食料問題（1）食料と栄養のセキュリティ、持続可能な健康に良い食事
7	世界の食料問題（2）フードシステム
8	世界の栄養政策（1）地球レベルでの健康・栄養政策
9	世界の栄養政策（2）食事基準、栄養士養成制度
10	地域診断：既存データ活用、対象地域の把握
11	栄養アセスメントと食事評価
12	プロジェクトマネジメントと評価
13	栄養介入プログラム（1）ライフコースアプローチ、妊婦・乳幼児対象など：実務者からのレクチャーおよび討議
14	栄養介入プログラム（2）子どもへの栄養教育・食事支援、給食プログラムを含む：実務者からのレクチャーおよび討議

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	60	授業への参加態度（事前課題への取り組み、発言・議論のアクティビティ、課題発表のクオリティなど）を評価する。
期末レポート	40	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

提示された課題は、事前学習、事後学習の時間で作業すること。
授業で使用するWHOやFAOなどの資料は、英語で書かれたものである。事前学習で、読み込み、授業内の議論の準備をしておくこと。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後、メールでの問合せに対応する。
後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業時に資料を配布する。			

参考書・参考資料等

授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

英語の資料を読み込んで、授業内に議論をすることが多い。事前学習の時間をしっかりとって、講義に向かうこと。なお、資料は、各自、適切なwebサイトにアクセスし、ダウンロードする。情報リテラシーのスキルも修得してほしい。詳細はオリエンテーションで説明する。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

地域包括ケア実践論

更新日：2023/01/10 08:59:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0170A	科目コード	E0170
担当教員	奥村 圭子						
備考	講義/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	2年1・2学期	曜日/時限	—	単位	2	

授業の概要

これからの高齢化社会を見据えて、地域の医療、福祉、介護関係の職域におけるケアの法的根拠と具体的な実践方法を学ぶことを目的とする。人権尊重、多様な価値観や個性の尊重などの視点をもって、住み慣れた場所で自分らしい生活を最期まで送れるようにサポートしあう地域包括ケアの概念を理解する。その上で、様々なライフスタイルや健康状態にある全ての人を対象とした食を通じた健康支援やケア、それらを可能とする地域資源やサービスなど、多職種との連携、当事者や家族との関わりも含め、事例をもとに、持続可能な社会づくりに果たす地域包括ケアの在り方について議論する。最終的には栄養ケア・ステーションの事業計画の立案を通し、多職種連携チームの一員として質の高い栄養ケアが実践できる専門職をめざす。

授業のねらい

多様化する保健・医療・福祉・介護の分野において、地域で暮らす人々の生活基盤を支えることができる地域包括ケアの概念について説明できる。
様々なライフスタイルや健康状態にある人々の地域における健康支援やサービスを提供するシステムについて説明できる。
多職種との連携、当事者やその家族との関わりも含めて、事例を元に、栄養ケア・ステーションの事業計画をたてることができる。

到達目標

教授方法

講義形式では、pptファイルの映写やホワイトボードを用い授業をすすめる。
事例検討では、グループワークや実践現場でのヒアリングなども含め、積極的に議論を重ねて授業をすすめる。

履修条件

栄養マネジメント特論、ヘルス・ニュートリション実習の単位を取得しておくこと

授業計画

1	オリエンテーション：地域包括ケアシステムの概要と保健・医療・福祉・介護に関する制度
2	地域医療に必要な多職種連携と患者・家族に対する役割
3	地域診断の概要とフィジカルアセスメント
4	高齢者の生活（1）地域在住高齢者の低栄養・フレイルの特性と予防的栄養ケア
5	高齢者の生活（2）要介護高齢者の認知症の特性と栄養ケア
6	事例検討（1）フードデザート問題とその栄養介入
7	事例検討（2）社会的弱者の生活と介護予防・重症化予防・日常生活支援
8	事例検討（3）複数疾患を持つ高齢者世帯への自立支援
9	事例検討（4）地域包括支援センターとの連携と模擬地域ケア会議
10	事例検討（5）災害支援
11	栄養ケア・ステーションの事業計画（1）事業計画書の作成方法と目標設定
12	栄養ケア・ステーションの事業計画（2）ゲストスピーカーとのディスカッション（栄養専門職等）
13	栄養ケア・ステーションの事業計画（3）ゲストスピーカーとのディスカッション（行政や地域包括支援センタースタッフ等）
14	まとめ：栄養ケア・ステーションの事業計画の発表とディスカッション

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	50	授業への参加態度（事前課題への取り組み、授業時の質疑応答、議論への積極的な参加、課題発表など）を評価する。
期末レポート	50	栄養ケア・ステーションの事業計画書をもって、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

事前学習では、授業時に提示する課題について、学習をすすめておくこと。
特に行政事業や認定栄養ケア・ステーションの設置について、積極的に担当者にヒアリングを行うなど、理解を深めておくこと。
事後学習では、講義での学びや授業内でのディスカッションを次の授業に活かすことができるよう、学習をすすめておくこと。

質問や相談への対応

授業前・中・終了後に対応する。事前学習、事後学習の内容についても個別の相談に応じる。
後日、対応を要する場合は、事前にメールでアポイントメントをとること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	特に指定しない。授業で資料を配布する。			

参考書・参考資料等

筒井孝子：地域包括ケアシステムの深化、中央法規
厚生労働省：社会保障審議会資料
地域包括ケア研究会：2040年多元的社會における地域包括ケアシステム、三菱UFJリサーチ&コンサルティング
(一般社団法人)日本公衆衛生協会 地域診断ガイドライン
日本専門医機構総合診療専門医検討委員会:総合診療専門研修公式テキストブック

受講生に臨むこと

健康寿命の延伸を目的とした事業立案や多機関・多職種と協働できる人材となることを目指してください。
医療栄養学特論を履修しておくことが望ましい。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）に対応する。

健康栄養科学実習

更新日：2023/01/10 08:59:22

開講年度	2022	学期	1期, 2期	シバコード	E0180A	科目コード	E0180
担当教員	稲山 貴代, 川島 由起子, 奥村 圭子, 草間 かおる						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年1・2学期	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

知識と実践のつながりを理解するために、応用健康科学分野の専門科目（講義）を担当する教員によるオムニバス形式で実施する。理論と実践に関して、幅広く知識を理解し、多角的な視野で、応用健康栄養科学分野における技能を学ぶことを目的とする。各実習では、当該分野における代表的な文献や事例をとりあげ、調査・研究に関する専門的知識や理論を学び、実践の場で活用でき基本的なスキルを理解する。

（オムニバス方式／全14回）

（稲山 貴代・川島 由起子・奥村 圭子・草間 かおる／2回）（共同）

オリエンテーション、実習成果の発表と総合討論について、科目担当教員全員で、共同で担当する。

（稲山 貴代／3回）

個人と集団の健康の維持・増進を目的とした栄養マネジメントについて、ライフステージ・ライフスタイル別の調査・研究事例をもとに、実習を担当する。

（川島 由起子／3回）

傷病者の栄養療法と重症化予防を目的とした栄養ケアについて、研究事例をもとに、実習を担当する。

（奥村 圭子／3回）

低栄養やフレイル予防を目的とした地域での包括的なケアについて、調査・研究事例をもとに、実習を担当する。

（草間 かおる／3回）

国際的な健康・栄養課題の解決を目的とした政策等について、調査・研究事例をもとに、実習を担当する。

授業のねらい

栄養マネジメント、医療栄養、地域包括ケア、国際栄養のそれぞれの分野において、知識や理論を理解し、説明できる。調査研究の基本的な手技を修得し、自身の研究に活かすことができる。

到達目標

教授方法

栄養マネジメント、医療栄養、地域包括ケア、国際栄養の分野ごとに実習を行う。

履修条件

特になし

授業計画

1	オリエンテーション（稲山・川島・奥村・草間）
2	栄養マネジメント実習（1）：ライフステージ・ライフスタイル別にみた栄養ケアの調査・研究の特徴（稲山）
3	栄養マネジメント実習（2）：ライフステージ・ライフスタイル別にみた栄養ケアの調査・研究の企画（稲山）
4	栄養マネジメント実習（3）：ライフステージ・ライフスタイル別にみた栄養ケアの調査・研究の評価（稲山）
5	医療栄養学実習（1）：疾患別の栄養ケアと研究の特徴（川島）
6	医療栄養学実習（2）：疾患別の栄養ケアと研究の企画（川島）
7	医療栄養学実習（3）：疾患別の栄養ケアと研究の評価（川島）
8	地域包括ケア実習（1）：地域でみる包括的なケアの調査・研究の特徴（奥村）
9	地域包括ケア実習（2）：地域でみる包括的なケアの調査・研究の企画（奥村）
10	地域包括ケア実習（3）：地域でみる包括的なケアの調査・研究の評価（奥村）
11	国際栄養学実習（1）：国際的な健康・栄養・食料課題および政策の特徴（草間）
12	国際栄養学実習（2）：国際的な健康・栄養・食料課題および政策の調査・研究の企画（草間）
13	国際栄養学実習（3）：国際的な健康・栄養・食料課題および政策の調査・研究の評価（草間）
14	総括：成果発表と総合討論（稲山・川島・奥村・草間）

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組	80	授業への参加態度（発言・議論のアクティビティ、課題の取り組み状況やクオリティなど）を評価する。
レポート	20	課題レポートで、授業目標（ねらい・到達目標）の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

学生は栄養学の基礎的素養を備えていることから、関連する講義科目の履修は必ずしも求めないが、事前学習では、授業時に提示する関連の先行文献・資料を読み、理解を深めておくこと。

事後学習では、課題への取り組みのほか、実習で得た知識とスキルを、自らの研究課題とつなげ、どのように活用できるか、深く考える時間をとること。

質問や相談への対応

初回の実習時に、担当教員のオフィスアワーを確認すること。

その際、連絡用の電子メールアドレスを連絡する。

質問・相談の方法は、各担当教員の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	授業時に資料を配布する。			

参考書・参考資料等

授業時に紹介する。

受講生に臨むこと

オムニバスで行われることから、必要に応じて担当教員と密に連絡をとり、受講もれがないようにする。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）で対応する。

インターンシップA：健康づくり実践実習

更新日：2023/01/10 08:59:23

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	E0190A	科目コード	E0190
担当教員	稲山 貴代						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1・2年通年	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

インターンシップでは、実社会における様々な健康・栄養・食に関する課題解決に向け、課題探索と解決方法、将来の方向性を探るとともに、多職種連携による業務遂行の必要性と実際を体験し、実践力を養うことを目的とする。

国や自治体の行政機関、健康づくりを担う組織等において、社会・健康・栄養課題に対する健康づくり戦略の実際を学び、実践力を養う。PDCAマネジメントサイクルをまわしながら、地域や集団のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画・立案、実践、評価について、実習をすすめる。評価に基づき次のアクションにつなげるプロセスを学び、科学的根拠づくり、リーダーとして地域の健康づくりを推進する能力を養成する。

授業のねらい

行政や健康づくりに関連する組織等において、そのコミュニティの社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、改善計画の立案、実践と評価ができる。科学的根拠にもとづき、健康長寿の延伸に向けて具体的な方策を提案できる。

到達目標

教授方法

実習

履修条件

1年次1・2学期開講の必修科目である「研究倫理と研究法」「栄養と健康のデータサイエンス演習I」を履修しておくこと。研究指導教員の了解を得ておくこと。

授業計画

1	事前指導 履修学生が研修先でのインターンシップをスムーズに行うことができるように、研究指導教員も交えて、事前指導を行う
2	インターンシップ期間（1から3週間） 研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
3	インターンシップ期間（1から3週間） 研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
4	インターンシップ期間（1から3週間） 研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
5	インターンシップ期間（1から3週間） 研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
6	インターンシップ期間（1から3週間） 研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
7	事後指導 履修学生が行う研修後の実習報告（プレゼンテーション）と議論をもとに、研修の事後指導を行う。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
研修態度	50	研修の参加態度について、研修先の担当指導関係者の評価に基づき評価する。
研修報告	50	研修報告での発表（プレゼンテーション）と議論、ならびに提出レポートをもとに、授業目標の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

研修先や研修内容に関して、必要な情報を収集・分析・理解しておくこと。研修に必要な学習や作業は授業外学習で行う。

質問や相談への対応

研修先への質問や相談方法は、研修先の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて指示する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

受講生に臨むこと

インターンシップの目的やねらい、研修内容と期間、得られる成果について、履修学生と研修先との十分な打ち合わせを行い、研究指導教員の了解を得て実施すること。

特別研究の遂行に支障のないよう配慮し実施すること。

研修先とは、履修学生が主体となってコミュニケーションをとること。

その他・特記事項

インターンシップの実施に関しては、履修ガイダンスとは別に開催する説明会にて、詳細を説明する。

インターンシップB：クリニカル・ニュートリション実習

更新日：2023/01/10 08:59:25

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバースコード	E0200A	科目コード	E0200
担当教員	奥村 圭子						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1・2年通年	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

インターンシップでは、実社会における様々な健康・栄養・食に関する課題解決に向け、課題探索と解決方法、将来の方向性を探るとともに、多職種連携による業務遂行の必要性と実際を体験し、実践力を養うことを目的とする。

医療や福祉施設、地域で保健・療養・介護等を行っている施設等において、栄養ケアプロセス（Nutrition Care Process）の実際を学び、実践力を養う。傷病者、要介護者、障害のある者などを対象に、国際基準である栄養ケアプロセスとして、栄養診断、倫理的配慮をもった栄養ケア・栄養療法の実践と評価について、最新の知識やスキルを修得し、実習をすすめる。

在宅の療養者等を対象とした地域包括的ケアも含め、科学的根拠に基づき論理的な思考で、現場の課題解決能力を養う。

授業のねらい

傷病者等の栄養療法、高齢期のフレイル予防や対応等において、最新の知識とスキルを学び、チームの一員として栄養ケアの実践と評価ができる。

科学的根拠にもとづき、現場の課題に対する具体的な解決策を提案できる。

到達目標

教授方法

実習

履修条件

1年次1・2学期開講の必修科目である「研究倫理と研究法」「栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ」を履修しておくこと。

研究指導教員の了解を得ておくこと。

授業計画

1	事前指導履修学生が研修先でのインターンシップをスムーズに行うことができるように、研究指導教員も交えて、事前指導を行う
2	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
3	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
4	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
5	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
6	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
7	事後指導履修学生が行う研修後の実習報告（プレゼンテーション）と議論をもとに、研修の事後指導を行う。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
研修態度	50	研修の参加態度について、研修先の担当指導関係者の評価に基づき評価する。
研修報告	50	研修報告での発表（プレゼンテーション）と議論、ならびに提出レポートをもとに、授業目標の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

研修先や研修内容に関して、必要な情報を収集・分析・理解しておくこと。研修に必要な学習や作業は授業外学習で行う。

質問や相談への対応

研修先への質問や相談方法は、研修先の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて指示する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

受講生に臨むこと

インターンシップの目的やねらい、研修内容と期間、得られる成果について、履修学生と研修先との十分な打ち合わせを行い、研究指導教員の了解を得て実施すること。

特別研究の遂行に支障のないよう配慮し実施すること。

研修先とは、履修学生が主体となってコミュニケーションをとること。

その他・特記事項

インターンシップの実施に関しては、履修ガイダンスとは別に開催する説明会にて、詳細を説明する。

インターンシップC：地域産業連携実習

更新日：2023/01/10 08:59:25

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	E0210A	科目コード	E0210
担当教員	小木曾 加奈						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1・2年通年	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

インターンシップでは、実社会における様々な健康・栄養・食に関する課題解決に向け、課題探索と解決方法、将来の方向性を探るとともに、多職種連携による業務遂行の必要性和実際を体験し、実践力を養うことを目的とする。

健康・栄養・食に関連する企業・団体等において、地域産業活性化につながる実践力を養う。

健康志向型の商品やサービスについて、研修を通して研究・開発のプロセスを理解しながら、実習をすすめる。

科学的根拠に基づき、かつ、長野県の食文化も含めた地域特性を活かした新たな健康志向型商品やサービスの創出につながる提案をすることができる能力を養い、地域産業の活性化を担う人材になることをめざす。

授業のねらい

健康・栄養・食に関連する企業・団体等において、商品やサービスの開発・研究プロセスを理解し、評価ができる。

科学的根拠にもとづき、新たな健康志向型商品やサービスを提案できる。

到達目標

教授方法

実習

履修条件

1年次1・2学期開講の必修科目である「研究倫理と研究法」「栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ」を履修しておくこと。

研究指導教員の了解を得ておくこと。

授業計画

1	事前指導履修学生が研修先でのインターンシップをスムーズに行うことができるように、研究指導教員も交えて、事前指導を行う
2	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
3	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
4	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
5	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
6	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
7	事後指導履修学生が行う研修後の実習報告（プレゼンテーション）と議論をもとに、研修の事後指導を行う。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
研修態度	50	研修の参加態度について、研修先の担当指導関係者の評価に基づき評価する。
研修報告	50	研修報告での発表（プレゼンテーション）と議論、ならびに提出レポートをもとに、授業目標の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

研修先や研修内容に関して、必要な情報を収集・分析・理解しておくこと。

研修に必要な学習や作業は授業外学習で行う。

質問や相談への対応

研修先への質問や相談方法は、研修先の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて指示する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

受講生に臨むこと

インターンシップの目的やねらい、研修内容と期間、得られる成果について、履修学生と研修先との十分な打ち合わせを行い、研究指導教員の了解を得て実施すること。

特別研究の遂行に支障のないよう配慮し実施すること。

研修先とは、履修学生が主体となってコミュニケーションをとること。

その他・特記事項

インターンシップの実施に関しては、履修ガイダンスとは別に開催する説明会にて、詳細を説明する。

インターンシップD：海外フィールドワーク実習

更新日：2023/01/10 08:59:26

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シラバスコード	E0220A	科目コード	E0220
担当教員	草間 かおる						
備考	実習/選択//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1・2年通年	曜日/時限	—	単位	1	

授業の概要

インターンシップでは、実社会における様々な健康・栄養・食に関する課題解決に向け、課題探索と解決方法、将来の方向性を探るとともに、多職種連携による業務遂行の必要性和実際を体験し、実践力を養うことを目的とする。

保健・医療・福祉、教育、健康づくり等に関する国際的な活動を行っている国際協力NGO等の組織において、海外における栄養介入プログラムの実際を学び、実践力を養う。

PDCAマネジメントサイクルをもとに、対象集団のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画・立案、実践、評価について、実習をすすめる。

評価に基づき次のアクションにつなげるプロセスを学び、国際的な視野で健康・栄養・食の課題解決を推進できる能力を養成する。また、科学的根拠のある国際情報を発信できる能力も養う。

授業のねらい

海外において栄養介入プログラムを実施する組織等において、これまでの活動状況等を踏まえた対象集団のアセスメント、課題を抽出し、改善計画の立案、実践と評価ができる。

科学的根拠にもとづき、国際的な健康・栄養・食に関する課題解決に向けて具体的な方策を提案できる。

到達目標

教授方法

実習

履修条件

1年次1・2学期開講の必修科目である「研究倫理と研究法」「栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ」を履修しておくこと。

研究指導教員の了解を得ておくこと。

授業計画

1	事前指導履修学生が研修先でのインターンシップをスムーズに行うことができるように、研究指導教員も交えて、事前指導を行う
2	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
3	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
4	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
5	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
6	インターンシップ期間（1から3週間）研修先にて、PDCAマネジメントにそって、社会・健康・栄養状態のアセスメントと課題抽出、目標設定と企画、実践、評価について、実践的な研修を行う。
7	事後指導履修学生が行う研修後の実習報告（プレゼンテーション）と議論をもとに、研修の事後指導を行う。

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。	
評価項目	割合	評価基準
研修態度	50	研修の参加態度について、研修先の担当指導関係者の評価に基づき評価する。
研修報告	50	研修報告での発表（プレゼンテーション）と議論、ならびに提出レポートをもとに、授業目標の達成度を評価する。
合計	100	

授業外における学習（事前・事後学習等）

研修先や研修内容に関して、必要な情報を収集・分析・理解しておくこと。研修に必要な学習や作業は授業外学習で行う。

質問や相談への対応

研修先への質問や相談方法は、研修先の指示に従うこと。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

必要に応じて指示する。			
-------------	--	--	--

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

受講生に臨むこと

インターンシップの目的やねらい、研修内容と期間、得られる成果について、履修学生と研修先との十分な打ち合わせを行い、研究指導教員の了解を得て実施すること。

特別研究の遂行に支障のないよう配慮し実施すること。

研修先とは、履修学生が主体となってコミュニケーションをとること。

その他・特記事項

インターンシップの実施に関しては、履修ガイダンスとは別に開催する説明会にて、詳細を説明する。

健康栄養科学特別研究Ⅰ

更新日：2023/01/10 08:59:27

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	E0230A	科目コード	E0230
担当教員	石井 陽子, 稲山 貴代, 杉山 英子, 中澤 弥子, 加藤 孝士, 草間 かおる, 白神 俊幸, 小木曾 加奈, 今村 晴彦, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	1年通年	曜日/時限	—	単位	4	

授業の概要

担当指導教員の指導のもと、健康・栄養・食に関連する研究を進める上で、修士論文作成に必要な研究を遂行するための基礎を理解し、基礎健康栄養科学、応用健康栄養科学、それぞれに必要な研究法の基礎知識、実験・調査計画、統計解析、データ収集などの方法を修得するための指導を行う（予備実験、予備調査などの実践を含む）。あわせて、文献検索方法と収集・整理方法を理解し、研究テーマに関する文献研究を行い、研究小史を作成するための指導を行う。さらに、セミナー等を通し、研究発表のためのプレゼンテーションならびに議論のスキルを身につけるための指導を行う。

担当教員が指導する主な研究課題は次のとおりである。

（稲山 貴代）

様々なライフステージにある人（主に障がい者、高齢者）における健康・栄養課題をとりあげ、介入計画と実践・評価のための栄養マネジメントに関する課題について研究指導を行う。

（杉山 英子）

脂質代謝の調節機構や飢餓時の栄養状態に関する課題について研究指導を行う。

（中澤 弥子）

日本を含む世界の食文化について、多様な生活文化やものの見方・考え方の理解のための研究指導を行う。

（石井 陽子）

生体の恒常性維持に関する諸因子の作用について研究指導を行う。

（草間 かおる）

栄養ハイリスク者の栄養状態の評価方法について研究指導を行う。

（白神 俊幸）

腸管上皮の栄養素の吸収に関わる輸送担体分子を取り上げ、それらの種々の条件下における調節機構の解明について研究指導を行う。

（小木曾 加奈）

長野県内の特産物のうち未利用資源などを利用し、食品開発につなげるための成分分析や加工について研究指導を行う。

（今村 晴彦）

地域や職域などのコミュニティを基盤とした健康・栄養課題（特に成人期および高齢期）の発見と解決について、疫学調査や事例調査（実装科学）を通じた研究指導を行う。

（加藤 孝士）

心理学的視点から、心の健康に関する課題を整理し、あわせて、量的・質的研究について研究手法とそのスキル獲得のための研究指導を行う。

（奥村 圭子）

自立支援・重症化防止事業の対象者や要介護高齢者の生活機能に対する課題を取り上げ、地域包括ケアにおける栄養・食生活改善についての研究指導を行う。

授業のねらい

研究テーマを決定し、そのテーマと関連する先行研究を収集・整理し、研究小史を作成することができる。

解決すべき課題から作業仮説をたて、倫理的配慮のもと、その仮説を検証するための研究計画を立案することができる。

研究小史も含め、研究計画書を作成することができる。

到達目標

教授方法

指導教員を中心として、以下の内容についてセミナー形式で実施する。

また、論文抄読で先行研究を読み込み、研究小史の作成をすすめる。

研究計画作成のための実験・実習・調査を実施することもある。

研究計画の進行状況にあわせて、授業計画の順番を適宜変更しながらすすめる。

履修条件

基礎健康栄養科学分野、応用健康科学分野ごとに、選択必修の講義科目ならびに実験または実習科目を履修すること。

授業計画

1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	健康・栄養・食の分野の研究法の基礎
4	健康・栄養・食の分野の研究法の基礎
5	研究テーマの選択・決定
6	研究テーマの選択・決定
7	文献検索と要約（データベース検索とハンドサーチ、エビデンステーブルの作成など）
8	文献検索と要約（データベース検索とハンドサーチ、エビデンステーブルの作成など）
9	各自の研究テーマに関連する論文抄読
10	各自の研究テーマに関連する論文抄読
11	研究小史作成のための文献活用と要約
12	研究小史作成のための文献活用と要約

13	研究計画書作成の基本
14	研究計画書作成の基本
15	研究計画書作成のための実験・調査方法
16	研究計画書作成のための実験・調査方法
17	研究計画書作成のための統計解析
18	研究計画書作成のための統計解析
19	データ収集・解析の方法と実践
20	データ収集・解析の方法と実践
21	研究計画書の作成(1)：仮説検証のためのストーリーづくり
22	研究計画書の作成(1)：仮説検証のためのストーリーづくり
23	研究計画書の作成(2)：仮説検証のための方法論の妥当性
24	研究計画書の作成(2)：仮説検証のための方法論の妥当性
25	研究報告・発表会のためのプレゼンテーションスキル
26	研究報告・発表会のためのプレゼンテーションスキル
27	総括：成果報告
28	総括：成果報告

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
授業への取組	20	授業への参加態度（特別研究への取り組み、ゼミでの発言・議論のアクティビティ、課題発表のクオリティなど）を評価する。	
レポート	80	研究計画書を評価する。	
合計	100		

授業外における学習（事前・事後学習等）

研究テーマと関連する文献・資料を十分読み込んでから授業にのぞむこと。
ゼミ等で得た知識とスキルを、自らの研究にどのように活かすことができるか、深く考える時間をとって自身の研究計画をすすめること。
研究計画書作成に必要な作業は授業外学習で行う。

質問や相談への対応

指導教員のオフィスアワーを確認すること。
質問・相談の方法は、指導教員と相談し、決めること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

受講生に臨むこと

研究計画の作成にあたっては、指導教員と密に相談・議論しながら、実現可能性の高いものとなるようにすること。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）を取り入れながらすすめる。
曜日・時限等の詳細は学生から教員に相談・調整すること。

健康栄養科学特別研究Ⅱ

更新日：2023/01/10 08:59:28

開講年度	2022	学期	1期, 2期, 3期, 4期	シバコード	E0240A	科目コード	E0240
担当教員	石井 陽子, 稲山 貴代, 杉山 英子, 中澤 弥子, 加藤 孝士, 草間 かつお, 白神 俊幸, 小木曾 加奈, 今村 晴彦, 奥村 圭子						
備考	演習/必修//						
配当	学部/学科	大学院 健康栄養科学研究科					
	配当時期	2年通年	曜日/時限	—	単位	4	

授業の概要

研究計画をもとに、実験・調査等の実施、データの収集と解析、議論・考察するための研究指導を進め、その成果として修士論文を作成するための論文指導を行う。

担当指導教員が指導する主な研究課題は、次のとおりである。

(稲山 貴代)

専門領域は応用栄養学・健康教育・公衆栄養学である。研究テーマの概要は、知的障がい児・者や地域在住高齢者を対象とした肥満対策あるいはフレイル予防を目的とした健康づくり支援システムの開発である。

(杉山 英子)

専門領域は生化学・食生活学である。研究テーマは脂質代謝の調節機構の解明と摂食障害の病態理解・予防啓発である。

(中澤 弥子)

専門領域は食文化研究である。研究テーマは、生活文化も含めて日本を含む世界の食文化の特徴やその形成や変容について明らかにすることである。

(石井 陽子)

専門領域は病態生理学・病理学である。研究テーマの概要は生体の恒常性維持に関する諸因子の作用機序の解明である。

(草間 かつお)

専門領域は公衆栄養学、国際保健である。研究テーマの概要は栄養ハイリスク者の栄養評価である。

(白神 俊幸)

専門領域は分子栄養学・病態栄養学である。研究テーマの概要は、腸管上皮における栄養素輸送担体の調節機構の解明と疾病の予防や治療に向けた基礎検討である。

(小木曾 加奈)

専門領域は食品産業分野による農芸化学・食品科学である。研究テーマの概要は地域の未利用資源を対象に分析・加工を通じて有効活用方法である。

(今村 晴彦)

専門領域は社会疫学、コミュニティヘルス、実装科学である。研究テーマの概要は、地域や職域における社会環境（特にコミュニティ）に着目した、健康・栄養に関する課題発見と解決手法（政策を含む）の開発・評価である。

(加藤 孝士)

専門領域は、発達心理学・教育心理学である。研究テーマは、こどもやこどもの支援に関わる人物が健康的に生活するための支援方法である。

(奥村 圭子)

専門領域は応用栄養学、臨床栄養学である。研究テーマの概要は地域保健・医療・介護・福祉の自立支援・重症化防止に関連した栄養課題の解決である。

授業のねらい

健康・栄養・食に関する、高度かつ専門的な知識と技能を理解し、説明できる。

課題を発見・設定して、その複雑・困難な課題に対して解決できる。

特別研究を通して、社会をけん引できる新たな発想を説明できる。

科学的根拠に基づき持続可能な社会の構築に向けた具体的な方策を提案できる。

科学的根拠に基づいた研究成果を発表し、修士論文を執筆できる。

到達目標

教授方法

担当指導教員を指導のもと、研究をすすめる。

研究の進行状況に合わせて、授業計画の順番を適宜変更しながらすすめる。

履修条件

ヘルス・ニュートリション特別研究Ⅰの単位を修得しておくこと。

授業計画

1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	オリエンテーション
4	オリエンテーション
5	研究ミーティング：研究計画の進行状況の確認と修正、研究データの解析、研究結果についての議論
6	研究ミーティング：研究計画の進行状況の確認と修正、研究データの解析、研究結果についての議論
7	研究ミーティング：研究計画の進行状況の確認と修正、研究データの解析、研究結果についての議論
8	研究ミーティング：研究計画の進行状況の確認と修正、研究データの解析、研究結果についての議論
9	研究ミーティング：研究計画の進行状況の確認と修正、研究データの解析、研究結果についての議論
10	論文抄読：国内外の先行研究論文の抄読。自身の研究との比較と議論
11	論文抄読：国内外の先行研究論文の抄読。自身の研究との比較と議論
12	論文抄読：国内外の先行研究論文の抄読。自身の研究との比較と議論
13	論文抄読：国内外の先行研究論文の抄読。自身の研究との比較と議論

14	論文抄読：国内外の先行研究論文の抄読。自身の研究との比較と議論
15	学会等での発表準備（プレゼン資料の準備、質疑応答準備）と発表
16	学会等での発表準備（プレゼン資料の準備、質疑応答準備）と発表
17	学会等での発表準備（プレゼン資料の準備、質疑応答準備）と発表
18	学会等での発表準備（プレゼン資料の準備、質疑応答準備）と発表
19	学会等での発表準備（プレゼン資料の準備、質疑応答準備）と発表
20	修士論文の作成
21	修士論文の作成
22	修士論文の作成
23	修士論文の作成
24	修士論文の作成
25	成果発表
26	成果発表
27	成果発表
28	成果発表

成績評価方法と基準

共通の評価基準	【S】基本的な到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果をおさめている。【A】基本的な到達目標を十分に達成している。 【B】基本的な到達目標をおおむね達成している。【C】基本的な到達目標を最低限度達成している。【F】基本的な到達目標を達成していない。再履修が必要である。		
評価項目	割合	評価基準	
成果発表	100	教育目標の達成度をもとに、最終試験（口頭試験）、公開研究発表会での発表、修士論文をもって評価する。	
合計	100		

授業外における学習（事前・事後学習等）

授業外学習で研究に必要な作業をすすめる。

質問や相談への対応

指導教員のオフィスアワーを確認すること。
質問・相談の方法は、指導教員と相談し、決めること。

教科書・テキスト

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
	必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

受講生に臨むこと

修士論文の作成にあたっては、指導教員と密に議論しながら、着実にすすめていく。
研究成果を学外の学術集会等で発表する。

その他・特記事項

社会人には履修環境を考慮し、遠隔授業（オンライン授業）を取り入れながらすすめる。
曜日・時限等の詳細は学生から教員に相談・調整すること。